0055662000

0055662-000

特264－557

青年学校教練教程

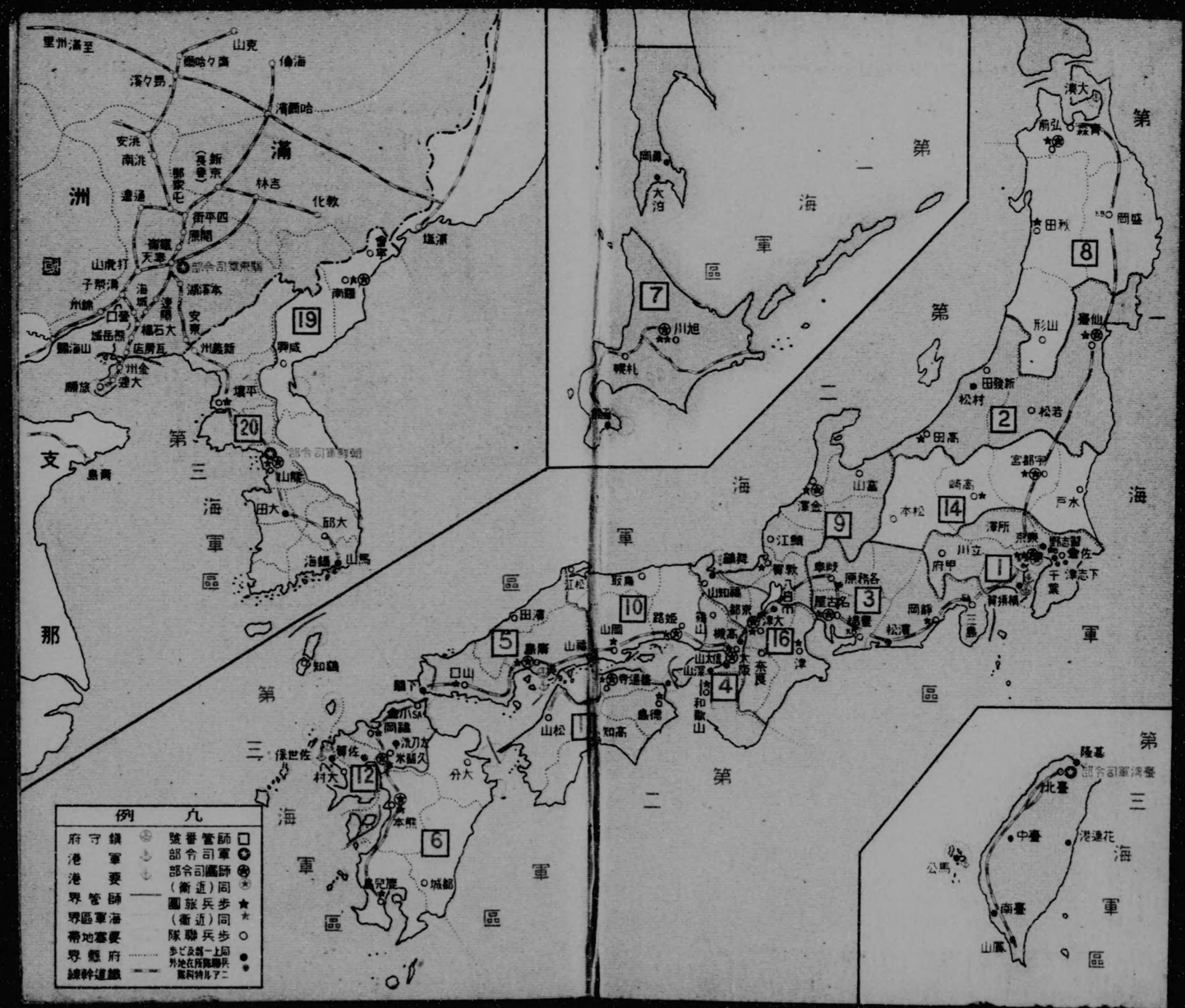
武揚社編輯部・編

武揚社書店

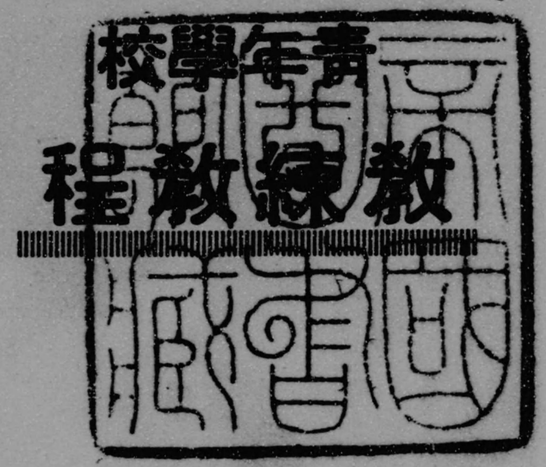
昭和１０

AJA

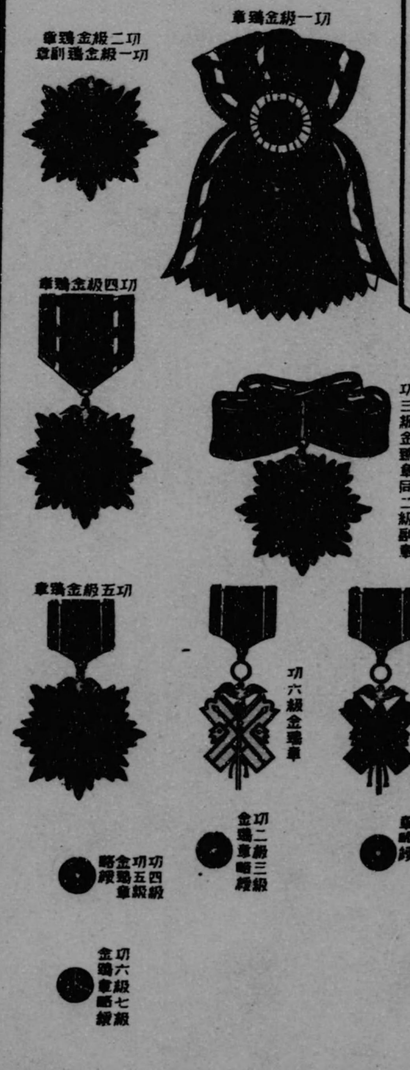
教育令改正


第一海軍區
第二海軍區
第三海軍區
滿洲國
支那
例凡
府守鎮
港軍
港要
界管師
界區軍海
帶地塞要
界縣府
線幹道鐵
號番管師
部令司軍
部令司團師
(衛近)同
團旅兵步
(衛近)同
隊聯兵步
部令司軍海臺
部令司團師
部令司軍海臺
7
19
20
8
2
14
9
1
3
10
16
5
4
12
6

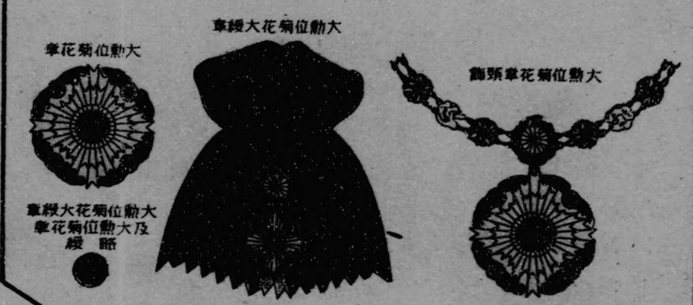
物260
557



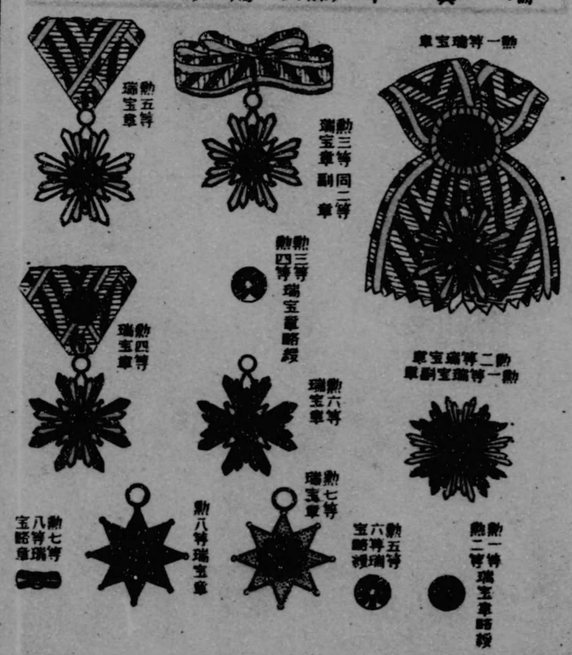
金鵄章



大勲位



瑞寶章（婦人ニ賜フ綬ハ之ヲ略ス）



旭日章

勲一等旭日桐花大綬章

勲一等旭日桐花章副章

勲一等略綬

勲一等旭日大綬章

勲二等旭日重光章

勲一等旭日副章

勲三等旭日中綬章

勲二等旭日副章

勲四等旭日小綬章

勲五等雙光旭日章

勲六等單光旭日章

勲七等青色桐葉章

勲八等白色桐葉章

旭日章略綬

雙光

單光

旭日中綬章

旭日小綬章

略綬

勲七等青色桐葉章

勲八等白色桐葉章

旭日重光章略綬

寶冠章（六等以下略ス）

勲一等寶冠章

勲二等寶冠章

勲三等寶冠章

勲四等寶冠章

勲五等寶冠章

勲一等寶冠章副章

旗章

備考　軍旗ノ圖畫ノ所ノ赤キモノヲ後備歩兵軍旗トス、騎兵軍旗ハ歩兵軍旗ニ比シ其形小ナリ

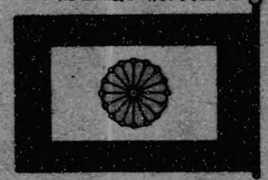
軍旗

皇太子、皇太子妃旗

天皇旗

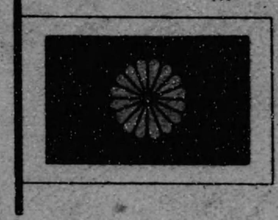
軍艦旗

親王、內親王、王親、王親、內親王、妃下旗

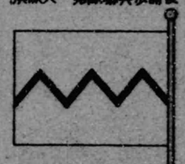


皇后、皇太后、皇太后、皇后旗

攝政旗



歩兵聯隊第一師團旗
歩兵聯隊第一大隊旗
歩兵聯隊第一大隊第一中隊旗



歩兵聯隊第二師團旗
歩兵聯隊第二大隊旗

歩兵聯隊第三師團旗
歩兵聯隊第三大隊旗

歩兵第一大隊旗
歩兵第一大隊第一中隊旗
歩兵第一大隊第二中隊旗
歩兵第一大隊第三中隊旗
歩兵第一大隊第四中隊旗

後備歩兵聯隊第一大隊旗

後備歩兵聯隊第二大隊旗

後備歩兵聯隊第三大隊旗

後備歩兵聯隊第四大隊旗

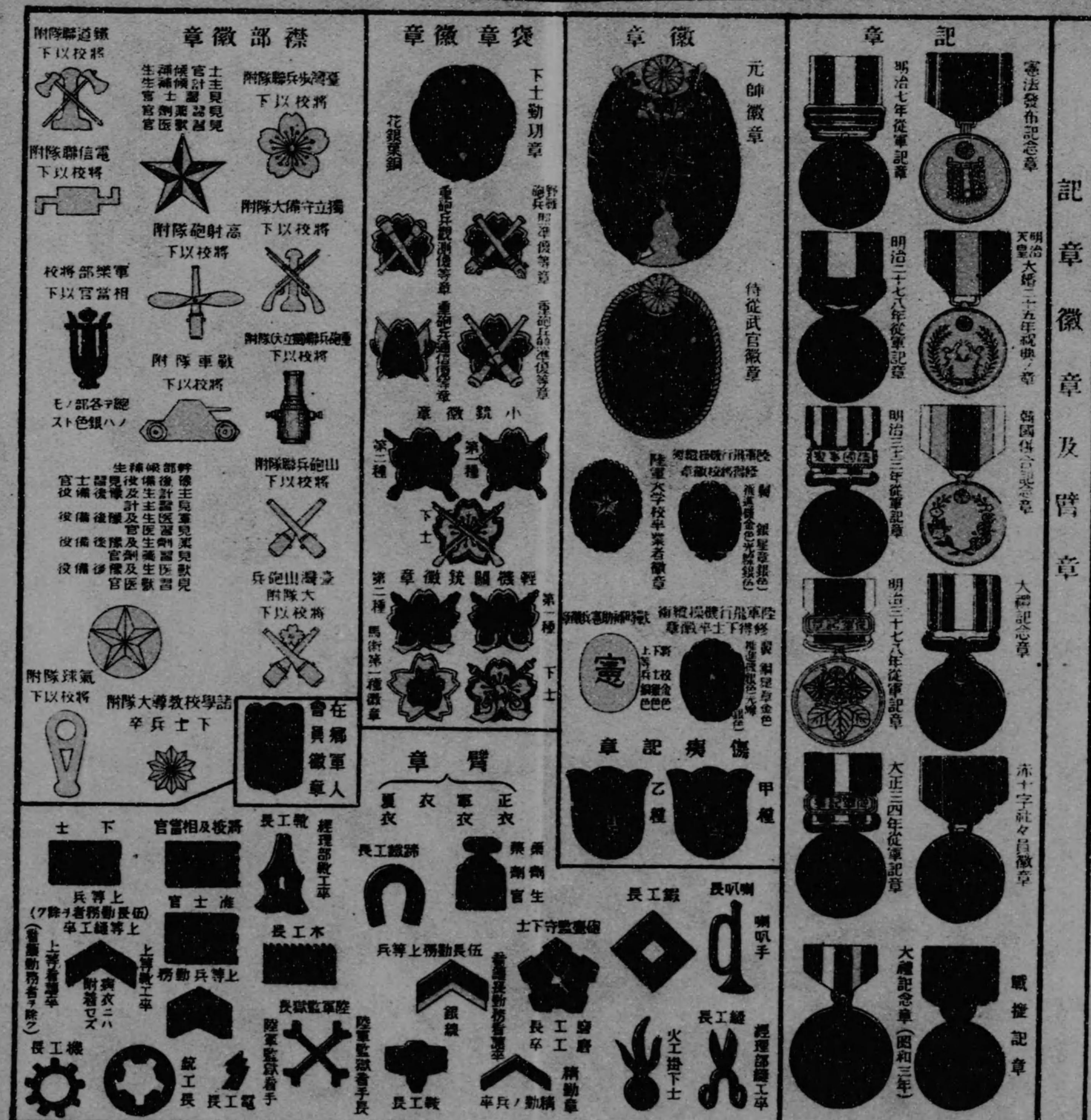
歩兵學校聯隊第一大隊旗

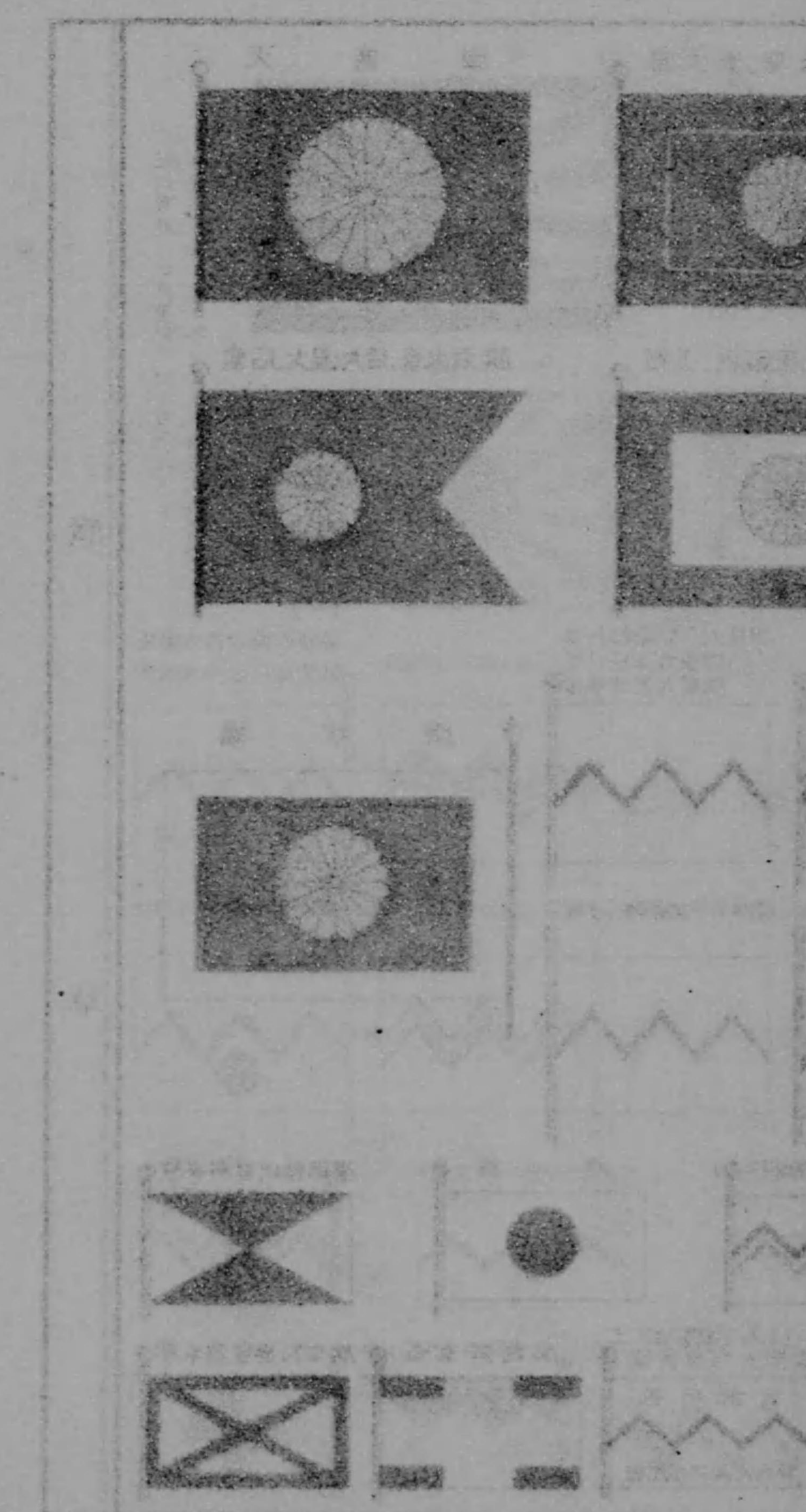
歩兵學校聯隊第二大隊旗

歩兵學校聯隊第三大隊旗

歩兵學校聯隊第四大隊旗

歩兵第一大隊第一中隊旗
歩兵第一大隊第二中隊旗
歩兵第一大隊第三中隊旗
歩兵第一大隊第四中隊旗
歩兵第一大隊第五中隊旗
歩兵第一大隊第六中隊旗
歩兵第一大隊第七中隊旗
歩兵第一大隊第八中隊旗
歩兵第一大隊第九中隊旗
歩兵第一大隊第十中隊旗
歩兵第一大隊第十一中隊旗
歩兵第一大隊第十二中隊旗
歩兵第一大隊第十三中隊旗
歩兵第一大隊第十四中隊旗
歩兵第一大隊第十五中隊旗
歩兵第一大隊第十六中隊旗
歩兵第一大隊第十七中隊旗
歩兵第一大隊第十八中隊旗
歩兵第一大隊第十九中隊旗
歩兵第一大隊第二十中隊旗
歩兵第一大隊第二十一中隊旗
歩兵第一大隊第二十二中隊旗
歩兵第一大隊第二十三中隊旗
歩兵第一大隊第二十四中隊旗
歩兵第一大隊第二十五中隊旗
歩兵第一大隊第二十六中隊旗
歩兵第一大隊第二十七中隊旗
歩兵第一大隊第二十八中隊旗
歩兵第一大隊第二十九中隊旗
歩兵第一大隊第三十中隊旗
歩兵第一大隊第三十一中隊旗
歩兵第一大隊第三十二中隊旗
歩兵第一大隊第三十三中隊旗
歩兵第一大隊第三十四中隊旗
歩兵第一大隊第三十五中隊旗
歩兵第一大隊第三十六中隊旗
歩兵第一大隊第三十七中隊旗
歩兵第一大隊第三十八中隊旗
歩兵第一大隊第三十九中隊旗
歩兵第一大隊第四十中隊旗
歩兵第一大隊第四十一中隊旗
歩兵第一大隊第四十二中隊旗
歩兵第一大隊第四十三中隊旗
歩兵第一大隊第四十四中隊旗
歩兵第一大隊第四十五中隊旗
歩兵第一大隊第四十六中隊旗
歩兵第一大隊第四十七中隊旗
歩兵第一大隊第四十八中隊旗
歩兵第一大隊第四十九中隊旗
歩兵第一大隊第五十中隊旗
歩兵第一大隊第五十一中隊旗
歩兵第一大隊第五十二中隊旗
歩兵第一大隊第五十三中隊旗
歩兵第一大隊第五十四中隊旗
歩兵第一大隊第五十五中隊旗
歩兵第一大隊第五十六中隊旗
歩兵第一大隊第五十七中隊旗
歩兵第一大隊第五十八中隊旗
歩兵第一大隊第五十九中隊旗
歩兵第一大隊第六十中隊旗
歩兵第一大隊第六十一中隊旗
歩兵第一大隊第六十二中隊旗
歩兵第一大隊第六十三中隊旗
歩兵第一大隊第六十四中隊旗
歩兵第一大隊第六十五中隊旗
歩兵第一大隊第六十六中隊旗
歩兵第一大隊第六十七中隊旗
歩兵第一大隊第六十八中隊旗
歩兵第一大隊第六十九中隊旗
歩兵第一大隊第七十中隊旗
歩兵第一大隊第七十一中隊旗
歩兵第一大隊第七十二中隊旗
歩兵第一大隊第七十三中隊旗
歩兵第一大隊第七十四中隊旗
歩兵第一大隊第七十五中隊旗
歩兵第一大隊第七十六中隊旗
歩兵第一大隊第七十七中隊旗
歩兵第一大隊第七十八中隊旗
歩兵第一大隊第七十九中隊旗
歩兵第一大隊第八十中隊旗
歩兵第一大隊第八十一中隊旗
歩兵第一大隊第八十二中隊旗
歩兵第一大隊第八十三中隊旗
歩兵第一大隊第八十四中隊旗
歩兵第一大隊第八十五中隊旗
歩兵第一大隊第八十六中隊旗
歩兵第一大隊第八十七中隊旗
歩兵第一大隊第八十八中隊旗
歩兵第一大隊第八十九中隊旗
歩兵第一大隊第九十中隊旗
歩兵第一大隊第九十一中隊旗
歩兵第一大隊第九十二中隊旗
歩兵第一大隊第九十三中隊旗
歩兵第一大隊第九十四中隊旗
歩兵第一大隊第九十五中隊旗
歩兵第一大隊第九十六中隊旗
歩兵第一大隊第九十七中隊旗
歩兵第一大隊第九十八中隊旗
歩兵第一大隊第九十九中隊旗
歩兵第一大隊第百中隊旗
歩兵第一大隊第百一中隊旗
歩兵第一大隊第百二中隊旗
歩兵第一大隊第百三中隊旗
歩兵第一大隊第百四中隊旗
歩兵第一大隊第百五中隊旗
歩兵第一大隊第百六中隊旗
歩兵第一大隊第百七中隊旗
歩兵第一大隊第百八中隊旗
歩兵第一大隊第百九中隊旗
歩兵第一大隊第百十中隊旗
歩兵第一大隊第百十一中隊旗
歩兵第一大隊第百十二中隊旗
歩兵第一大隊第百十三中隊旗
歩兵第一大隊第百十四中隊旗
歩兵第一大隊第百十五中隊旗
歩兵第一大隊第百十六中隊旗
歩兵第一大隊第百十七中隊旗
歩兵第一大隊第百十八中隊旗
歩兵第一大隊第百十九中隊旗
歩兵第一大隊第百二十中隊旗
歩兵第一大隊第百二十一中隊旗
歩兵第一大隊第百二十二中隊旗
歩兵第一大隊第百二十三中隊旗
歩兵第一大隊第百二十四中隊旗
歩兵第一大隊第百二十五中隊旗
歩兵第一大隊第百二十六中隊旗
歩兵第一大隊第百二十七中隊旗
歩兵第一大隊第百二十八中隊旗
歩兵第一大隊第百二十九中隊旗
歩兵第一大隊第百三十中隊旗
歩兵第一大隊第百三十一中隊旗
歩兵第一大隊第百三十二中隊旗
歩兵第一大隊第百三十三中隊旗
歩兵第一大隊第百三十四中隊旗
歩兵第一大隊第百三十五中隊旗
歩兵第一大隊第百三十六中隊旗
歩兵第一大隊第百三十七中隊旗
歩兵第一大隊第百三十八中隊旗
歩兵第一大隊第百三十九中隊旗
歩兵第一大隊第百四十中隊旗
歩兵第一大隊第百四十一中隊旗
歩兵第一大隊第百四十二中隊旗
歩兵第一大隊第百四十三中隊旗
歩兵第一大隊第百四十四中隊旗
歩兵第一大隊第百四十五中隊旗
歩兵第一大隊第百四十六中隊旗
歩兵第一大隊第百四十七中隊旗
歩兵第一大隊第百四十八中隊旗
歩兵第一大隊第百四十九中隊旗
歩兵第一大隊第百五十中隊旗
歩兵第一大隊第百五十一中隊旗
歩兵第一大隊第百五十二中隊旗
歩兵第一大隊第百五十三中隊旗
歩兵第一大隊第百五十四中隊旗
歩兵第一大隊第百五十五中隊旗
歩兵第一大隊第百五十六中隊旗
歩兵第一大隊第百五十七中隊旗
歩兵第一大隊第百五十八中隊旗
歩兵第一大隊第百五十九中隊旗
歩兵第一大隊第百六十中隊旗
歩兵第一大隊第百六十一中隊旗
歩兵第一大隊第百六十二中隊旗
歩兵第一大隊第百六十三中隊旗
歩兵第一大隊第百六十四中隊旗
歩兵第一大隊第百六十五中隊旗
歩兵第一大隊第百六十六中隊旗
歩兵第一大隊第百六十七中隊旗
歩兵第一大隊第百六十八中隊旗
歩兵第一大隊第百六十九中隊旗
歩兵第一大隊第百七十中隊旗
歩兵第一大隊第百七十一中隊旗
歩兵第一大隊第百七十二中隊旗
歩兵第一大隊第百七十三中隊旗
歩兵第一大隊第百七十四中隊旗
歩兵第一大隊第百七十五中隊旗
歩兵第一大隊第百七十六中隊旗
歩兵第一大隊第百七十七中隊旗
歩兵第一大隊第百七十八中隊旗
歩兵第一大隊第百七十九中隊旗
歩兵第一大隊第百八十中隊旗
歩兵第一大隊第百八十一中隊旗
歩兵第一大隊第百八十二中隊旗
歩兵第一大隊第百八十三中隊旗
歩兵第一大隊第百八十四中隊旗
歩兵第一大隊第百八十五中隊旗
歩兵第一大隊第百八十六中隊旗
歩兵第一大隊第百八十七中隊旗
歩兵第一大隊第百八十八中隊旗
歩兵第一大隊第百八十九中隊旗
歩兵第一大隊第百九十中隊旗
歩兵第一大隊第百九十一中隊旗
歩兵第一大隊第百九十二中隊旗
歩兵第一大隊第百九十三中隊旗
歩兵第一大隊第百九十四中隊旗
歩兵第一大隊第百九十五中隊旗
歩兵第一大隊第百九十六中隊旗
歩兵第一大隊第百九十七中隊旗
歩兵第一大隊第百九十八中隊旗
歩兵第一大隊第百九十九中隊旗
歩兵第一大隊第二百中隊旗
歩兵第一大隊第二百一中隊旗
歩兵第一大隊第二百二中隊旗
歩兵第一大隊第二百三中隊旗
歩兵第一大隊第二百四中隊旗
歩兵第一大隊第二百五中隊旗
歩兵第一大隊第二百六中隊旗
歩兵第一大隊第二百七中隊旗
歩兵第一大隊第二百八中隊旗
歩兵第一大隊第二百九中隊旗
歩兵第一大隊第二百十中隊旗
歩兵第一大隊第二百十一中隊旗
歩兵第一大隊第二百十二中隊旗
歩兵第一大隊第二百十三中隊旗
歩兵第一大隊第二百十四中隊旗
歩兵第一大隊第二百十五中隊旗
歩兵第一大隊第二百十六中隊旗
歩兵第一大隊第二百十七中隊旗
歩兵第一大隊第二百十八中隊旗
歩兵第一大隊第二百十九中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十一中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十二中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十三中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十四中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十五中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十六中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十七中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十八中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十九中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十一中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十二中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十三中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十四中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十五中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十六中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十七中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十八中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十九中隊旗
歩兵第一大隊第二百四十中隊旗
歩兵第一大隊第二百四十一中隊旗
歩兵第一大隊第二百四十二中隊旗
歩兵第一大隊第二百四十三中隊旗
歩兵第一大隊第二百四十四中隊旗
歩兵第一大隊第二百四十五中隊旗
歩兵第一大隊第二百四十六中隊旗
歩兵第一大隊第二百四十七中隊旗
歩兵第一大隊第二百四十八中隊旗
歩兵第一大隊第二百四十九中隊旗
歩兵第一大隊第二百五十中隊旗
歩兵第一大隊第二百五十一中隊旗
歩兵第一大隊第二百五十二中隊旗
歩兵第一大隊第二百五十三中隊旗
歩兵第一大隊第二百五十四中隊旗
歩兵第一大隊第二百五十五中隊旗
歩兵第一大隊第二百五十六中隊旗
歩兵第一大隊第二百五十七中隊旗
歩兵第一大隊第二百五十八中隊旗
歩兵第一大隊第二百五十九中隊旗
歩兵第一大隊第二百六十中隊旗
歩兵第一大隊第二百六十一中隊旗
歩兵第一大隊第二百六十二中隊旗
歩兵第一大隊第二百六十三中隊旗
歩兵第一大隊第二百六十四中隊旗
歩兵第一大隊第二百六十五中隊旗
歩兵第一大隊第二百六十六中隊旗
歩兵第一大隊第二百六十七中隊旗
歩兵第一大隊第二百六十八中隊旗
歩兵第一大隊第二百六十九中隊旗
歩兵第一大隊第二百七十中隊旗
歩兵第一大隊第二百七十一中隊旗
歩兵第一大隊第二百七十二中隊旗
歩兵第一大隊第二百七十三中隊旗
歩兵第一大隊第二百七十四中隊旗
歩兵第一大隊第二百七十五中隊旗
歩兵第一大隊第二百七十六中隊旗
歩兵第一大隊第二百七十七中隊旗
歩兵第一大隊第二百七十八中隊旗
歩兵第一大隊第二百七十九中隊旗
歩兵第一大隊第二百八十中隊旗
歩兵第一大隊第二百八十一中隊旗
歩兵第一大隊第二百八十二中隊旗
歩兵第一大隊第二百八十三中隊旗
歩兵第一大隊第二百八十四中隊旗
歩兵第一大隊第二百八十五中隊旗
歩兵第一大隊第二百八十六中隊旗
歩兵第一大隊第二百八十七中隊旗
歩兵第一大隊第二百八十八中隊旗
歩兵第一大隊第二百八十九中隊旗
歩兵第一大隊第二百九十中隊旗
歩兵第一大隊第二百九十一中隊旗
歩兵第一大隊第二百九十二中隊旗
歩兵第一大隊第二百九十三中隊旗
歩兵第一大隊第二百九十四中隊旗
歩兵第一大隊第二百九十五中隊旗
歩兵第一大隊第二百九十六中隊旗
歩兵第一大隊第二百九十七中隊旗
歩兵第一大隊第二百九十八中隊旗
歩兵第一大隊第二百九十九中隊旗
歩兵第一大隊第三百中隊旗
歩兵第一大隊第三百一中隊旗
歩兵第一大隊第三百二中隊旗
歩兵第一大隊第三百三中隊旗
歩兵第一大隊第三百四中隊旗
歩兵第一大隊第三百五中隊旗
歩兵第一大隊第三百六中隊旗
歩兵第一大隊第三百七中隊旗
歩兵第一大隊第三百八中隊旗
歩兵第一大隊第三百九中隊旗
歩兵第一大隊第三百十中隊旗
歩兵第一大隊第三百十一中隊旗
歩兵第一大隊第三百十二中隊旗
歩兵第一大隊第三百十三中隊旗
歩兵第一大隊第三百十四中隊旗
歩兵第一大隊第三百十五中隊旗
歩兵第一大隊第三百十六中隊旗
歩兵第一大隊第三百十七中隊旗
歩兵第一大隊第三百十八中隊旗
歩兵第一大隊第三百十九中隊旗
歩兵第一大隊第三百二十中隊旗
歩兵第一大隊第三百二十一中隊旗
歩兵第一大隊第三百二十二中隊旗
歩兵第一大隊第三百二十三中隊旗
歩兵第一大隊第三百二十四中隊旗
歩兵第一大隊第三百二十五中隊旗
歩兵第一大隊第三百二十六中隊旗
歩兵第一大隊第三百二十七中隊旗
歩兵第一大隊第三百二十八中隊旗
歩兵第一大隊第三百二十九中隊旗
歩兵第一大隊第三百三十中隊旗
歩兵第一大隊第三百三十一中隊旗
歩兵第一大隊第三百三十二中隊旗
歩兵第一大隊第三百三十三中隊旗
歩兵第一大隊第三百三十四中隊旗
歩兵第一大隊第三百三十五中隊旗
歩兵第一大隊第三百三十六中隊旗
歩兵第一大隊第三百三十七中隊旗
歩兵第一大隊第三百三十八中隊旗
歩兵第一大隊第三百三十九中隊旗
歩兵第一大隊第四百中隊旗
歩兵第一大隊第四百一中隊旗
歩兵第一大隊第四百二中隊旗
歩兵第一大隊第四百三中隊旗
歩兵第一大隊第四百四中隊旗
歩兵第一大隊第四百五中隊旗
歩兵第一大隊第四百六中隊旗
歩兵第一大隊第四百七中隊旗
歩兵第一大隊第四百八中隊旗
歩兵第一大隊第四百九中隊旗
歩兵第一大隊第四百十中隊旗
歩兵第一大隊第四百十一中隊旗
歩兵第一大隊第四百十二中隊旗
歩兵第一大隊第四百十三中隊旗
歩兵第一大隊第四百十四中隊旗
歩兵第一大隊第四百十五中隊旗
歩兵第一大隊第四百十六中隊旗
歩兵第一大隊第四百十七中隊旗
歩兵第一大隊第四百十八中隊旗
歩兵第一大隊第四百十九中隊旗
歩兵第一大隊第五百中隊旗
歩兵第一大隊第五百一中隊旗
歩兵第一大隊第五百二中隊旗
歩兵第一大隊第五百三中隊旗
歩兵第一大隊第五百四中隊旗
歩兵第一大隊第五百五中隊旗
歩兵第一大隊第五百六中隊旗
歩兵第一大隊第五百七中隊旗
歩兵第一大隊第五百八中隊旗
歩兵第一大隊第五百九中隊旗
歩兵第一大隊第五百十中隊旗
歩兵第一大隊第五百十一中隊旗
歩兵第一大隊第五百十二中隊旗
歩兵第一大隊第五百十三中隊旗
歩兵第一大隊第五百十四中隊旗
歩兵第一大隊第五百十五中隊旗
歩兵第一大隊第五百十六中隊旗
歩兵第一大隊第五百十七中隊旗
歩兵第一大隊第五百十八中隊旗
歩兵第一大隊第五百十九中隊旗
歩兵第一大隊第六百中隊旗
歩兵第一大隊第六百一中隊旗
歩兵第一大隊第六百二中隊旗
歩兵第一大隊第六百三中隊旗
歩兵第一大隊第六百四中隊旗
歩兵第一大隊第六百五中隊旗
歩兵第一大隊第六百六中隊旗
歩兵第一大隊第六百七中隊旗
歩兵第一大隊第六百八中隊旗
歩兵第一大隊第六百九中隊旗
歩兵第一大隊第七百中隊旗
歩兵第一大隊第七百一中隊旗
歩兵第一大隊第七百二中隊旗
歩兵第一大隊第七百三中隊旗
歩兵第一大隊第七百四中隊旗
歩兵第一大隊第七百五中隊旗
歩兵第一大隊第七百六中隊旗
歩兵第一大隊第七百七中隊旗
歩兵第一大隊第七百八中隊旗
歩兵第一大隊第七百九中隊旗
歩兵第一大隊第八百中隊旗
歩兵第一大隊第八百一中隊旗
歩兵第一大隊第八百二中隊旗
歩兵第一大隊第八百三中隊旗
歩兵第一大隊第八百四中隊旗
歩兵第一大隊第八百五中隊旗
歩兵第一大隊第八百六中隊旗
歩兵第一大隊第八百七中隊旗
歩兵第一大隊第八百八中隊旗
歩兵第一大隊第八百九中隊旗
歩兵第一大隊第九百中隊旗
歩兵第一大隊第九百一中隊旗
歩兵第一大隊第九百二中隊旗
歩兵第一大隊第九百三中隊旗
歩兵第一大隊第九百四中隊旗
歩兵第一大隊第九百五中隊旗
歩兵第一大隊第九百六中隊旗
歩兵第一大隊第九百七中隊旗
歩兵第一大隊第九百八中隊旗
歩兵第一大隊第九百九中隊旗
歩兵第一大隊第十百中隊旗
歩兵第一大隊第十百一中隊旗
歩兵第一大隊第十百二中隊旗
歩兵第一大隊第十百三中隊旗
歩兵第一大隊第十百四中隊旗
歩兵第一大隊第十百五中隊旗
歩兵第一大隊第十百六中隊旗
歩兵第一大隊第十百七中隊旗
歩兵第一大隊第十百八中隊旗
歩兵第一大隊第十百九中隊旗
歩兵第一大隊第十百十中隊旗
歩兵第一大隊第十百十一中隊旗
歩兵第一大隊第十百十二中隊旗
歩兵第一大隊第十百十三中隊旗
歩兵第一大隊第十百十四中隊旗
歩兵第一大隊第十百十五中隊旗
歩兵第一大隊第十百十六中隊旗
歩兵第一大隊第十百十七中隊旗
歩兵第一大隊第十百十八中隊旗
歩兵第一大隊第十百十九中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十一中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十二中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十三中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十四中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十五中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十六中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十七中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十八中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十九中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十一中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十二中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十三中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十四中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十五中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十六中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十七中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十八中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十九中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十一中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十二中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十三中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十四中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十五中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十六中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十七中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十八中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十九中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十一中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十二中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十三中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十四中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十五中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十六中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十七中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十八中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十九中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十一中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十二中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十三中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十四中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十五中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十六中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十七中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十八中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十九中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十一中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十二中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十三中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十四中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十五中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十六中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十七中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十八中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十九中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十一中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十二中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十三中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十四中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十五中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十六中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十七中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十八中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十九中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十一中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十二中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十三中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十四中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十五中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十六中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十七中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十八中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十九中隊旗
歩兵第一大隊第二百中隊旗
歩兵第一大隊第二百一中隊旗
歩兵第一大隊第二百二中隊旗
歩兵第一大隊第二百三中隊旗
歩兵第一大隊第二百四中隊旗
歩兵第一大隊第二百五中隊旗
歩兵第一大隊第二百六中隊旗
歩兵第一大隊第二百七中隊旗
歩兵第一大隊第二百八中隊旗
歩兵第一大隊第二百九中隊旗
歩兵第一大隊第二百十中隊旗
歩兵第一大隊第二百十一中隊旗
歩兵第一大隊第二百十二中隊旗
歩兵第一大隊第二百十三中隊旗
歩兵第一大隊第二百十四中隊旗
歩兵第一大隊第二百十五中隊旗
歩兵第一大隊第二百十六中隊旗
歩兵第一大隊第二百十七中隊旗
歩兵第一大隊第二百十八中隊旗
歩兵第一大隊第二百十九中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十一中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十二中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十三中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十四中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十五中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十六中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十七中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十八中隊旗
歩兵第一大隊第二百二十九中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十一中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十二中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十三中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十四中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十五中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十六中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十七中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十八中隊旗
歩兵第一大隊第二百三十九中隊旗
歩兵第一大隊第四百中隊旗
歩兵第一大隊第四百一中隊旗
歩兵第一大隊第四百二中隊旗
歩兵第一大隊第四百三中隊旗
歩兵第一大隊第四百四中隊旗
歩兵第一大隊第四百五中隊旗
歩兵第一大隊第四百六中隊旗
歩兵第一大隊第四百七中隊旗
歩兵第一大隊第四百八中隊旗
歩兵第一大隊第四百九中隊旗
歩兵第一大隊第五百中隊旗
歩兵第一大隊第五百一中隊旗
歩兵第一大隊第五百二中隊旗
歩兵第一大隊第五百三中隊旗
歩兵第一大隊第五百四中隊旗
歩兵第一大隊第五百五中隊旗
歩兵第一大隊第五百六中隊旗
歩兵第一大隊第五百七中隊旗
歩兵第一大隊第五百八中隊旗
歩兵第一大隊第五百九中隊旗
歩兵第一大隊第六百中隊旗
歩兵第一大隊第六百一中隊旗
歩兵第一大隊第六百二中隊旗
歩兵第一大隊第六百三中隊旗
歩兵第一大隊第六百四中隊旗
歩兵第一大隊第六百五中隊旗
歩兵第一大隊第六百六中隊旗
歩兵第一大隊第六百七中隊旗
歩兵第一大隊第六百八中隊旗
歩兵第一大隊第六百九中隊旗
歩兵第一大隊第七百中隊旗
歩兵第一大隊第七百一中隊旗
歩兵第一大隊第七百二中隊旗
歩兵第一大隊第七百三中隊旗
歩兵第一大隊第七百四中隊旗
歩兵第一大隊第七百五中隊旗
歩兵第一大隊第七百六中隊旗
歩兵第一大隊第七百七中隊旗
歩兵第一大隊第七百八中隊旗
歩兵第一大隊第七百九中隊旗
歩兵第一大隊第八百中隊旗
歩兵第一大隊第八百一中隊旗
歩兵第一大隊第八百二中隊旗
歩兵第一大隊第八百三中隊旗
歩兵第一大隊第八百四中隊旗
歩兵第一大隊第八百五中隊旗
歩兵第一大隊第八百六中隊旗
歩兵第一大隊第八百七中隊旗
歩兵第一大隊第八百八中隊旗
歩兵第一大隊第八百九中隊旗
歩兵第一大隊第九百中隊旗
歩兵第一大隊第九百一中隊旗
歩兵第一大隊第九百二中隊旗
歩兵第一大隊第九百三中隊旗
歩兵第一大隊第九百四中隊旗
歩兵第一大隊第九百五中隊旗
歩兵第一大隊第九百六中隊旗
歩兵第一大隊第九百七中隊旗
歩兵第一大隊第九百八中隊旗
歩兵第一大隊第九百九中隊旗
歩兵第一大隊第十百中隊旗
歩兵第一大隊第十百一中隊旗
歩兵第一大隊第十百二中隊旗
歩兵第一大隊第十百三中隊旗
歩兵第一大隊第十百四中隊旗
歩兵第一大隊第十百五中隊旗
歩兵第一大隊第十百六中隊旗
歩兵第一大隊第十百七中隊旗
歩兵第一大隊第十百八中隊旗
歩兵第一大隊第十百九中隊旗
歩兵第一大隊第十百十中隊旗
歩兵第一大隊第十百十一中隊旗
歩兵第一大隊第十百十二中隊旗
歩兵第一大隊第十百十三中隊旗
歩兵第一大隊第十百十四中隊旗
歩兵第一大隊第十百十五中隊旗
歩兵第一大隊第十百十六中隊旗
歩兵第一大隊第十百十七中隊旗
歩兵第一大隊第十百十八中隊旗
歩兵第一大隊第十百十九中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十一中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十二中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十三中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十四中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十五中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十六中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十七中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十八中隊旗
歩兵第一大隊第十百二十九中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十一中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十二中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十三中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十四中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十五中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十六中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十七中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十八中隊旗
歩兵第一大隊第十百三十九中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十一中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十二中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十三中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十四中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十五中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十六中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十七中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十八中隊旗
歩兵第一大隊第十百四十九中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十一中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十二中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十三中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十四中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十五中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十六中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十七中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十八中隊旗
歩兵第一大隊第十百五十九中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十一中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十二中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十三中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十四中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十五中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十六中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十七中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十八中隊旗
歩兵第一大隊第十百六十九中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十一中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十二中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十三中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十四中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十五中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十六中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十七中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十八中隊旗
歩兵第一大隊第十百七十九中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十一中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十二中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十三中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十四中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十五中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十六中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十七中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十八中隊旗
歩兵第一大隊第十百八十九中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十一中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十二中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十三中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十四中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十五中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十六中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十七中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十八中隊旗
歩兵第一大隊第十百九十九中隊旗
歩兵第一大隊第二百中隊旗
歩兵第一大隊第二百一中隊旗
歩兵第一大隊第二百二中隊旗
歩兵第一大隊第二百三中隊旗
歩兵第一大隊第二百四中隊旗
歩兵第一大隊第二百五中隊旗
歩兵第一大隊第二百六中隊旗
歩兵第一大隊第二百七中隊旗
歩兵第一大隊第二百八中隊旗
歩兵第一大隊第二百九中隊旗
歩兵第一大隊第二百十中隊旗
歩兵第一大隊第二百十一中隊旗
歩兵第一大隊第二百十二中隊旗
歩兵第一大隊第二百十三中隊旗
歩兵第一大隊第二百十四中隊旗
歩兵第一大隊第二百十五中隊旗
歩兵第一大隊第二百十六中隊旗
歩兵第一大隊第二百十七中隊旗
歩兵第一大隊第二百十八中隊旗
歩兵第一大隊第二百十九中

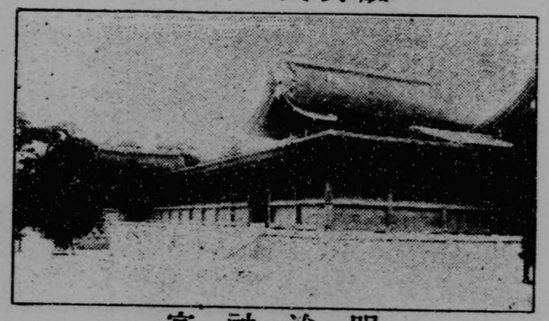

記章徽章及臂章
襟部徽章
鐵道聯隊 將校以下
電信聯隊 將校以下
士官候補生 主計候補生 見習士官 見習藥劑官 見習獸醫官
臺灣步兵聯隊 將校以下
獨立守備大隊 將校以下
高射砲隊 將校以下
軍樂部將校 相當官以下
重砲兵聯隊(獨立大隊) 將校以下
戰車隊 將校以下
總テ各部ノモノハ銀色トス
幹部候補生
豫後備役見習士官
主計生及豫後備役
見習主計
軍醫生及豫後備役
見習醫官
藥劑生及豫後備役
見習藥劑官
獸醫生及豫後備役
見習獸醫官
山砲兵聯隊 將校以下
臺灣山砲兵大隊 將校以下
氣球隊 將校以下
諸學校教導大隊 下士兵卒
在郷軍人會員徽章
袖章徽章
下士勤功章
銅葉銀花
野戰砲兵照準優等章
重砲兵觀測優等章
重砲兵通信優等章
重砲兵照準優等章
小銃徽章
第一種
第二種
下士
輕機關銃徽章
第一種
第二種
下士
馬術第一種徽章
徽章
元帥徽章
侍從武官徽章
陸軍大學校卒業者徽章
陸軍飛行機操縱術修得將校徽章
銀星章銀色
徽章金色光線銀色
陸軍飛行機操縱術修得下士卒徽章
銅星章金色
戰時補助憲兵徽章
將校金色
下士銀色
上等兵銅色
傷痍記章
甲種
乙種
臂章
正衣
軍衣
夏衣
下士
將校及相當官
准士官
上等兵(伍長勤務者ヲ除ク)
上等縫工卒
上等看護卒(看護勤務者ヲ除ク)
上等靴工卒
夏衣ニハ附着セズ
上等兵勤務
靴工長
經理部靴工卒
木工長
陸軍監獄長
陸軍監獄看守
陸軍監獄看守長
機工長
銃工長
電工長
蹄鐵工長
藥劑官
藥劑生
伍長勤務上等兵
銀線
鞍工長
砲臺監守下士
磨工 工長 工卒
精勤章
精勤ノ兵卒
鍛工長
喇叭長
喇叭手
縫工長
火工掛下士
經理部縫工卒
記章
憲法發布記念章
明治七年從軍記章
明治天皇大婚二十五年祝典ノ章
明治二十七八年從軍記章
韓國併合記念章
明治三十三年從軍記章
大禮記念章
明治三十七八年從軍記章
赤十字社々員徽章
大正三四年從軍記章
戰捷記章
大禮記念章(昭和三年)



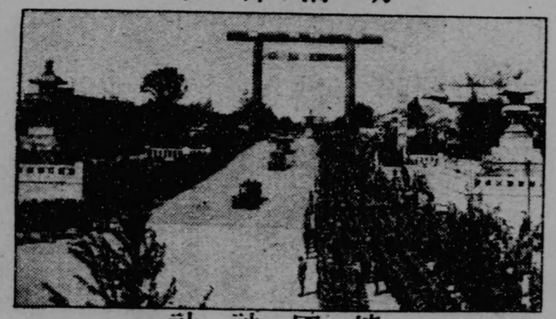
陸軍服制

帽
近衛將校以下星章
星章
高等官制服章
通常官制服章
衣
袴
大將飾帶
將官佐官帶（騎兵ヲ除ク）
將官佐官刀帶（騎兵ヲ除ク）
士官准士官（騎兵ヲ除ク）
憲兵科
工兵科（工兵第五大隊附）
經理部（輜重兵第十一聯隊附）
獸醫部
航空兵科（第三聯隊附）
氷兵科（第二聯隊大隊）
騎兵科（騎兵第六聯隊）
砲兵科（騎兵第四聯隊）
衛生部
教導學校學生
陸軍士官學校學生科生徒
肩章
大將
中將
少將
大佐
中佐
少佐
大尉
中尉
少尉
准士官
上等兵
一等兵
二等兵
備考
將校相當官及各部下士官ハモ本科ト同一トス
騎兵士官
佐官ハ刀帶ノ色赤色ト准士官ハ鎖ノ部分異ス

觀兵式ノ實況



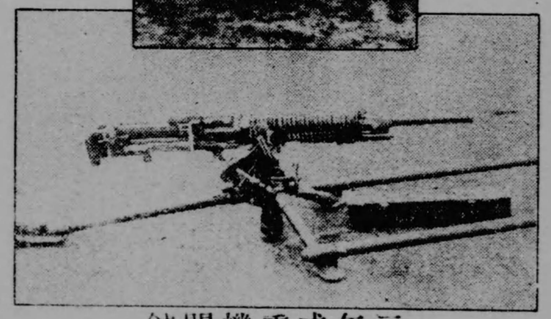
明治神宮



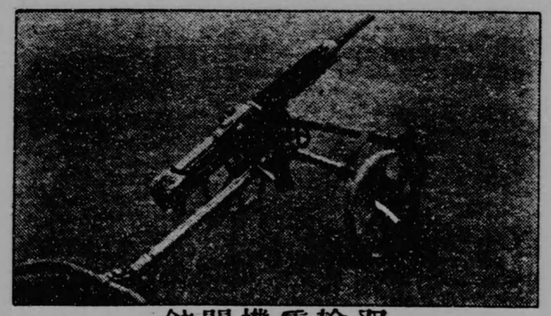
靖國神社

三脚架附輕機關銃

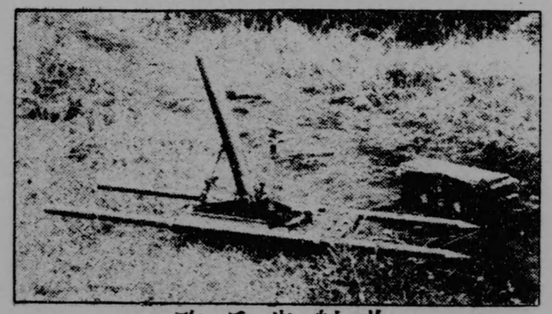
輕機關銃ノ高射姿勢



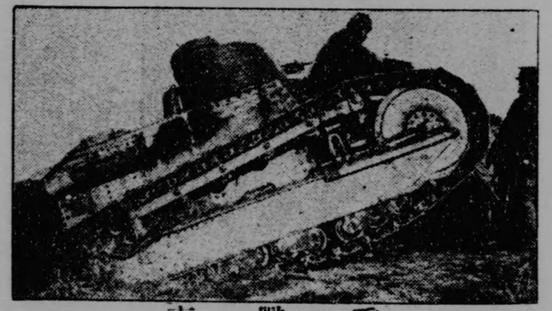
三年式重機關銃



双輪重機關銃



曲射歩兵砲



重戰車

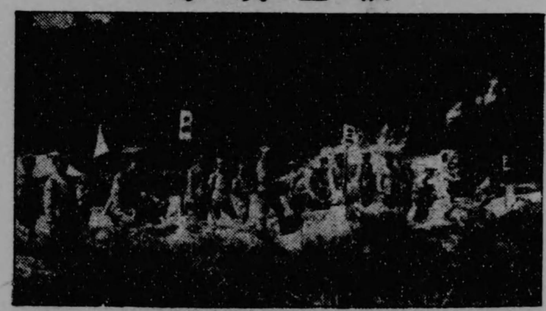
輕戰車

凝裝セル兵

防毒覆面

幕舍ノ構築

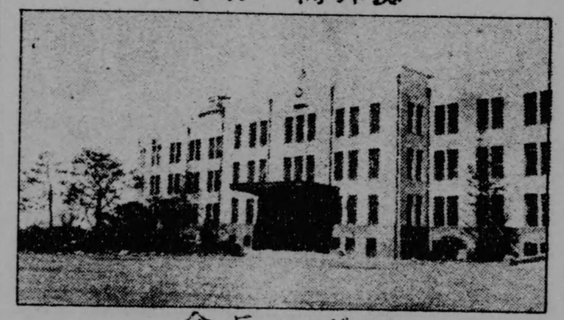
飯盒炊事



輕機關銃射擊

散兵壕ニ依ル射擊

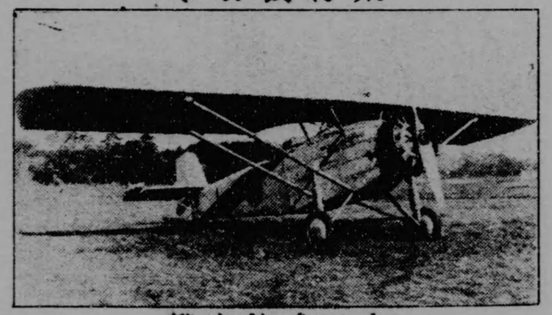
擲彈筒ノ射擊



モダン兵舍

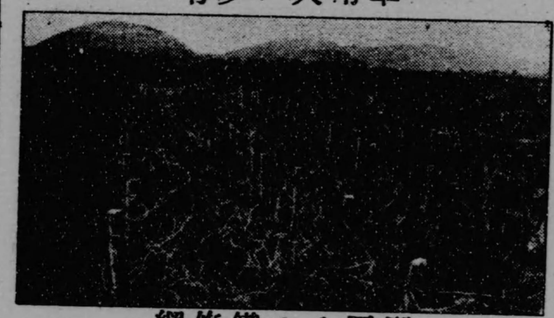
富士裾野ニ於ケル攻防演習實況

飛行機射擊



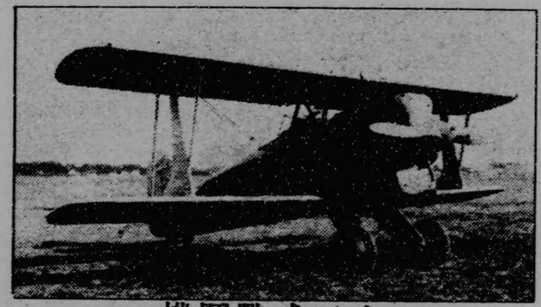
九二式偵察機

軍用犬ノ歩哨

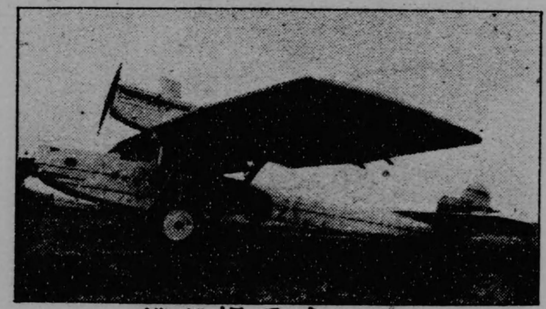


堅固ナル鐵條網

急造爆破筒ノ前進

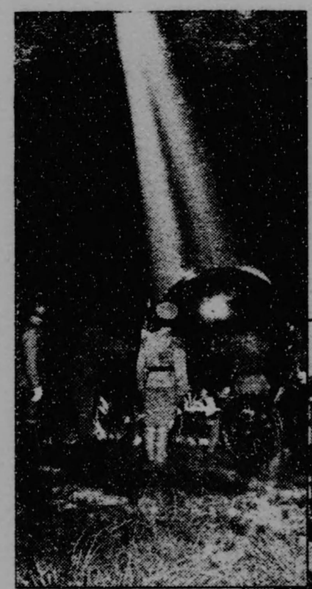


九二式戰鬪機



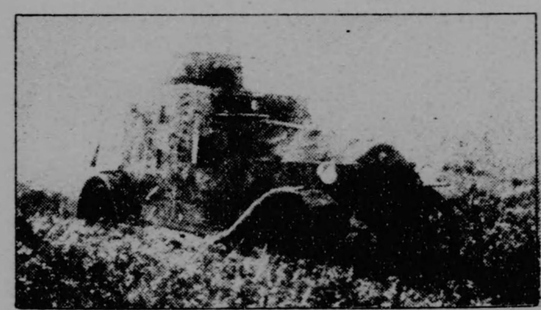
八七式重爆擊機

八八式輕爆擊機



照空燈

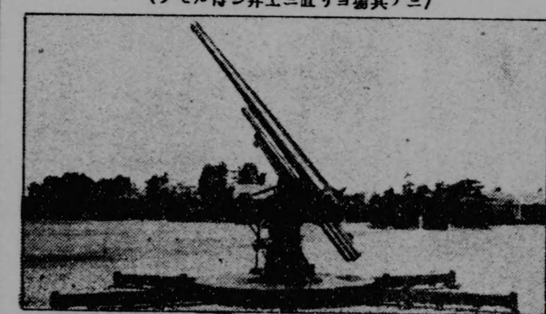
聽音機



裝甲自動車

八八式野戰高射砲

オートヂャイロ機
(滑走スルトナクナトコルスラペロプノ部上ニ直リヨ場其テニ昇シ得ルモノ)



高射砲

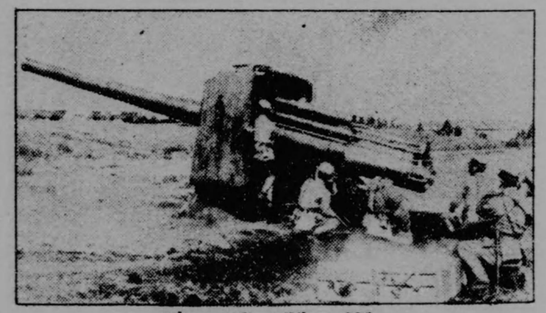
繫留氣球

騎兵ノ橋梁通過

野砲兵ノ行進

山砲

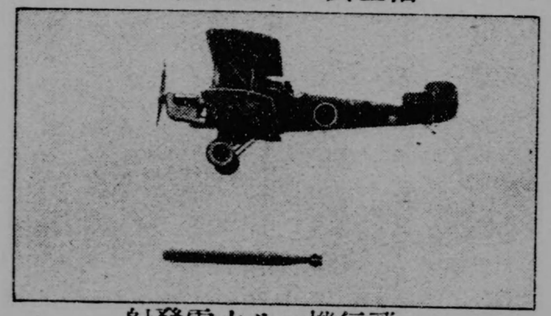
重砲



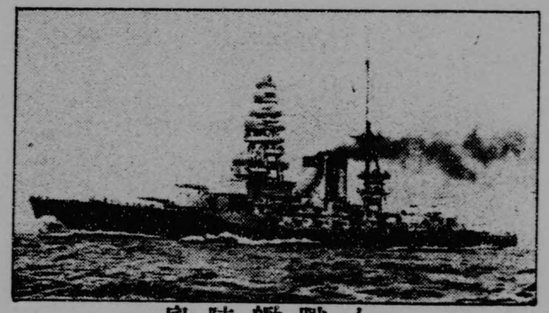
野戰重砲

工兵ノ架橋

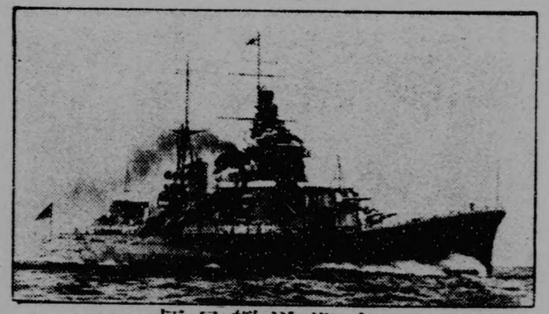
輜重兵ノ軍需品輸送



飛行機ヨリ水雷發射



奥陸艦戦大



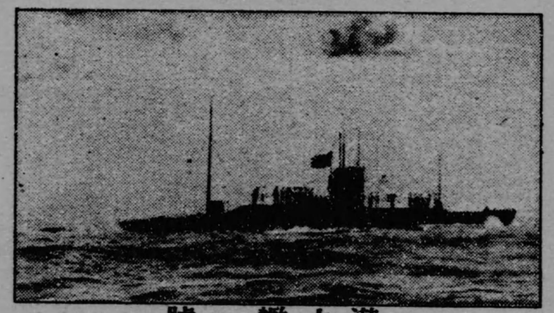
柄足艦洋巡大

リギマア艦逐驅

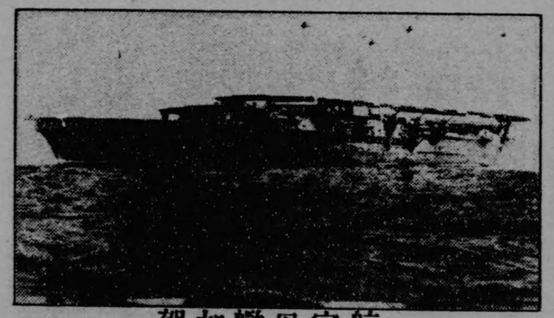
列國ノ陸軍比較

國名／區分	臼	露	英	米	佛	伊	獨
陸軍型飛行機	800	2.200	1.500（空軍省ノモノ）	1.800	3.000	1.500（空軍ノモノ）	條約ニ依リ軍用飛行隊編成ヲ禁止セラレアルモ民間飛行機ノ發達ハ列國ニ卓越ス
高射砲數	60	砲數不詳	48（外ニ地方軍三旅（砲數不詳））	200（外ニ高射機關銃四八〇）	（四經隊ト三隊（砲數不詳））	140	28
戰車數（內ハ裝甲自動車輛數ヲ示ス）	60	1.500（多數）	220（200）	500（200）	1.500（詳不數輛率）	120（50）	條約ニ依リ編成ヲ禁止セラレアリ
平時兵力（約）	23万	130万	34万	32万	56万	35万	警察隊十五万ヲ含ム 25万

潛水母艦ト潛水艦

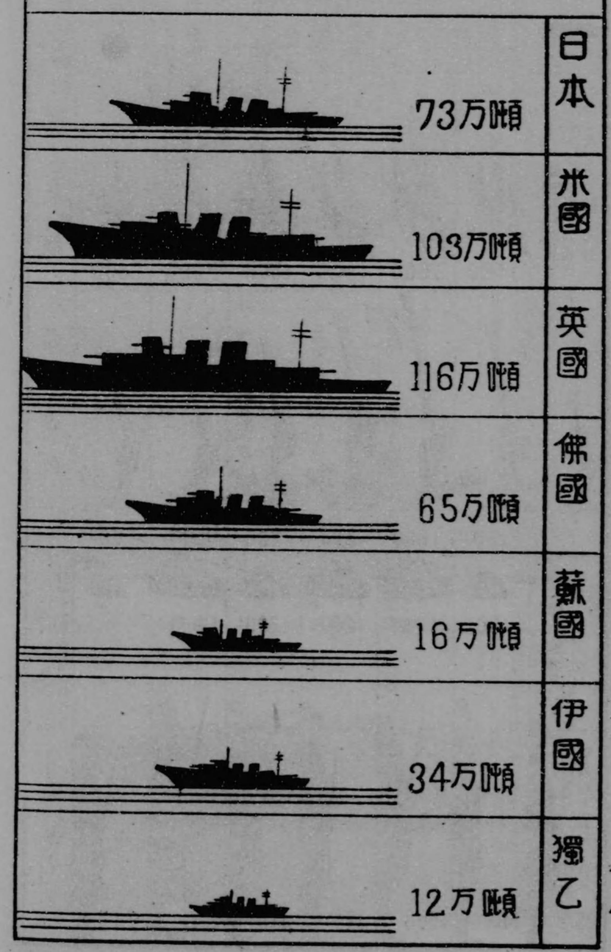


潛水艦ロ號



賀加艦母空航

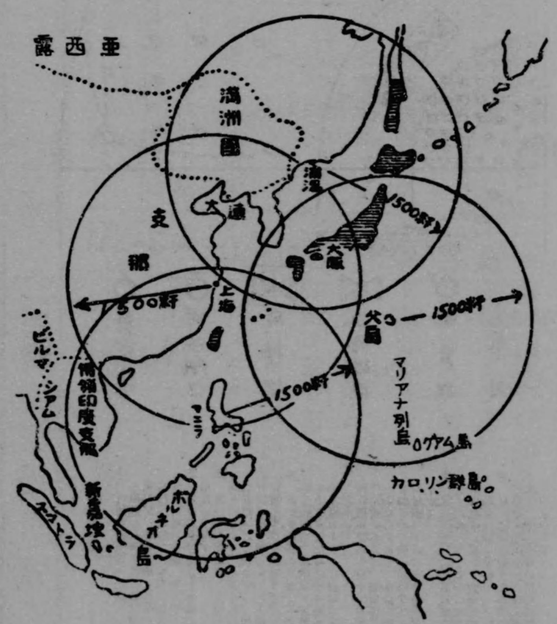
列國ノ海軍比較



爆撃機行動半徑要圖

場運手段を搭載し夫れを敵地に投下し其の根據地に歸還する場合を示す。

但し生還を期せず活躍する場合には本圖の二倍の地域に擴大せらる。



緒言

一、本教程編纂ノ目的ハ教育者ノタメニ教育上ノ指針タラシムルト共ニ生徒ヲシテ動作ノ目的精神其他實施要領ヲ了解セシメ教練ノ目的ヲ達成スルニ遺憾ナカラシムルニアリ

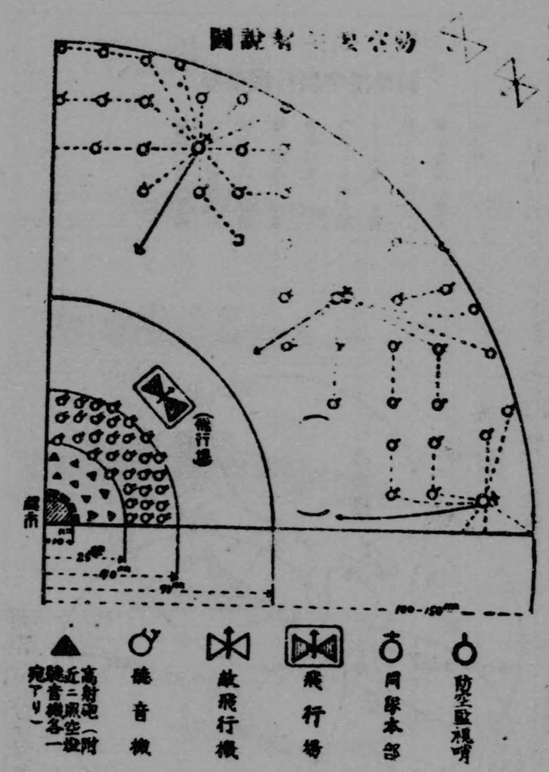
一、卷頭ニ勅諭及數葉ノ挿圖其他教練實施上ノ重要事項ヲ總則トシテ記述シ第一部ヲ教練第二部ヲ軍事講話トシ相互密接ニ連繫ヲ保タシメタリ

一、教育者ヲシテ教練實施ニ當リ各種ノ典範令其他參考書ヲ繙讀スルノ煩ヲ避ケシムルタメ教練ニ必要ナル事項ハ各種典範令ヨリ拔萃シ且ツ教育上ノ著眼乃至教育スヘキ要點教育科目ノ目的精神ヲ記述セリ

一、記述ノ順序ハ各部ヲ通シテ一連ノ條項番號ヲ附シ努メテ寫眞其他ノ圖解ヲ挿入シ且ツ製本形式ヲ縮少シ使用ニ便ナラシメタリ

昭和十年六月

編者識



防空要塞概況圖

(1) 百野乃至百五十野方ハ防空監視哨ニ配置された防空監視哨ハ、敵機を見付け本部へ報告し、本部は更に之を防空司令部へ報告する。

(2) 防空司令部は之を各隊並市民に警報する。

(3) 我が飛行機は夜に出撃し敵を攻撃する。夜間なれば照空燈が之に協力する。照空燈は敵機の方向を照射する。飛行機の方向を照射する。

(4) 我が飛行機は高射砲で撃墜される。夜間は照空燈と聽音機の協力すること前項の通りである。

(5) 特に照空燈の十分きかぬ曇夜には、聽音機と高射砲とが、多數の敵機の進路を定め、高射砲は夫れに基き待ち撃をする。

(6) 筑波山の外周には更に鉄條網の防禦工作を施し中に高射砲陣地を設けて敵飛行機の侵入を防ぐ。

管制並に敵襲を聽すため敵襲警報を行ひ且消防、救護隊等の活動に依り損害を最小限とする。

勅諭（明治十五年一月四日明治天皇より賜る）

我國の軍隊は世々天皇の統率し給ふ所にそある昔神武天皇躬つから大伴物部の兵ともを率ゐ中國のまつろはぬものともを討ち平け給ひ高御座に即かせられて天下しろしめし給ひしより二千五百有餘年を經ぬ此間世の樣の移り換るに隨ひて兵制の沿革も亦屢なりき古は天皇躬つから軍隊を率ゐ給ふ御制

謹解

我が國の軍隊は、神武天皇以來今日まで、天皇が直接指揮遊ばされた所であつて、此事は未來永遠に變る事はない。昔神武天皇御自身に大伴、物部氏の一族の軍隊を御率ゐになり九州を御出發になりて、近畿地方の天皇の御政事に從はぬ者達を平らげたまひて、大和の橿原の宮で天皇の御位に即かせられ、日本帝國を治められてより二千五百餘年經つた。此間我が國の有樣が移り變るに從ひ、軍隊の制度も度々變つた。昔は天皇御自身で軍隊を御指揮なされる定めになつてをり、時には皇后

にて時ありては皇后皇太子の代らせ給ふこともありつれと大凡兵權を臣下に委ね給ふことはなかりき中世に至りて文武の制度皆唐國風に倣はせ給ひ六衛府を置き左右馬寮を建て防人なと設けられしかは兵制は整ひたれとも打續ける昇平に狃れて朝廷の政務も漸文弱に流れければ兵農おのつから二に分れ古の徴兵はいつとなく壯兵の姿に變り遂に武士となり兵馬の權は

皇太子が御代理せられることもあつたが、如何なることがあつても、軍隊を指揮する權力を臣民に御委せになられたことは絶對になかつた。中世（大化の頃から武家が政治を執りし世迄）になつて文武の制度が皆支那の國の有様に習はれ、左近衛、右近衛、左衛門、右衛門、左兵衛、右兵衛と云ふ軍務を司る六つの役所を置き、左馬寮、右馬寮の馬を司る役場を置き、九州には防人とて外敵の防禦をする軍隊などを設けられたから、軍隊の制度は整ふたけれども、打ち續く天下の泰平になれて朝廷の政事も段々はでやかになり柔弱となつたから、兵士と農民との二つの階級に分れて昔の國民皆兵の制度は壯兵と云ふ專門の委に變り、遂に武士となり、軍隊の指揮命令す

一向に其武士ともの棟梁たる者に歸し世の亂と共に政治の大權も亦其手に落ち凡七百年の間武家の政治とはなりぬ世の様の移り變りて斯なれるは人力もて挽回すへきにあらすとはいひなから且は我國體に戻り且は我祖宗の御制に背き奉り淺間しき次第なりき降りて弘化嘉永の頃より德川の幕府其政衰へ剩外國の事とも起りて其侮をも受けぬへき勢に迫り

る權力は專ら其武士共の頭の者の手に移り、世の中が亂れると共に政治を行ふ大なる權力まで其武士の手に移つて了ひ、源氏、平氏、足利、織田、豐臣、德川と凡そ七百年の間、武家の政治となつたのである。

世の中が段々變つてゆく内にかうなつたことは、人の力で元へ挽きかへすわけには行かぬが、夫れでは我國體に違ひ又一方に於ては御先祖の御定めになられた所に背き奉つて實に淺ましい次第であつた。其後弘化、嘉永の頃から德川幕府の政事が衰へ、其上に外國の問題きへ起つて外國からの侮をも受けかねない

けれは朕か皇祖仁孝天皇皇考孝明天皇いたく宸襟を惱し給ひしこそ忝くも又惶けれ然るに朕幼くして天津目嗣を受けし初征夷大將軍其政權を返上し大名小名其版籍を奉還し年を經すして海内一統の世となり古の制度に復しぬ是文武の忠臣良弼ありて朕を輔翼せる功績なり歴世祖宗の專蒼生を憐み給ひし御遺澤なりといへとも併我臣民の其心に順逆

やうな有様に立ち至つたから、朕の皇祖仁孝天皇、皇考孝明天皇は非常に御心配になられた事は誠に恐れ多い極みである。然るに朕が幼少で天子の御位を受けついだ初め、征夷大將軍が其政權を返して來、大名も小名も其領地を返して、數年ならずして天下は統一せられ昔の通りの制度に復した。之は忠良なる文武の良臣があつて朕を輔佐してくれた手柄もあり、又代々の天皇が人民を御愛し遊ばされた御恩德にも依るとは申しながら、我が臣民の心の底に順逆の道理を辨へて、政治は天皇

の理を辨へ大義の重きを知れるか故にこそあれされは此時に於て兵制を更め我國の光を耀さんと思ひ此十五年か程に陸海軍の制をは今の様に建定めぬ夫兵馬の大權は朕か統ふる所なれは其司々をこそ臣下には任すなれ其大綱は朕親之を攬り肯て臣下に委ぬへきものにあらす子々孫々に至るまて篤く斯旨を傳へ天子は文武の大權を掌握するの義を存して再中世以降

の執らせ給ふことであり、陛下の赤子たる人民の私すべきものではないと云ふ大義名分の分別が正しかつた爲である。だから此時に軍隊の制度を改良して我國の光を輝かさうと思ひ、此十五年間に陸海軍の制度を今の様に定めたのである。思ふに、陸、海軍統率の大權は朕が統べくゝつてをる所のものであるから其一部一部の細い役は臣下に委すけれども、其大本は朕自ら之を執りて、決して臣下に委すべきものではない。汝等の子々孫々に至るまで十分によく此精神を傳へて、天皇は文武の大權を握つてゐるものであること銘心せし

の如き失體なからんことを望むなり朕は汝等軍人の大元帥なるそれは朕は汝等を股肱と頼み汝等は朕を頭首と仰きてそ其親は特に深かるへき朕か國家を保護して上天の恵に應し祖宗の恩に報いまゐらする事を得るも得さるも汝等軍人か其職を盡すと盡さゝるとに由るそかし我國の稜威振はさることあらは汝等能く朕と其憂を共にせよ我武維揚りて其榮を耀さは朕汝

めて二度と中世以後の様な間違のないやうにしたいものである。朕は汝等軍人の大元帥であるぞよ。だから朕は汝等を自分の手足と思ふて信頼してをり、汝等は又朕を頭と仰いでこそその親しみは殊に深いのである。朕が國家を守つて神の恵みに應へ奉り、御先祖代々の高恩に報いまゐらす事が出來るのも出來ないのも、汝等軍人が其職を盡すか盡さないかに依るものである。若し我が國の威光が上らないことがあれば、汝等は朕と共に心配をせよ。又我國の武威が揮げば朕は汝等と共に其

等と其譽を偕にすへし汝等皆其職を守り朕と一心になりて力を國家の保護に盡さは我國の蒼生は永く太平の福を受け我國の威烈は大に世界の光華ともなりぬへし朕斯も深く汝等軍人に望むなれは猶訓諭すへき事こそあれいてや之を左に述へむ

一軍人は忠節を盡すを本分とすへし凡生を我國に稟くるもの誰かは國に報ゆるの心なかるへき況

譽を受けるであらう。汝等軍人が皆其職を守り、朕と心を合せて國家を護ることに力を盡せば我が國の人民は永く泰平の幸福を受け、我國のすさまじい威光は大いに世界に光を放つであらう。朕は斯く迄深く汝等軍人に希望をかけてをるのであるから、尚教へ諭すべき事がある。これからそれを述べよう。

一、軍人は忠節を盡すのを以て本分とせねばならぬ。凡そ我が國に生れた者は誰でも國の恩に報ゆるといふ、心のない者はなから

して軍人たらん者は此心の固からでは物の用に立ち得へしとも思はれす軍人にして報國の心堅固ならされは如何程技藝に熟し學術に長するも猶偶人にひとしかるへし其隊伍も整ひ節制も正くとも忠節を存せさる軍隊は事に臨みて烏合の衆に同かるへし

抑國家を保護し國權を維持するは兵力に在れは兵力の消長は是國運の盛衰なることを辨へ世ら。まして軍人たる者は此心がしつかりして居なければ戰の用には立たない。軍人であつて國に報ゆる心がしつかりしてをらなければ、どれ程業が巧に出來、學術が秀れてをつても人形と變らない。其隊伍もよくとゝのひ、きまりが正しくとも、忠節のない軍隊は烏の集りに等しく、何の役にも立たない。抑、國を守り國家の權力を保つて行くのは軍隊の力に依るものであるから、軍隊の良否は即ち是れ國家の盛衰であることをよく辨へ、世の中のいろ〳〵の議論に

論に惑はす政治に拘らす只々一途に己か本分の忠節を守り義は山嶽よりも重く死は鴻毛よりも輕しと覺悟せよ其操を破りて不覺を取り汚名を受くるなかれ

一軍人は禮儀を正くすへし凡軍人には上元帥より下一卒に至るまて其間に官職の階級ありて統屬するのみならす同列同級とても停年に新舊あれは新任の者は舊任のものに服從すへきものそ下迷はされず、政治にかゝはることなく、唯一生懸命に自分の本分たる忠節を守り、國を守る責任觀念は山よりも重く心得、國の爲に命を捨てねばならぬ時は、死を鳥の毛よりも輕く覺悟しなければならぬ。その清き自分の良心を破り軍人の名譽を汚すやうなことがあつてはならぬ。

一軍人は禮儀を正しくせねばならぬ。凡そ軍人には上は元帥から、下は一兵に至るまで夫れ〳〵役目の上下があつて、下級者は上級者より指揮を受けるばかりでなく、同じ列、同じ級でも年限に古い新しいがあるから、新しい者は古い者に從はねばならぬ。

級のものは上官の命を承ること實は直に朕か命を承る義なりと心得よ己か隷屬する所にあらすとも上級の者は勿論停年の己より舊きものに對しては總へて敬禮を盡すへし又上級の者は下級のものに向ひ聊も輕侮驕傲の振舞あるへからす公務の爲に威嚴を主とする時は格別なれとも其外は務めて懇に取扱ひ慈愛を專一と心掛け上下一致して

下級の者は上官の命令を承る際には、實は之は朕の命令を承るものであると心得よ。自分の直接つき從つてをらない者でも、上級の者は勿論、年限の古い者に對しては何事に依らず敬禮を盡さねばならぬ。又上級の者は下級者に對して少しでもかろんじ、あなどり、或はたかぶつた行があつてはならぬ。公務の爲に威嚴を主とする時は格別であるが、其外は出來るだけ懇切に取扱ひよく部下を可愛がつてやり、上下の者が一

王事に勤勞せよ若軍人たるものにして禮儀を紊り上を敬はす下を惠ますして一致の和諧を失ひたらんには啻に軍隊の蠹毒たるのみかは國家の爲にもゆるし難き罪人なるへし

一軍人は武勇を尚ふへし夫武勇は我國にては古よりいとも貴へる所なれは我國の臣民たらんもの武勇なくては叶ふまし況して軍人は戰に臨み敵に當るの職なれ

強しで皇國の爲に勤めよ。若し軍人であつて禮儀を亂つて、上級の者を敬はず、下の者を可愛がらず、一致團結を破るやうなことがあれば、たゞに軍隊の爲に毒虫であるばかりでなく、國家の爲にも許すことの出來ぬ罪人である。

一軍人は武勇を尚ばねばならぬ。武勇は我國では昔よりとりわけ大切に尚んだ所であるから、我國の國民たる者は武勇がなくてはならない。まして軍人は戰場に出て敵を鏖すのが役目であるから、少しの間でも武勇

は片時も武勇を忘れてよかるへきかさはあれ武勇には大勇あり小勇ありて同からす血氣にはやり粗暴の振舞なとせんは武勇とは謂ひ難し軍人たらむものは常に能く義理を辨へ能く膽力を練り思慮を煉して事を謀るへし小敵たりとも侮らす大敵たりとも懼れす己か武職を盡さむこそ誠の大勇にはあれされは武勇を尚ふものは常々人に接るには溫和を心掛ける事を忘れてはならぬ。然しながら、武勇には大勇と云つて眞の勇氣と、小勇と云つてつけ元氣とがある。若氣の至りで荒々しい行をなすなどは武勇ではない。軍人たる者は常によく人として勉むべきすぢみちを辨へ、大膽に底力を鍛へ、末の末まで能く考へた上で何事も手をつけるやうにせねばならぬ。小敵であるからと云つて之を侮ることなく、又大敵であつても之を恐れず、軍人としての職務を盡すのこそ誠の大勇である。だから武勇を尚ぶ者は平常人と交るには、おとなしく交り、皆から

を第一とし諸人の愛敬を得むと心掛けよ由なき勇を好みて猛威を振ひたらは果は世人も忌嫌ひて豺狼なとの如く思ひなむ心すへきことにこそ

一軍人は信義を重んすへし凡信義を守ること常の道にはあれとわきて軍人は信義なくては一日も隊伍の中に交りてあらんこと難かるへし信とは己か言を踐行ひ義とは己か分を盡すをいふなり

愛し敬はれるやうにならねばならぬ。故のない勇を好んで威張りちらすと、終ひには世の中の人から嫌はれて、狼のやうに思はれるやうになるから、よく〳〵注意せねばならぬ。

一軍人たる者は信義を重んじなければならぬ凡そ信義を守ることは當り前の事であるが取りわけ軍人は信義がなくては、一日も軍隊の中にあつて人と交つて行くことは出來ない。信と云ふのは、自分の云つた事は必ず之を實行し、義とは自分の爲すべき事は必ず之を爲すことをいふのである。故に信

されは信義を盡さむと思はゝ始より其事の成し得へきか得へからさるかを審に思考すへし朧氣なる事を假初に諾ひてよしなき關係を結ひ後に至りて信義を立てんとすれは進退谷りて身の措き所に苦むことあり悔ゆとも其詮なし始に能く事の順逆を辨へ理非を考へ其言は所詮踐むへからすと知り其義はとても守るへからすと悟りなは速に止る

義を盡さうと思へば、始めに十分其事が出來得るか得ないかをくわしく考へねばならぬ。あやしげな事をうつかり受合つて、つまらぬ關係を結んで後で信義を立てやうとすれば、どうすることも出來なくなつて、身のおき所に苦しむことがある。悔んでも致方がない。最初によく〳〵其事が正しいか否かを知り、道にかなつてをるかどうかを考へ、其事がとても實行が出來ないと知り、その義理はとても守ることが出來ないと悟つたら直ちにやめるのがよい。昔から

こそよけれ古より或は小節の信義を立てんとて大綱の順逆を誤り或は公道の理非に踏迷ひて私情の信義を守りあたら英雄豪傑ともか禍に遭ひ身を滅し屍の上の汚名を後世まで遺せること其例尠からぬものを深く警めてやはあるへき

一軍人は質素を旨とすへし凡質素を旨とせされは文弱に流れ輕薄に趨り驕奢華靡の風を好み遂に

或は詰らぬ義理を立てやうとして正しい道を誤り、或は大なる義理を取り違へて私事の小さい義理を立て、惜しむべき英雄豪傑どもが災難にあつて身を滅ぼし、死んだ後まで惡名を後世まで殘した事は其例は少くない。深く氣を附けなければならぬ。

一軍人たる者は質素でなければならぬ。凡そ質素を旨としなければ弱くなり、浮調子になり、おごり、派手になり、遂には汚なく

は貪汚に陥りて志も無下に賤くなり節操も武勇も其甲斐なく世人に爪はしきせらるゝ迄に至りぬべし其身生涯の不幸なりといふも中々愚なり此風一たび軍人の間に起りては彼の傳染病の如く蔓延し士風も兵氣も頓に衰へぬべきこと明なり朕深く之を懼れて曩に免黜條例を施行し略此事を誡め置きつれと猶も其惡習の出んことを憂ひて心安か

なつて心も非常にいやしくなり、操も武勇もその甲斐なく、世の人に爪はじきせられるやうになつてしまふ。自分一生涯の不幸ばかりでなく、此風が一度軍人の間に起つては傳染病のやうに廣がり、軍人としての氣風が全くなくなつてしまふ。朕は非常に之を心配して、前に免黜條例を出して戒めておいたけれども、夫でも猶此惡い風習が出はせぬかと思ふて心配だから、此上にも

らねは故に又之を訓ふるそかし汝等軍人ゆめ此訓誡を等閑になおもひそ

右の五ヶ條は軍人たらんもの暫も忽にすへからすさて之を行はんには一の誠心こそ大切なれ抑此五ヶ條は我軍人の精神にして一の誠心は又五ヶ條の精神なり心誠ならされは如何なる嘉言も善行も皆うはへの裝飾にて何の用にかは立つへき心たに誠あれは何事も成

更に訓へるのである。汝等軍人は此教へをあだおろそかに思つてはならぬ。

右の五ヶ條は、軍人たる者は暫くの間も忘れてはならぬ。さて之を行ふには一つの誠心が大切である。抑、此五ヶ條は我が軍人の精神であつて、一つの誠心は又五ヶ條の精神である。心が誠でないと、どんなよい言葉も善い行ひも皆上べのかざりで、何の役にも立たない。心さへ誠であつたら、何事も出來るもの

るものそかし況してや此五ケ條は天地の公道人倫の常經なり行ひ易く守り易し汝等軍人能く朕か訓に遵ひて此道を守り行ひ國に報ゆるの務を盡さば日本國の蒼生擧りて之を悅ひなん朕一人の懌のみならんや

明治十五年一月四日

御名御璽

である。況してや此五ケ條は世の中の正しい道であり、人として當然ふみ行はねばならぬ道である。行ひ易く又守り易い。汝等軍人はよく朕の訓へに從つて、此道を守り行ひ國に報いる努めを盡したら、日本の國民は皆之を喜ぶであらう。朕一人の喜びばかりではない

勅諭

（昭和元年十二月二十八日陛下御踐祚ニ付陸海軍人ニ賜ハル）今上

朕祖宗ノ威靈ニ賴リ萬世一系ノ大統ヲ嗣クニ臨ミ朕カ股肱タル陸海軍人ニ告ク

惟フニ皇祖考夙ニ汝等軍人ニ聖訓ヲ降シ給ヒ皇考亦申ネテ聖諭ヲ垂レ給ヘリ汝等軍人眷々服膺シ克ク匪躬ノ節ヲ效シ盡忠報國ノ偉績ヲ建テタリ朕ハ先朝ノ慈育愛撫シ給ヘル軍隊

勅諭謹解

朕ハ御先祖ノ御威光ニ依ツテ萬世一系ノ天皇ノ位ニツクニ際シテ、朕ノ手足ト頼ム陸海軍人ニ告ゲル。

思フニ明治天皇ハ、サキニオ前等ニ勅諭ヲ降シ給ヒ大正天皇モ又重ネテ御訓ヲ下シ給フタ汝等軍人ハヨク此教ヲ守リ行ヒ、皇室ニ忠義ヲ盡シ國恩ニ報イル大キナ功績ヲ立テタ。

朕ハ御先代ガ御慈シマレタマヒテ御育テニナラレタル軍隊デアルコトヲ思ヒ、切ニ汝等軍

チ念ヒ切ニ汝等軍人ノ忠誠勇武ニ信倚シ列聖ノ遺業ヲ紹述シ倍々國威ヲ顯揚シ億兆ノ慶福ヲ增進セムコトヲ翼フ

汝等軍人其レ克ク朕カ意ヲ體シ先朝ノ訓諭ニ遵由シ審ニ宇内ノ大勢ヲ察シ深ク時世ノ推移ニ鑒ミ切磋砥礪愈々操守ヲ固クシ一意奉公ノ至誠ヲ擢テ以テ宏猷ヲ扶翼セムコトヲ期セヨ

昭和元年十二月二十八日

御名御璽

人ノ忠誠勇武ニ信賴シ、御先祖代々ノ御遺ザレ給フタ事業ヲ受ケツイデ、益〻國家ノ威光ヲ揚ゲ現ハシ、人民ノ幸福ヲ增シ進メテ行クコトヲ希ツテヲル。

汝等軍人ハヨク朕ノ心ヲ察シ御先代ノ御教ニ從ヒ、十分ニ世界ノ大勢ヲ察シ、深ク時世ノ移リ變リヲ考ヘ、一生懸命ニ勉勵シ益〻身ノ守リヲ固クシ一心ニ奉公ノ誠心ヲ以テ天皇ノ御事業ヲ扶ケンコトヲ望ム。

勅語

（大正三年十一月三日大正天皇ヨリ在鄉軍人ニ賜ハル）

朕惟フニ國防ノ完備ハ汝在鄉軍人ニ待ツモノ洵ニ多シ汝等戮力協心陸海一致シテ益々軍人精神ヲ鍛練シ軍事能力ヲ增進シ鄉ニ在リテハ忠良ナル臣民ト爲リ軍ニ從ヒテハ國家ノ干城ト爲リ以テ其本分ヲ盡サムコトヲ期セヨ

勅語謹解

朕惟フニ我ガ國家ヲ完全ニ守ツテ行ク爲ニハ汝等在鄉軍人ノ力ニ待ツモノガ非常ニ多イ。汝等力ヲ合ハシ、心ヲ一ツニシ、陸軍モ海軍モ一致シテ益〻軍人精神ヲ鍛ヒ、軍事上ノ能力ヲ增シ進メ、鄉里ニアツテハ忠良ナル臣民トナリ、戰爭ノ場合ニハ國家ノ干城トナリ、以テ軍人トシテノ本分ヲ盡スヤウニセヨ。

勅語

（昭和三年十二月三日在郷軍人御親閲ノ際賜ハル）

朕親シク帝國在郷軍人會會員ヲ閲シ其ノ勇健ヲ懌フ汝等克ク先朝ノ聖諭ヲ體シ深ク時勢ノ推移ニ鑑ミ益〻其ノ本分ヲ盡シ同心協力以テ朕カ信倚ニ副ハムコトヲ期セヨ

勅語

（昭和七年一月四日勅諭奉戴五十周年記念日ニ賜ハル）

皇祖考特ニ明勅ヲ陸海軍人ニ賜ヒシヨリ茲ニ五十年汝等克ク五條ノ

勅語謹解

朕ハ親シク帝國在郷軍人會々員ヲ檢閲シテ見テ、皆ノ元氣デ健全ナルヲ喜ブ。汝等ハ御先代ノ御教ヲ守リ行ヒ、十分ニ時世ノ移リ變リヲ考ヘ、益〻軍人トシテノ本分ヲ盡シ、心ヲ一ツニシ、力ヲ合セテ、以テ朕ガ信ジ頼ッテヲルコトニカナフヤウニセヨ。

勅語謹解

朕ノオ祖父様デアル明治天皇ガ、特ニ尊イ勅諭ヲ陸海軍人ニ賜ハッテカラ今マデニ五十年

大綱ヲ守リ皇考ノ遺訓ヲ奉シ朕カ意ヲ體シテ日夜軍人精神ヲ養ヒ力ヲ協セ心ヲ一ニシテ報效ノ實ヲ舉ケ忠良ノ誠ヲ擢ツ

朕ハ切ニ汝等ヲ股肱ト頼ミ先朝ノ愛撫シ給ヘル軍隊ニ信倚シテ國基ヲ恢弘シ國光ヲ宣揚シ以テ列聖ノ照鑒ニ對ヘムコトヲ庶幾フ汝等軍人益〻職分ヲ勵ミ彌々節操ヲ固クシ其重任ヲ全クセムコトヲ期セヨ

汝等ハ克ク此五ケ條ノ大切ナル道ヲ守リ、又大正天皇ノ遺サレタル御教ヲ行ヒテ、日夜軍人精神ヲ鍛ヒ、力ヲ合ハセ心ヲ一ツニシテ忠君愛國ノ實ヲ擧ゲ、忠良ナル誠ヲ現ハシタ。朕ハ汝等ヲ手足ノ様ニ頼ミ、御先代ノ愛シ給ハッタ軍隊ニ信頼シテ國ノ基ヲ弘メ、國ノ光ヲ揚ゲ、以テ御歴代ノ御靈ニ御滿足ヲオ與ヘシタイ。汝等軍人ハ益〻其職務ニ勵ミ、一層志操ヲ確クシ、其重イ任務ヲ完全ニ果スヤウニセヨ。

誓詞（右勅語ニ對スル陸海軍大臣ノ誓詞）

臣岑生
臣貞夫

誠恐誠惶謹テ奏ス

陛下登極ノ初特ニ聖勅ヲ陸海軍人ニ賜ヒ先朝ノ訓諭ニ遵由シ字内ノ大勢ト時世ノ推移トニ鑒ミ操守ヲ固クシ至誠ヲ擢ツヘキヲ訓ヘ給フ臣等感激ノ至ニ勝ヘス拳拳服膺シテ夙夜懈ラス唯及ハサラムコトヲ恐ル

勅語ニ對スル御誓ノ言葉

恭シク謹ンデ申上ゲマス

陛下ガ御位ニ即カセラレタ初、我々陸海軍ニ有リ難イ勅諭ヲ特ニ賜ハリ、御先代ノ御教ニ從ツテ世界ノ様子ト、時世ノ移リ變リヲ見極メ、操ヲ確クシ、誠心ヲ以テ御奉公スベキコトヲ御教ヘ遊バサレマシタ。臣等ハ感激ノ至リニ堪ヘズ。誠心誠意之ヲ守リ行ヒ、日夜怠ルコトナク、唯努力ノ足ラナイコトヲ心配シ

謹テ按スルニ明治十五年一月四日勅諭ヲ陸海軍人ニ下シテ五條ノ大綱ヲ示シ給ヒシヨリ慈育愛撫ノ恩光ニ浴スルコト爰ニ五十年臣等乏シキヲ股肱ノ重任ニ承ケ深ク聖旨ヲ肝銘スル者此ノ記念日ヲ迎ヘテ區々ノ微忱自ラ止ムヘカラス益〻志氣ヲ振作シ愈〻報效ニ精進シ先士ノ志ヲ繼キテ後人ニ矜式スル所ヲ知ラシメ終始一貫上下力ヲ協セテ以テ

テヲリマス。謹デ思ヒマスルニ、明治十五年一月四日勅諭ヲ陸海軍人ニ下サレマシテ、五ケ條ノ大切ナル事柄ヲ御示シニナラレテヨリ陛下ノ御慈ミヲ受ケマスコトハ茲ニ五十年ニナリマス。臣等不足勝ノ身ヲ以テ陛下ノ御手足ト云フ重大ナル任務ヲ承リ、陛下ノ御思召ヲ深ク肝ニ銘ジテヲリマシタガ、此記念日ヲ迎ヘマシテ、ツマラヌ者デハアリマスルガ、益〻志氣ヲ振ヒ起シ、愈〻御奉公ニ一生懸命ニナリ、先輩ノ志ヲ繼ギテ後進ニハ敬ヒ手本トスル所ヲ知ラシメ、終始變ラズ上下力ヲ合

陛下ノ信倚ニ對ヘ國體ノ精華ヲ顯揚シ宏猷ヲ翼贊シ奉ラムコトヲ誓フ伏シテ希クハ叡鑒ヲ垂レ給ハムコトヲ臣岑生臣貞夫誠恐誠惶謹テ奏ス

昭和七年一月四日

海軍大臣　臣　大角岑生
陸軍大臣　臣　荒木貞夫

奉答文（右勅語ニ對スル陸海軍大臣ノ奉答文）

勅諭拜受ノ五十周年ニ値リ優渥ノ勅諭ヲ拜受シマシテヨリ五十周年ニ方リマシテ以テ陛下ノ御信頼ニ答ヘ奉リ、國體ノ光ヲ揚ゲ、陛下ノ御事業ニ力ヲ合シテ參ルコトヲオ誓ヒ申上ゲマス。何卒陛下ニモ御眼ヲカケサセ給ハンコトヲ伏シテオ願ヒ申上ゲマス

臣岑生、臣貞夫恐レ謹デ申上ゲマス。

勅語ニ對シ答ヘ奉ル文

聖旨ヲ賜ハリ恐懼措ク所ヲ知ラス臣等殊遇ニ感激シ信倚愈〻重キヲ念ヒ心力ヲ竭シテ忠節ヲ勵ミ股肱ノ本分ヲ全クセムコトヲ期ス

昭和七年一月四日

讀法

兵隊ハ皇威ヲ發揚シ國家ヲ保護スル爲ニ設ケ置カルルモノナレハ此兵員ニ加ル者ハ堅ク左ノ條件ヲ守リ遺背スヘカラス

義解

御思召ノ深イ勅語ヲ賜リマシテ恐多キ極デアリマス。臣等陛下ノ軍人ニ對スル特別ノ御思召ニ感激シ、陛下ノ御信頼ノ愈〻重イ事ヲ思ヒマシテ心ノアラン限リ身體ノ盡ク限リ忠節ヲ勵ミ、陛下ノ御手足デアル軍人ノ本分ヲ完全ニ果シタイト確ク覺悟致シテヲリマス

兵隊ハ皇室ノ御威光ヲ揚ゲ盛ンニシ、國家ヲ護ル爲ニ設ケ置カレタモノデアルカラ、軍人トナルモノハ左ノ條件ヲ守リ之ニ背イテハナラヌ。

第一條　誠心ヲ本トシ忠節ヲ盡シ不信不忠ノ所爲アルヘカラサル事

第二條　長上ニ敬禮ヲ盡シ等輩ニ信義ヲ致シ粗暴倨傲ノ所爲アルヘカラサル事

第三條　長上ノ命令ハ其事ノ如何ヲ問ハス直チニ之ニ服從シ抗抵干犯ノ所爲アルヘカラサル事

第四條　膽勇ヲ尚トヒ軍務ニ勉勵シ恐怯柔懦ノ所爲アルヘカラサル事

第一條　誠心ヲ本トシテ忠節ヲ盡シ、不正直ナモノヤ不忠義ナ行ガアッテハナラヌ。

第二條　上ノ人ニ對シテハ正シク禮儀ヲ盡シ同僚ニ對シテハ誠實ヲ以テ交リ、亂暴ヤ傲リ高ブル行ガアッテハナラヌ。

第三條　上官ノ命令ハドンナ事デモ直ニ之ニ從ヒ、決シテ背キ逆フコトガアッテハナラヌ。

第四條　眞ノ勇氣ヲ尚ンデ軍務ニ努メ、卑怯未練ナ行ガアッテハナラヌ。

第五條　血氣ノ小勇ニ誇リ爭鬪ヲ好ミ他人ヲ侮慢シ世人ノ厭忌ヲ來ス等ノ所爲アルヘカラサル事

第六條　道德ヲ修メ質素ヲ主トシ浮華文弱ニ流ルル等ノ所爲アルヘカラサル事

第七條　名譽ヲ尚トヒ廉恥ヲ重ンシ賤劣貪汚ノ所爲アルヘカラサル事

以上掲ル所ノ外法律規則ニ違犯シ

第五條　若氣ノ空元氣ニ自慢シテ喧嘩口論ヲナシ他人ヲ侮リ、世ノ中ノ人カラ嫌ハレル樣ナ行ガアッテハナラヌ。

第六條　人トシテノ道ヲ修メ、質素儉約ヲ心掛ケ、派手ニ弱々シイ行ガアッテハナラヌ

第七條　名譽ヲ傷ツケヌヤウニシ、恥ヲ受ケヌヤウニシ、卑シイキタナイ行ガアッテハナラヌ。

以上掲ゲタ所ノ外、法律規則ニ背キ、國家カ

罪ヲ國家ニ得ルニ至ルハ父祖ヲ辱シメ家聲ヲ汚シ醜ヲ後世ニ遺ス獨リ其身現在ノ恥辱ノミナラサルナリ況ンヤ重罪ノ如キハ各人天賦ノ公權ヲモ剝奪セラレ世ニ立チ人ニ接ルモ總テ對等ノ權利ヲ得サルニ至ルニ於テヤ名譽ヲ尙トヒ廉恥ヲ重ンスル軍人ニ在リテハ殊ニ戒愼ヲ加ヘサルヘカラス就中陸軍刑法ハ軍隊ノ害ヲ爲ス者ヲ懲ス爲ニ特ニ設ケラルルモノタルヲ

ヲ罪セラレルヤウニナレバ、先祖ヲ辱カシメ家ノ名聲ヲ汚シ、醜イ名ヲ後世ニ殘スコトニナリ、自分一人ノ恥バカリデハナイ。況シテ重イ罪ヲ受ケバ、各人ニ國家カラ與ヘラレタ權利ヲモ剝ギ取ラレ、世ノ中ニ立チハ人ニ交ルニモ對等ノ權利ヲ受ケルコトガ出來ナイヤウニナルカラ、名譽ヲ尙ビ恥ヲ受ケヌ軍人トシテハ殊更ニ慎マネバナラヌ。トリワケ陸軍刑法ハ軍隊ニ害ヲオヨボス者ヲ懲ス爲ニ特ニ設ケラレタモノデアルカラ、其刑ハ非常ニ重イ。

以テ其刑亦頗ル嚴ナリ軍人ニシテ之ヲ犯セハ啻ニ本分ヲ誤リ軍隊ノ安寧ヲ害スルノミナラス遂ニ世人ノ信用ヲ損シ陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等其責更ニ重シ平素自ラ戒飭シ決シテ違犯スヘカラサルモノ也

軍人デ之ニ背ケバ啻ニ軍人トシテノ本分ヲ誤リ、軍隊ノオサマリヲ害スルバカリデナク、遂ニ世ノ中ノ人カラ信用ヲ損ヒ、陸軍ノ名譽ヲ汚スコトニナリテ其責任ハ一層重大デアル常カラヨク戒メテ注意シ、決シテ之ニ背クヤウナコトガアツテハナラヌ。

詔書

（昭和八年三月二十七日聯盟脱退ニ際シ一般國民ニ賜ハル）

朕惟フニ曩ニ世界ノ平和克復シテ國際聯盟ノ成立スルヤ皇考之ヲ懌ヒテ帝國ノ參加ヲ命シタマヒ朕亦遺緒ヲ繼承シテ苟モ懈ラス前後十有三年其ノ協力ニ終始セリ今次滿洲國ノ新興ニ當リ帝國ハ其ノ

獨立ヲ尊重シ健全ナル發達ヲ促スヲ以テ東亞ノ禍根ヲ除キ世界ノ平和ヲ保ツノ基ナリト爲ス然ルニ不幸ニシテ聯盟ノ所見之ト背馳スルモノアリ朕乃チ政府ヲシテ愼重審議遂ニ聯盟ヲ離脫スルノ措置ヲ採ラシムルニ至レリ

然リト雖國際平和ノ確立ハ朕常ニ之ヲ冀求シテ止マス是ヲ以テ平和各般ノ企圖ハ向後亦協力シテ渝ルナシ今ヤ聯盟ト手ヲ分チ帝國ノ所信ニ是從フト雖固ヨリ東亞ニ偏シテ友邦ノ誼ヲ疎カニスルモノニアラス愈〻信ヲ國際ニ篤クシ大義ヲ宇內ニ顯揚スルハ夙夜朕カ念トスル所ナリ方今列國ハ稀有ノ世變ニ際會シ帝國亦非常ノ時艱ニ遭遇ス是レ正ニ舉國振張ノ秋ナリ爾臣民克ク朕カ意ヲ體シ文武互ニ其ノ職分ニ恪循シ衆庶各其ノ業務ニ淬勵シ鄉フ所正ヲ履ミ行フ所中ヲ執リ協戮邁往以テ此ノ世局ニ處シ進ミテ皇祖考ノ聖猷ヲ翼

成シ普ク人類ノ福祉ニ貢獻セムコトヲ期セヨ

昭和八年三月二十七日

御名御璽

青年學校教練教程目次

第一部　教練

總則

第一編　各個教練

通則……四

第一章　徒手各個教練……四

一　不動ノ姿勢……四

二　右(左)向、半右(左)向及後向……六

三　行進……六

四　敬禮……一三

第二章　執銃各個教練……一三

一　不動ノ姿勢……一三

二　右(左)向、半右(左)向及後向……一四

三　擔銃及立銃……一五

四　著劍及脫劍……一六

五　彈藥ノ裝塡及抽出……一八

六　射擊……二一

七　行進……二六

八　突擊……二七

九　敬禮……二八

第三章　戰鬪各個教練……三〇

一　要旨……三〇

二　射擊……三〇

三　運動及運動ト射擊トノ連繫……三五

四　突擊……三八

五　戰鬪間一般ノ心得……三八

第二編　部隊教練

第一章 密集教練……四〇
一 要旨……四〇
二 編成及隊形……四一
三 整頓……四三
四 射撃及彈藥ノ裝塡、抽出……四五
五 右(左)向及後向……四六
六 行進……四七
七 方向變換……四九
八 隊形變換……五〇
九 突撃……五一
十 途歩……五一
十一 叉銃及解銃……五二
十二 解散及集合……五三
十三 敬禮及閲團分列……五四
第二章 疎開戰鬪教練……五五
要旨……五五
第一節 分隊……五七
一 分隊戰鬪ノ爲ノ前進……五七
二 散開ノ方法……五七
三 散兵線ノ運動……五九
四 散開セル分隊ノ射撃……六二
五 突撃及敵陣内ノ攻撃……六八
六 防禦……七〇
七 集合及併合……七二
第二節 小隊……七二
一 戰鬪ノ爲ノ前進……七二
二 火線ノ構成……七四
三 火線ノ運動及射撃……七五
四 援隊……七八
五 突撃及敵陣内ノ攻撃……七九
六 防禦……八〇
七 集合及併合……八五
第三編 夜間教練……八六
一 要旨……八六
二 各個教練……八六

三 夜間戰鬪……八七
第四編 射撃及距離測量
要則……九一
第一章 射撃ニ關スル定説……九一
一 彈道及照準具……九一
二 射撃上天候氣象ノ感及……九四
三 射彈ノ散布……九六
第二章 射撃豫行演習……九九
一 要旨……九九
二 照準……一〇一
三 射撃ノ方法……一〇四
第三章 狹窄射撃……一〇九
第四章 實包射撃……一一二
一 要旨……一一二
二 射撃場ノ勤務及射手ノ動作……一一三
三 射撃場ニ於ケル通信及危害豫防……一一九
第五章 飛行機射撃……一二一
第六章 距離測量……一二四
一 要旨……一二四
二 米繩ヲ以テスル測量……一二四
三 歩測……一二六
四 目測……一二七
五 音響測量……一三〇
六 器械測量……一三一
第五編 陣中勤務
要則……一三四
第一章 命令通報報告……一三四
一 要旨……一三四
二 文書ノ記述法……一三六
三 傳令……一四〇
四 遞傳……一四三
第二章 捜索及警戒……一四四

第一節 捜索……一四四
一 要旨……一四四
二 斥候……一四五
第二節 駐軍間ノ警戒……一五〇
一 要旨……一五〇
二 前哨中隊……一五二
三 小哨……一五四
四 歩哨……一五九
五 斥候巡察……一六七
第三節 行軍間ノ警戒……一六八
一 要旨……一六八
二 連絡兵……一六九
三 尖兵……一七〇
第三章 行軍……一七三
一 要旨……一七三
二 行軍實施上ノ注意……一七三
三 夜行軍ノ實施……一七六
四 耐熱及耐寒行軍ノ實施……一七七
五 渡河……一七九
六 汽車、電車、汽船ニヨル輸送……一八〇
第四章 宿營及給養……一八二
一 要旨……一八二
二 舎營……一八三
三 露營……一八五
四 天幕ノ使用法……一八七
五 野外炊事……一九二
六 廠營……一九五
第五章 方位ノ判定及徴候ノ判斷……一九六
一 要旨……一九六
二 方位ノ判定……一九七
三 徴候ノ判斷……一九九
第六編 旗信號
一 要旨……二〇二

二 手旗現字通信……二〇三
三 字號通信……二〇六
第七編 測圖
要則……二〇九
第一章 地形、地物ノ現示法……二一〇
一 方位及標高……二一〇
二 梯尺……二一〇
三 圖式……二一三
第二章 地圖ノ讀ミ方……二一八
一 距離標高ノ測定……二一八
二 土地ノ狀態ト水平曲線ノ關係及現地ノ練習……二二〇
第八編 衛生法及急救法
要則……二二四
第一章 衛生法……二二四
一 傳染病……二二四
二 其他注意スヘキ病……二二七
第二章 急救法……二二八
一 要旨……二二八
二 止血法……二三〇
三 繃帶法……二三二
四 急病ノ處置……二三七
五 毒瓦斯……二四二
六 人工呼吸法……二四三
第九編 兵器ノ取扱手入保存法
第一章 要旨……二四八
第二章 構造機能……二四八
一 三八式歩兵銃……二四八
二 三十年式銃劍……二五〇
三 小銃彈……二五〇
第三章 手入保存……二五一
一 手入取扱一般ノ要領……二五一
二 小銃ノ手入法……二五二

三 銃劍ノ手入法……二五四
四 革具ノ手入法……二五五
五 分解結合……二五五

附錄

第一 手榴彈投擲法……二六二
第二 刀及喇叭ノ取扱法……二六六
第三 演習規定……二六九

附表

第一 教練教材配當並進度參考案
第二 幕舍構築法ノ一例
第三 號令集
第四 視號通信勤務用略號表
第五 手旗通信原劃等ノ現示法
第六 片假名作爲法
第七 字號表
第八 字號通信記憶便法
（別表）

附圖

第一 三八式歩兵銃分解圖
第二 現用地形圖々式

——終——

總則

第一 教練實施ノ主眼

教練ノ目的ヲ達成スルニハ先ツソノ精神ヲ理解シ陸軍所定ノ典範令ニ準據シテ嚴確ニ實施スルヲ要ス然レトモ徒ラニ軍事技術ノ末ニ走リ德性涵養ニ背馳スルコトアルヘカラス須ラク旺盛ナル青年ノ意氣ヲ極度ニ發揮シ堅確ナル思想ヲ根基トシ堅忍持久規律節制ヲ經緯トシ各課目ノ目的眞髓ヲ體得スルコト緊要ナリ

第二 嚴格ナル教練ノ價値

周到適切ニ企劃セラレ整正嚴格ニ實施セラルル教練ハ實ニ學生生徒ノ精神ヲ振作シ規律ヲ涵養スル要諦ニシテコレニヨッテ獲得セラルル武技及教練ノ習熟ハ學生生徒ノ自信力ヲ增シ意志ヲ鞏固ナラシメ堅忍持久難境ニ處シテ愈々奮激邁進スルノ氣節ヲ陶冶スルモノナリ

第三 教練實施ノ特性

教練ハ知行一致ノ良習ヲ涵養スルヲ主眼トス而シテ其手段ニ二アリ、卽チ

一、先ツ理解シ之ヲ實行シ之ヲ鍛錬シ良習ヲ爲スニ至ルコト

二、先ツ實行シ之カ鍛錬中ニ眞ノ自覺ヲ促シ良習ヲ馴致スルコト是ナリ

其何レニシテモ教練ハ實行シ鍛錬シテ良習ヲ養成スルニ在ルヲ以テ、教ヘテ實行ヲ求ムルノミナラス其實行ヲ確實ナラシムルヲ要ス、故ニ易ニシテ簡ナルコトト雖モ復習ヲ厭ハス鍛錬ニ精進セサルヘカラス

第四 指揮者ノ實務

指揮者ハ衆望歸趨ノ中心タリ自己ノ人格

ヲ全般ニ反映セシム又ソノ指揮ノ適否ハ教練實施ノ上ニ至大ノ影響ヲ與フ故ニ指揮者其位置ニ立タンカ自己ノ修養ニ精進シ奮勵努力ソノ責ヲ果スノ決意アルヲ要ス

第五　教練ニ於ケル態度服裝

教練實施ニ當リテハ常ニ其態度服裝ヲ正シクセサル可カラス就中指揮者ハ特ニ之ニ留意シ常ニ自ラ活潑嚴正ナル動作ノ模範ヲ示シ言語ヲ明快ナラシムルコト必要ナリ

第六　號令及命令記號及號音

指揮者ノ意圖ハ號令若ハ命令ニ依リ告達ス

號令及命令ヲ下スニハ堅確ノ決意嚴肅ノ態度ヲ以テセサルヘカラス而シテ號令ハ明快ノ音調ヲ以テ發唱シ命令ハ簡明確切ニシテ下達迅速ナルヲ要ス之カ爲ニハ勉メテ號令詞ヲ用フルヲ便トス

號令ヲ豫令及動令ニ分ツヘキ場合ニ於テハ豫令ハ明瞭ニ長ク動令ハ活潑ニ短ク發唱シ其間ニ適當ノ時間ヲ存スヘシ教程中豫令ハ行書シテ區別ス

指揮者ハ狀況ニ依リ記號若ハ號音ヲ以テ號令及命令ニ代ヘ又一般ニ連絡ノ爲記號ヲ用フルコト多シ

記號ハ左ノ如ク行ヒ必要ニ應シ之ヲ反復ス

前進　片手ヲ高ク擧ケ次テ之ヲ其進ムヘキ方向ニ伸ハス

停止　片手ヲ高ク擧ケ直ニ下ロス

駐歩　前進ノ記號ヲ迅速ニ數回連續ス

散開　兩手ヲ左右ニ肩ノ高サニ擧ク

射擊中止　片手ヲ前方ニ伸ハシ數回左右ニ振ル

第七　指揮者ノ心得

教練實施ニ當リテハ同僚互ニ指揮シ指揮セラレ殊ニ部隊教練ニ於テハ其長ヲ中心トスル有機體トシテ活動スルモノナリ

部隊ヲ掌握スル爲指揮者ノ位置ハ部隊ノ大小隊形ニヨリ之ヲ異ニスルモ常ニ部隊ノ全般ヲ眼底ニ入ルル如ク適宜部隊ヨリ離隔スルヲ可トス而シテ横隊ニ在リテハ左翼方面、縱隊ニ在リテハ後尾ハ監視不十分ニ陷リ易キヲ以テ常ニ留意スルヲ要ス

第八　助教助手ノ心得

教練ニ於ケル助教ハ直接教官ニ屬シ己カ擔任スル人員ニ對シ訓練ノ責任ヲ負擔シ助手ハ助教ヲ補助スルノ責任ヲ有ス故ニ態度服裝ヲ正シクシ常ニ自ラ活潑嚴正ナル動作ノ模範ヲ示スト共ニ訓練科目ニ就キテ研究ヲ十分ニシソノ矯正眼ヲ高メ以テソノ責務ノ遂行ニ努力セサルヘカラス

第九　列員ノ心得

列員ハ假令指揮者自己ノ同僚タルト雖モ之ニ絕對ノ尊敬ヲ拂ヒ萬事ニ信賴スル純情ヲ發揮セサルヘカラス而シテ號令命令ニ直ニ服從シ規律ヲ重ンシ節制ヲ守ラサルヘカラス

第十　志氣ノ旺盛ト體力ノ强健　教練實施ノ要

志氣ノ旺盛ト體力ノ强健トハ、積極進取堅忍不拔ノ氣節ヲ持シ難境ニ處シテ愈々奮激邁進スルノ精神ヲ發揮シ得ルモノナリ、教練ハ此德性ヲ馴致スルコト最モ緊要ナリ

教練實施ノ要ハ巧妙ニアラスシテ熟練ニ在リ而シテ熟練ハ手段ノ適切ナルト復習ヲ厭ハサルトニ依リテ得ラルルモノナリ故ニ各個教練ハ各學年ヲ通シテ絕エス之ヲ行フヲ必要トス

第一編　各個教練

通則

第十一　各個教練ノ目的

諸制式及諸法則ニ習熟セシメ部隊教練ノ確乎タル基礎ヲ作リ以テ規律節制ノ良習ヲ養成シ特ニ執銃教練ニ在リテハ主トシテ周密細心ノ著意ヲ教養スルニ在リ

第十二　目的精神ノ理解

各個教練ヲ行フニ際シテハ其目的精神及必得ヘキ要點ヲ會得シ之ヲ實施ノ上ニ現ハスコト緊要ナリ否スンハ教練ハ形式ニ陷リ終ニ實際ノ用ニ適セサルニ至ルヘシ

第十三　自習ノ勵行

學校教練ニ在リテハ一人ノ教官ニテ多數ノ者ヲ指導スルヲ以テ各個教練實施ニ當リテハ自習ノ勵行ニヨリ動作ニ習熟シソノ精神ヲ體得スルニ努ムルコト緊要ナリ而シテ自習ニ當リテハ特ニ動作ヲ正確ナラシメ規律ヲ維持スルヲ緊要トス

第一章　徒手各個教練

一　不動ノ姿勢

第十四　目的精神

不動ノ姿勢ハ基本ノ姿勢ナリ常ニ内ニ盤石不動ノ精神充溢シ外嚴肅端正ナラサルヘカラス而シテ精神ヲ統一スルコト絶エス變ニ應スル準備心ヲ養成スルコト肝要ナリ

第十五　要領

不動ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

氣ヲ著ケ

兩踵(カヽト)ヲ一線上ニ揃ヘテ之ヲ著ケ兩足ハ約六十度ニ開キテ齊シク外ニ向ケ兩膝ハ凝ラスシテ之ヲ伸ハシ上體ハ正シク腰ノ上ニ落チ著ケ脊ヲ伸ハシ且少シク前ニ傾ケ兩肩ヲ稍〻後ロニ引キ一樣ニ之ヲ下ケ兩臂ハ自然ニ垂レ掌ヲ股ニ接シ指ハ輕ク伸ハシテ之ヲ並ヘ中指(ナカユビ)ヲ概ネ袴ノ縫目ニ當テ頸(クビ)及頭ヲ眞直ニ保チ口ヲ閉チ兩眼ハ正シク之ヲ開キ前ノ方ヲ直視ス（第一圖參照）

第一圖　其一（正面圖）

第一圖　其二（側面圖）

第十六　休憩ノ目的精神

教練間適時肉體一部ノ拘束ヲ解キ以テ心神ヲ整理シ次ノ動作ヲ準備セシムルニ在リ

第十七　休憩ノ要領

休憩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

休メ

先ツ左足ヲ出シ爾後片足ヲ舊ノ所ニ置キ其場ニ立チテ休憩ス

休憩中ト雖モ許可ナク話スコトヲ禁ス

二　右(左)向、半右(左)向及後向

第十八　目的精神

規律節制ヲ養ヒ節度アル動作ニ慣レシムルニ在リ

第十九　右(左)向、半右(左)向

右(左)向或ハ半右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向け　右(左)

或ハ　半右(左)向け　右(左)

左足尖ト右足トヲ少シク上ケ左踵ニテ九十度或ハ四十五度右(左)ニ向キ右踵ヲ左踵ニ著ケテ同線上ニ揃フ

第二十　後向

後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

廻はれ　右

右足ヲ其方向ニ引キ足尖ヲ僅ニ左踵ヨリ離シ兩足尖ヲ少シク上ケ兩踵ニテ後ロニ廻ハリ次ニ右踵ヲ左踵ニ引キ著ク

第二十一　實施上ノ注意

九十度或ハ四十五度若クハ百八十度正シク向クヲ要ス又以上ノ動作ニ於テ兩手ヲ體ヨリ離シ或ハ反動ヲ付シ或ハ向キ終リシ際身體ヲ動搖セシムヘカラス

三　行進

第二十二　行進ノ目的精神

行進ハ勇往邁進ノ氣慨アルヲ要スコレニヨリ如何ナル障害ヲモ排除シ初志ヲ貫徹スル精神ヲ涵養ス

第二十三　速歩

速歩ノ一歩ノ長サハ踵ヨリ踵マテ七十五糎ヲ其速度ハ一分時間ニ百十四歩ヲ基準トス（一、二學年ニ於テハ適宜歩幅ヲ定ムルヲ可トス）

速歩行進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前へ　進メ

左股ヲ少シク上ケ脚ヲ前ニ出シ右足ヨリ七十五糎ノ所ニ脚ヲ伸ハシツツ蹈ミ著ケ同時ニ概ネ膕ヲ伸ハシ全ク體ノ重ミヲ之ニ移ス左足ヲ蹈ミ著クルト同時ニ右足ヲ地ヨニ離シ左脚ニ就キテ示セル如ク右脚ヲ前ニ出シテ蹈ミ著ケ行進ヲ續ケ頭ヲ眞直ニ保チ兩臂ヲ自然ニ振ル（第二圖參照）

第二圖

第二十四　速歩行進ヨリ停止

速歩行進ヨリ停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

分隊止レ

後ノ足ヲ一歩前ニ蹈ミ出シ次ノ足ヲ引キ著ケテ止ル

第二十五　行進間右(左)向

行進間右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向け前へ　進メ

左(右)足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ蹈ミ著ケ體ヲ右(左)方ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ス

第二十六　行進間斜行進

行進間斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜に右(左)へ　進メ

左(右)足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ蹈ミ著ケ體ヲ半ハ右(左)方ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ス

直行進ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜に左(右)へ　進メ

斜行進ヲ爲スト同法ヲ以テ直行進ニ復ス

第二十七　行進間後向

行進間後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

廻れ右前へ　進メ

左足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ蹈ミ出シ兩足尖ニテ百八十度右方ニ旋回シ續キテ行進ス

第二十八　歩調止メ

速歩行進間行進ヲ容易ナラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

歩調止メ

正規ノ歩法ヲ守ルコトナク速歩ノ歩長ト速度トニテ姿勢ヲ崩スコトナク行進ス再ヒ正規ノ歩法ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

歩調取レ

第二十九　折敷、伏セノ目的精神

敵眼敵彈ニ對シ身ヲ遮蔽スルタメ陸軍ニ於テ定メラレタル制式ナルヲ以テ速ニ姿勢ヲ低クシ目標ヲ小ニスルノミナラス精神ヲ緊張シ敢爲ノ態度ヲ現ハササルヘカラス而シテコレニヨリテ待機ノ用意機敏性ヲ陶冶スルヲ要ス

第三十　折敷(伏臥)ノ要領

折敷(伏臥)ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

折敷(伏セ)

行進間ニ在リテ折敷ヲ爲スニハ右足ヲ蹈ミ著ケ左足ヲ約半歩右足尖ノ前ニ足尖ヲ僅ニ内ニシテ蹈ミ出スト同時ニ上體ヲ半ハ右ニ向ケ左手ヲ以テ劍鞘ヲ前ニ拂ヒ右脚ヲ曲ケ其股ヲ地ニ著ケ臀ヲ右足ノ後方ニ於テ地ニ著ケ左脚ヲ立テ兩手ヲ握リ右手ヲ右股ノ上ニ、左前臂ヲ左膝ノ上ニ置ク(第三圖參照)伏臥ヲ爲スニハ左足ヲ折敷ノトキニ於ケル如ク蹈ミ出スト同時ニ上體ヲ半ハ右ニ向ケ右膝ヲ地ニ著ケ次テ左膝ヲ地ニ著ケ左手ヲ體ノ前ニ出シ地ニ著ケ伏臥シ兩手ヲ握リ右前臂ヲ左前臂ニ載ス(第四圖參照)

折敷(伏臥)ニ於テ要スレハ其姿勢ノ儘休憩セシムルコトヲ得

第三圖　其一

第四圖 其一

第三圖 其二

第四圖 其二

第四圖 其三

第四圖 其四

第四圖 其五

第三十一　折敷(伏臥)ヨリ起立

折敷(伏臥)ニ在ルトキ起立セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

起テ

折敷ニ在ルトキハ上體ヲ上ケ右脚ヲ立テ右足ヲ左足ニ引キ著ケ伏臥セルトキハ右脚ヲ曲ケ兩膝ヲ地ニ著ケタル儘左手ニテ上體ヲ起シ左足ヲ約一歩前ニ蹈ミ出シテ起チ右足ヲ左足ニ引キ著ク

第三十二　駈歩

駈歩ハ一歩ノ長サヲ踵ヨリ踵マテ約八十五糎トシ其速度ハ一分時間ニ約百七十歩トス

駈歩行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

駈歩(カケアシ)　進メ

豫令ニテ右手ヲ握リ腰ノ高サニ上ケ肘ヲ後ロニスルト共ニ左手ニテ劍鞘ヲ握ル動令ニテ左脚ヲ前ニ出ス其法兩脚ヲ少シタ屈メテ儘ニ左股ヲ上ケ右足ヨリ約八十五糎ノ所ニ蹈ミ著ケ次ニ左脚ト同法ヲ以テ右脚ヲ前ニ出シ常ニ體ノ重ミヲ蹈ミ著ケタル足ニ移シ兩臂ヲ自然ニ振リ續キテ行進ス

第三十三　駈歩ヨリ停止

駈歩行進ヨリ直ニ停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

分隊　止レ

號令ニテ二歩前進シタル後後ロノ足ヲ一歩前ニ蹈ミ出シ次ノ足ヲ引キ著ケテ止リ右手ヲ下ロスト共ニ劍鞘ヲ放ツ

第三十四　駈歩行進ヨリ速歩行進

駈歩行進ヨリ速歩行進ニ移ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

速歩（ハヤアシ）　進メ

二歩前進シタル後速歩ニ移リ右手ヲ下ロスト共ニ劍鞘ヲ放チ續キテ行進ス

第三十五　駈歩行進間ノ諸動作

駈歩行進間ノ諸動作ハ速歩行進間ニ於ケル要領ニ準シテ行フ但シ速歩ニ於ケルヨリモ二歩多ク前進シタル後動作スルモノトス

第三十六　足踏、踏替

足踏（アシブミ）ハ行進間障碍物又ハ他隊ニ遭遇シ前進ヲ繼續シ得サル際等ニ行フモノニシテ進ムコトナク少シク膝ヲ屈メ交々兩足ヲ蹈ミ著ケテ調子ヲ取ルモノトス

蹈替ハ歩ノ違ヒタルトキ行フモノニシテ後ノ足ヲ前ノ足ニ引キ著ケ前ノ足ヨリ行進ス駈歩ニ在リテハ片足ニテ二歩行進ス足蹈間ニ在リテハ駈歩間ノ方法ニ準ス

四　敬禮

第三十七　敬禮ノ目的精神

秩序、禮節ヲ尚ヒ長上及團體ノ中心ヲ敬ヒ且相互親和ノ氣風ヲ振起スルヲ目的トスルモノニシテソノ動作嚴正敬虔ノ狀ヲ表現スルヲ要ス

第三十八　最敬禮

天皇ニ拜謁遙拜御眞影拜賀拜神ノ時ニ行フ

不動ノ姿勢ヲトリ帽ハ右手ヲ以テ其庇ヲ摘ミ之ヲ右股ニ接シテ提ケソノ内面ヲ右股ニ對セシメ體ノ上部ヲ前約四十五度ニ

傾ケ頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保ツ（第五圖參照）

第五圖

第三十九　擧手注目ノ敬禮

姿勢ヲ正シ右手ヲ上ケ其指ヲ接シテ伸ハシ食指ト中指ヲ帽子ノ庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍〻外方ニ向ケ肘ヲ肩ノ方向ニ略〻ソノ高サニ上ケ受禮者ニ注目ス（第六圖參照）

第四十　脫帽ノ敬禮

體ノ上部ヲ前約十五度ニ傾ケ受禮者ノ眼又ハ敬禮スヘキモノニ注目ス其他最敬禮ノ場合ニ同シ（第七圖參照）

第六圖

第七圖

第二章　執銃各個教練

一　不動ノ姿勢

第四十一　要領

執銃ニ於ケル不動ノ姿勢ハ第十五ニ同シ但シ右手ヲ以テ確實ニ銃ヲ握ル其法腕關(テク)節(ビ)ヲ稍〻前ニ出シ銃ヲ拇指(オヤユビ)ト食指(ヒトサシユビ)トノ間ニ置キ其他ノ指ハ食指ト共ニ閉チ輕ク屈メテ銃床ニ添フ銃口ハ右臂ヨリ一握程(ニギリ)(約十糎)ヲ隔テ銃身ヲ後ロニシ床尾踵ヲ右足尖ノ傍ニ置キ銃身ヲ概ネ垂直ニ保ツ(第八圖參照)

第八圖　其一　(正面圖)

第八圖　其二　(側面圖)

第四十二　休憩

休憩ハ第十七ニ同シ但シ照星ヲ擦ラサル如ク銃ヲ保ツ

二　右(左)向、半右(左)向及後向

第四十三　右(左)向、半右(左)向及後向

ハ第十九第二十ニ同シ但シ右手ヲ以テ少シク銃ヲ上ケ腰ニ支ヘ動作終レハ靜ニ之ヲ下ロス

三　擔銃及立銃

第四十四　目的精神

擔銃ハ執銃行進間諸動作ヲ爲ス基本姿勢ニシテ又執銃行軍ニ堪フルヲ主眼トス故ニ銃ノ取扱ヲ確實且輕易ニスルヲ要ス而シテコノ演練ニヨリ物事ノ處理ニ節度アル習慣ヲ馴致シ臂力ヲ增進ス

第四十五　擔銃ノ要領

擔銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

第九圖　其一

擔(ニナ)ヘ銃(ツヽ)、

右手ヲ以テ銃ヲ上ケ概ネ銃身ヲ右ニ且之ヲ垂直ニシ拳ヲ略〻肩ノ高サニスルト同時ニ左手ヲ以テ照尺ノ下ヲ握リ銃身ヲ半

第九圖　其二

第九圖　其三

ハ前ノ方ニ向ケ少シク銃ヲ上クルト同時ニ右手ヲ伸ハシテ食指ト中指トノ間ニ床尾踵ヲ置ク如ク床尾ヲ握リタル後右手ヲ以テ銃ヲ右肩ニ擔ヒ銃身ヲ上ニスルト同時ニ左手ヲ遊底ノ上ニ置キ右上膊ヲ輕ク體ニ接シ床尾ノ鐶ヲ體ヨリ一握程離シ銃ハ上衣ノ釦ノ線ト平行セシメ桿槓ノ高サヲ概ネ其第一、第二釦ノ中央ニシテ左手ヲ下ロス（第九圖參照）

第四十六　擔銃ヨリ立銃

擔銃ヨリ立銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

立テ銃ツ、

右手ヲ伸ハシテ銃ヲ下ケ銃身ヲ半ハ右ノ方ニ向ケ概ネ之ヲ垂直ニスルト同時ニ左手ヲ以テ照尺ノ下ヲ握リ銃ヲ下ケ銃身ヲ右ニスルト同時ニ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ其拳ヲ略、肩ノ高サニシ銃身ヲ後ロニシ之ヲ下ケ腰ニ支ヘ同時ニ左手ヲ下ロシ靜ニ銃ヲ地ニ著ク

四　著劍及脫劍

第四十七　實施上ノ注意

停止、行進間如何ナル姿勢ト場合トヲ問ハス確實迅速ニ實施スルヲ要ス特ニ著劍ハ儀式及突擊ノ場合ニ於ケル實用ヲ目的トスルヲ以テ確實迅速且圓滑ニ處理スル事肝要ナリ

第四十八　著劍

著劍ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

著ケ劍ケン

不動ノ姿勢ニ在ルトキハ右手ヲ以テ銃ヲ

左ニ傾ケ銃身ヲ少シク右ニシ銃口ヲ概ネ體ノ中央ニシ左手ヲ以テ逆ニ銃劍ノ柄ヲ握リ銃劍ヲ拔キテ確ニ銃口ノ所ニ著ケ兩手ヲ以テ銃ヲ起シ不動ノ姿勢ニ復ス

著劍ハ注目シテ之ヲ行フモノトス（第十圖參照）

第十圖　其一

第十圖　其二

第四十九　脫劍

脫レ劍ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

脫レ劍ケン

不動ノ姿勢ニ在ルトキハ右手ヲ以テ著劍ニ於ケル如ク銃ヲ左ニ傾ケ左手ニテ銃劍ノ柄ヲ握リ右手ヲ上ケ其拇指ニテ駐筍ヲ押シ左手ニテ銃劍ヲ脫シ之ヲ右ノ方ニ倒シテ劍尖ヲ下ニシ右手ノ食指、中指ト拇指トニテ刃ヲ挾ミ持チ其餘ノ指ニテ銃ヲ保チ左手ヲ翻シテ柄ヲ握リ銃劍ヲ全ク鞘ニ納メ左手ヲ以テ右手ノ下ヲ握リ右手ヲ下ケテ木被ノ所ヲ握リ兩手ヲ以テ銃ヲ起シ不動ノ姿勢ニ復ス

注目シテ行フハ著劍ニ同シ（第十一圖參照）

第十一圖 其一

第十一圖 其二

第十一圖 其三

第十一圖 其四

五　彈藥ノ裝塡及抽出

第五十　裝塡ノ注意

裝塡ハ射擊準備ナルヲ以テ如何ナル姿勢ト場合トヲ問ハス確實迅速ニ之ヲ行ヒ得サルヘカラス

第五十一　裝塡ノ要領

裝塡ハ通常停止間ニ於テ行フモノトス

裝塡ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

彈藥(タマ)ヲ込(ウチガネ)メ

不動ノ姿勢ニ在ルトキハ頭ヲ正面ニ保チ

タル儘銃口ヲ左前上方ニスル如ク右手ヲ一動ノ姿勢ニ復ス(第十二圖參照)

以テ銃ヲ概ネ體ノ中央前ニ上ケ左手ヲ以テ概ネ銃ノ重點ノ所ヲ握リ其臂ヲ體ニ著ケ指ハ銃床ノ溝ニ置キ床鼻ヲ右乳ノ右下方ニ在ル如ク床尾ヲ體ニ接ス

注目シテ右手ヲ以テ下ヨリ槓桿ヲ握リ之ヲ起シッツ十分後ロニ引キ彈藥盒ノ蓋ノ留革ヲ脫シ其蓋ヲ開キ彈藥ヲ撮ミ出シ彈頭ヲ前ニシ挿彈子溝ニ嵌メ拇指ノ頭ヲ彈藥ノ後部ニ當テ彈倉內ニ押シ入レ次ニ槓桿ヲ握リ遊底ヲ閉チ右掌ヲ以テ擊莖(ウチガネ)駐胛(ドメ)ヲ押シ右ニ廻ハシ銃ヲ安全裝置ニシ彈藥盒ノ蓋ヲ閉チ留革ヲ掛ケタル後前ノ方ヲ直視シ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ不

第十二圖　其一

第十二圖　其二

第十二圖　其三

第十二圖　其四

第五十二　抽出ノ目的精神

抽出ハ戰鬪準備ノ解除ノタメ實施スルヲ以テ迅速ヨリモ確實ヲ第一義トシ彈藥ヲ落サス且危害ナキ如ク周到ノ注意ヲ以テ實施スルヲ要ス

第五十三　抽出ノ要領

彈藥ヲ抽キ出サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

彈藥ヲ抽ケ

不動ノ姿勢ニ在ルトキハ裝塡ニ於ケル如ク銃ヲ構ヘ注目シテ右手ヲ以テ彈藥盒ノ蓋ノ留革ヲ脫シ其蓋ヲ開キ右掌ヲ以テ擊莖駐胛ヲ押シ左ニ廻ハシ銃ヲ擊發裝置ニシ左手ヲ尾筒ノ所ニ持チ來シ其四指ヲ伸ハシテ方窓部ニ當ツルカ如クシ靜ニ遊底ヲ進退シ

テ彈藥ヲ出シ之ヲ彈藥盒ニ收ムル彈藥ヲ出シ盡セハ殘彈ナキコトヲ確メタル後左手ノ指ヲ以テ受筒鈑ヲ壓シテ遊底ヲ閉チ徐ロニ引鐵ヲ引キ彈藥盒ノ蓋ヲ閉チ留革ヲ掛ケタル後前ノ方ヲ直視シ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ不動ノ姿勢ニ復ス（第十三圖參照）

第十三圖

六　射擊

第五十四　射擊ノ目的精神、要旨

本教育ニ依リ透徹清明ノ心神ヲ以テ嚴正確實ニ事ヲ處スルノ良習ヲ馴致シ周密細心ノ著意ヲ敎養ス

射擊ハ執銃敎練中最モ緊要ナルモノナリ一度ヒ銃ヲ執ツテ擊發スルヤ百發百中ヲ期セサルヘカラスコレカタメ諸動作ヲ確實、綿密周到ナラシムルヲ要ス、据銃照準、擊發及照尺ノ用法ニ關シテハ第四編第二章ニ據ルヘシ

第五十五　射擊姿勢ノ要領

良好ナル射擊姿勢ハ命中ヲ良好ナラシムルノ基礎ヲ成ス故ニ常ニ堅確ニシテ而モ凝ルコトナク自然ノ狀態ニ

在ルヲ要ス

射擊ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ目標ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス

立射(タチウチ)(膝射(ヒザ))(伏射(ネ))(逆射(サカ))の構へ　銃不動ノ姿勢ニ在ルトキ立射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭ヲ其方向ニ保チタル儘右足尖ヲ以テ半ハ右ニ向キツツ左足ヲ約半歩左前ニ蹈ミ出シ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ケツツ前ニ倒シ左手ヲ以テ概ネ銃ノ重點ノ所ヲ握リ其臂ヲ

第十四圖

體ニ著ケ指ハ銃床ノ溝ニ置キ銃口ヲ概ネ眼ノ高サニシ床鼻ヲ右乳ヨリ少シク下ニシ床尾ヲ體ニ接シ裝塡シタル後右手ヲ以テ概ネ右側面ヨリ銃把ヲ握リ目標ニ注目ス(第十四圖參照)

不動ノ姿勢ニ在ルトキ膝射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭ヲ其方向ニ保チタル儘左足ヲ約半歩右足尖ノ前ニ足尖ヲ僅ニ内ニシテ蹈ミ出スト同時ニ上體ヲ半ハ右ニ向ケ左手ヲ以テ劍鞘ヲ前ニ拂ヒ右脚ヲ曲ケ其股ヲ目標ノ方向ト殆ト直角ナル如ク平ニ地ニ著ケ臀ヲ右足ノ後方ニ於テ地ニ著ケ左脚ヲ立テ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ前ニ倒シ左手ヲ以テ立射ノ如ク之ヲ保チ其前臂ヲ左膝ノ上ニ置キ床尾鈑ヲ右股ノ内部ニ當テ裝塡シタル後

右手ヲ以テ概ネ右側面ヨリ銃把ヲ握リ目標ニ注目シ上體ヲ自然ノ方向ニ概ネ眞直ニ保ツ(第十五圖參照)

第十五圖

不動ノ姿勢ニ在ルトキ伏射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭ヲ其方向ニ保チタル儘左手ヲ以テ彈藥盒ヲ左

第十六圖　其一

第十六圖　其二

第十六圖　其三

右ニ開キ左足ヲ膝射ニ於ケル如ク蹈ミ出スト同時ニ上體ヲ半ハ右ニ向ケ右膝ヨリ逐次ニ地ニ著ケ左手ヲ體ノ前ニ出シ地ニ著ケ體ヲ射擊方向ニ對シ約三十度ニシテ

第十六圖 其四

第十六圖 其五

伏臥シ左手ヲ以テ立射ノ如ク銃ヲ保チ裝塡シタル後右手ヲ以テ稍〻下方ヨリ銃把ヲ握リ目標ニ注目シ銃把ヲ腮(アゴ)ノ稍〻前ニ在ル如クシ兩肘ヲ地ニ支フ(第十六圖參照)

不動ノ姿勢ニ在ルトキ逆射ノ姿勢ヲ取ル

第十七圖

ニハ飛行機ノ飛行方向ニ平行ニ仰臥シ得ル如ク體ヲ向ケ膝射ノ要領ニ依リ臀ヲ地ニ著ケツツ左手ヲ以テ銃ノ左側面ヨリ木被ノ所ヲ、右手ヲ以テ銃把ヲ握リ仰臥シ床尾ヲ右腋下ニシテ床嘴(シ)ヲ地ニ著ケ銃口ヲ上ニシ銃ヲ地面ニ對シ約三十度ニ保チテ體ヲ飛行機ノ方向ニ傾ク若背嚢ヲ負ハサルトキハ後方彈藥盒ヲ體ノ一側ニ廻ハスモノトス(第十七圖參照)

射擊ノ姿勢ヲ取リタルトキハ逆射以外ノ

姿勢ニ在リテハ銃口ヲ概ネ目ノ高サニシ又何レノ姿勢ニ在リテモ右手ノ食指ヲ用心鐵ノ内ニ入レテ伸ハシ豫メ裝塡シアルトキハ銃ヲ擊發裝置ニスルモノトス

射擊姿勢ヲ取リタル後不具合ヲ感スルトキハ其姿勢ノ儘速ニ修正シ膝射ノ姿勢ニ在リテハ體格ニ依リ臀ヲ右足ノ上ニ載スルコトヲ得

第五十六　射擊實施

射擊ヲ爲サシムルニハ照尺ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス

擊(ウ)テ

据銃、照準及擊發ヲ爲シ要スレハ彈藥ヲ裝塡シ爾後之ヲ連續ス而シテ彈藥ヲ裝塡スル毎ニ彈藥盒ノ蓋ヲ閉チ留革ヲ掛ケ置クモノトス

第五十七　射擊中止

射擊ヲ中止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

擊方待(ウチカタマ)テ

銃ヲ構ヘ次發ノ用意ヲ爲ス

第五十八　射擊停止

射擊ヲ止メシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

擊方止(ヤ)メ

注目シテ銃ヲ安全裝置ニシ照尺ヲ舊位ニ復シ頭ヲ目標ノ方向ニシ立射ニ在リテハ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ左踵ニテ舊方向ニ向キツツ右足ヲ左足ニ引キ著ケ膝射ニ在リテハ臀ヲ地ヨリ離シ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リテ起チ目標ノ方向ニ向キツツ右足ヲ左足ニ引キ著ケ伏射ニ在リテハ其姿勢ヲ取リタルトキト概ネ反對ノ順序ヲ以テ上體ヲ起シ左足ヲ約一歩前ニ蹈ミ

出シテ起チ右足ヲ左足ニ引キ著ケ逆射ニ在リテハ右手ヲ以テ地面ヲ壓シ體ヲ起シ其姿勢ヲ取リタルトキト概ネ反對ノ順序ヲ以テ起チ右足ヲ左足ニ引キ著ケ不動ノ姿勢ニ復ス

七 行進

第五十九 一般ノ要領

執銃ノ行進ハ豫令ニテ擔銃ヲ爲シ動令ニテ發進ヲ起スモノトス但シ駈歩行進ニ在リテハ擔銃ヲ爲シタル後劍鞲ヲ握ル「止レ」ノ動令ニテ停止シ立銃ヲ爲ス銃ヲ擔フコトナク行進スル場合ニハ右手ヲ以テ少シク銃ヲ上ケ腰ニ支ヘ駈歩ヲ行フトキハ劍鞲ヲ握ル停止セハ直ニ不動ノ姿勢ヲ取ル

第六十 折敷、伏臥ノ要領

行進間ニ在リテ折敷（伏臥）ヲ爲スニハ「折敷」ノ號令ニテ第三十ニ從ヒ姿勢ヲ取リ立銃ノトキニ於ケル如ク銃ヲ下ロシ之

第十八圖 其一

第十八圖 其二

ヲ右膝ノ前ニ立テ銃身ヲ後ロニシ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ左前臂ヲ左膝ノ上ニ置ク（第十八圖參照）「伏セ」ノ號令ニテ第三十ニ從ヒ右膝ヲ地ニ著ケ銃ヲ下ロシツツ左膝ヲ地ニ著ケ左手ヲ體ノ前ニ出シ地ニ著ケ伏臥シ木被ノ所ニ就キ銃ヲ左前臂ニ載セ槓桿ヲ上ニス（第十九圖參照）

停止間ニ在リテモ亦之ニ準ス

第六十一 折敷（伏臥）ヨリ起立

折敷（伏臥）ニ在ルトキ「起テ」ノ號令ニテ第三十一ニ準シテ起チ不動ノ姿勢ヲ取ル

第十九圖

八 突擊

第六十二 突擊ノ目的精神

猛烈果敢ニ敵ヲ壓倒シ勇猛敢爲ノ氣質ヲ涵養スルニ在リ

第六十三 突擊ノ要領

突擊ヲ爲サシムルニハ著劍ノ後左ノ號令ヲ下ス

突擊ニ 進メ

豫令ニテ右手ヲ以テ木被ノ所ニ就キ銃ヲ確實ニ握リ銃口ヲ上ニシテ提ケ（第二十圖參照）動令ニテ駈歩ト同要領ニテ前進シ次テ「突込メ」ノ號令ニテ喊聲ヲ發シ敵ニ向ヒテ突入シ搭闘ス但突入ノ稍〻前ニ

於テ兩手ヲ以テ銃ヲ保持シテ刺突ノ準備ヲ爲ス

射擊シアルトキハ豫令ニテ銃ヲ安全裝置ニシ動令ニテ前項ニ從ヒ動作スルモノトス

突擊ニ於テハ劍帽ヲ握ラサルモ妨ナシ

演習ニ在リテハ搭闘ニ先タチ「止レ」ノ號令ヲ下ス然ルトキハ停止シ敵ヲ刺突スルノ構ヲ爲ス（第二十一圖參照）

第二十圖

九　敬禮

第六十四　捧銃實施上ノ注意

第二十一圖

儀式ニ用フルモノナルヲ以テ最モ嚴正確實齊一ニ行フヲ要ス

第六十五　捧銃ノ要領

捧銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

捧げ　銃

右手ヲ以テ銃ヲ上ケ體ノ中央前ニ持チ來シ銃身ヲ後ロニシ之ヲ垂直ニス同時ニ左

手ヲ以テ概ネ木被ノ下ニ接シテ銃ヲ握リ拇指ヲ銃床ニ沿ヒテ伸ハシ前臂ヲ殆ト水平ニ兩上膊ハ輕ク體ニ接ス（第二十二圖參照）

第二十二圖　其一　（正面圖）

第二十二圖　其二　（側面圖）

捧銃ヨリ立銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

立て　銃

右手ヲ以テ銃ヲ下ケ腰ニ支ヘ同時ニ左手ヲ下ロシ靜ニ銃ヲ地ニ著ク

第六十六　頭右（左）

頭右（左）ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

頭　右（左）

頭ヲ約四十五度右（左）ニ向ク

正面ニ復セシムルニハ「直レ」ノ號令ヲ下ス

第六十七　停止間ノ敬禮（捧銃ヲ除ク）

姿勢ヲ正シテ立銃ヲナシ頭ヲ向ケテ受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク（約十五度）前ニ傾ク

第六十八　行進間ノ敬禮

受禮者ヲ距ル約十歩位ノ所ヨリ正規ノ速歩行進ニ移リ約八歩ノ所ニ近ツケハ活潑ニ頭ヲ右(左)ニ向ケテ受禮者ニ注目シ受禮者ヲ過キ去ツテ後、頭ヲ正面ニ復シ歩調ヲ止メ行進ス

第三章　戰鬪各個教練

一　要旨

第六十九　目的

戰鬪ノ各個教練ハ散兵ノ動作ニ必要ナル基礎ヲ得セシメ身體ヲ輕捷ナラシメ自己ノ責務ニ對スル自覺ト自主自立ノ精神ヲ涵養セシムルヲ目的トス

第七十　練習項目

敵ノ狀態ニ應シ地形、地物ノ價値ヲ判別シ之ヲ利用シテ行進シ停止シ射擊スルコトニ熟セシムルト共ニ攻擊精神ヲ養成シ常ニ自ラ信シテ戰鬪シ得ルノ能力ヲ與フルヲ要ス但隣者トノ連繫協同ニ關スル動作ハ分隊教練ニ於テ演練スルモノトス

第七十一　實施上ノ心得

戰鬪ノ教練ヲ行フニ方リテハ豫メ裝塡其他所要ノ準備ヲ整ハシメ生徒ヲシテ常ニ戰況中ノ人タラシムル如ク勉ムルコト必要ナリ射擊及運動ハ先ツ各別ニ教育シ漸次生徒ノ習熟スルニ伴ヒ兩者ノ連繫ヲ綿密周到ニ訓練スルヲ要ス

二　射擊

第七十二　要旨

射擊ハ正確ヲ主トシ漸次動作ヲ機敏迅速ナラシメ野外ニ於テ遭遇スヘキ諸般ノ狀態ニ於テ適切ナル射擊ヲ爲シ得ル如ク訓練スルヲ肝要トス

第七十三　射擊ノ練習事項

裝塡據銃ヲ迅速ニシ照準時間ヲ短縮シ速ニ目標ヲ發見シ適當ニ之ヲ選定シ視エ難キ目標或ハ瞬間ニ隱顯又ハ移動スル目標ヲ迅速ニ射擊スルコトニ熟練シ且劇動後ニ於テモ沈着シテ能ク正確ナル射擊ヲ行ヒ得ル如ク練磨スルヲ要ス又自ラ照尺及照準點ヲ選定シテ射擊シ得ルニ至ラサルヘカラス

第七十四　射擊上ノ注意

射擊ノ效果ヲ大ナラシムル爲ニハ如何ナル場合ト雖モ射擊ノ法則ヲ守リ特ニ照準ヲ精密ニシ沈着シテ射擊ヲ行フヲ必要トス

第七十五　照尺ノ用法及照準點

照尺ヲ定ムルニ方リ照尺度若シ照尺分劃ノ中間ナルトキハ其照尺度ニ近キ照尺ヲ採用スルモノトス躍進スル敵ニ對シテハ通常其運動中ニ照尺ヲ換フル事ナク射擊ヲ繼續シ敵ノ停止ヲ待チテ之ヲ改裝スルヲ有利トス

照準點ハ通常目標ノ下際トス然レトモ照準點ヲ修正スルヲ有利ナリト認メタル場合ニ於テハ各自適宜之ヲ修正スヘシ

第七十六　地形、地物利用ノ要旨

射擊ノ爲地形、地物ヲ利用スル要旨ハ銃ノ最大威力ヲ現ハスヲ主トシ次ニ遮蔽ノ效用ヲ顧慮スルニ在リ故ニ此趣旨ニ基キ

目標ノ景況ニ應シ諸種ノ地形、地物ニ就キ其價値ヲ判別シ之ヲ利用シテ射撃スルコトヲ練習スルヲ要ス而シテ何レノ場合ニ於テモ其射撃姿勢ハ自己ノ體格ニ最モ能ク適應セシムルヲ要ス

第二十三圖 其一

第二十三圖 其二

第二十三圖 其三

第七十七　基本的地物ノ利用法

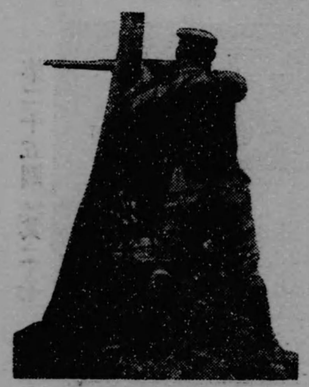
地皺又ハ土塊等ヲ利用シテ射撃姿勢ヲ堅確ナラシメ若ハ銃ヲ地物ニ依托スルハ射撃效力ヲ發揚スルニ價値ア

ルモノトス故ニ所要ニ應シ爲シ得レハ地形、地物ヲ改修スルノ著意ヲ必要トス

胸壔ニ據ル射撃ハ身體ノ左側又ハ前部ヲ内斜面ニ接シ左肘或ハ兩肘ヲ臂坐ニ置キ銃ヲ胸壔ニ托ス此場合ニ於テハ左手ヲ以テ床尾ヲ握リ拇指ヲ内側ニ當テ他ノ四指ヲ外側ニ當テテ銃ヲ肩ニ引キ著ケ右手ヲ以テ强ク銃把ヲ握リ射撃スルヲ可トス（第二十三圖參照）

樹木ノ後ロニ在リテ立射若ハ膝射ヲ爲ストキハ左手ノ前臂ヲ樹木ニ托スルヲ通常トス（第二十四圖參照）

第二十四圖 其一



第二十四圖 其二

第七十八　膝射ノ應用姿勢

地形、地物ヲ利用スル膝射ノ姿勢ニ在リテハ右足尖ヲ立テ臀ヲ右踵ノ上ニ載セ或ハ臀ヲ地若ハ右足（右踵）ヨリ上ケ或ハ兩膝ヲ開キテ地ニ著ケ或ハ兩脚ヲ前ニ出シ或ハ兩膝ヲ立テテ兩肘ヲ其上ニ置キ臀ヲ地ニ著ケ又左手ノ掌ヲ用心鐵ニ接シテ之

第二十五圖　其一

第二十五圖　其二

第二十五圖　其三

ヲ内ニ向ケ或ハ左肘ヲ膝ヨリ離シテ立射ノ如クスルコトアリ(第二十五圖參照)

第七十九　伏射ノ姿勢

敵ニ對シ左右ニ傾斜セル土地ニ於ケル伏射ノ姿勢ニ在リテハ射擊方向ニ對スル體ノ角度ヲ增減シ又ハ片肘ヲ開閉シ或ハ脚ヲ曲クル等ノ手段ニ依リ姿勢ノ安定ト据銃ノ確實トニ注意スル事必要ナリ

第八十　地形、地物利用上ノ注意

地形、地物ヲ利用スル射擊ニ在リテハ動

モスレハ地形、地物ノ利用ニ腐心シ却テ姿勢ノ堅確ヲ害シ或ハ銃ヲ左右ニ傾ケ特ニ銃ヲ地物ニ依托スル場合ニ於テハ据銃ノ確實ヲ缺キ又引鐵ノ引キ方粗略ニ流ルル等ノ弊ニ陷ラサル如ク深ク注意スヘシ

第二十五圖　其四

三　運動及運動ト射擊トノ連繫

第八十一　要旨

運動ヲシテ能ク狀況ニ適合セシメ特ニ發進及停止ノ動作ヲ機敏ニシ敵ヲシテ有利ナル目標ヲ捕捉シ難カラシムル如ク訓練スルヲ要ス之レカ爲各種地形、地物ヲ利用スルノミナラス各種ノ障碍物等ハ適切ナル姿勢ト步度トヲ以テ通過シ得ルヲ要ス

第二十五圖　其五

第八十二　銃ノ保持、歩度ノ選擇

運動ニ當リテハ第六十三ニ準シテ銃ヲ提ケ速歩、駈歩又ハ早駈ヲ用ヒ適宜ノ歩法ヲ以テ運動ス歩度ノ選擇ハ敵火ノ狀態、地形及運動ノ目的等ニ依リ異ナルモ敵彈下ニ在リテハ通常駈歩ヲ用ヒ敵火ノ效力著シキトキハ早駈ヲ用ヒ一地點ヨリ一地點ニ躍進スルヲ可トス然レトモ敵ノ有效射擊ヲ被ラザルトキハ速歩ヲ用フルヲ可トスルコトアリ

駈歩ヲ以テ一躍前進スヘキ距離ハ土地ノ景況、敵火ノ强弱等ニ依リ一定セサルモ通常五十米ヲ越エサルヲ可トス而シテ前進愈〻困難ナルトキハ更ニ短距離ニ止ムルヲ必要トスルモ過度ニ之ヲ短縮シテ前進ノ氣勢ヲ減殺スル事ナキニ注意スヘシ

第八十三　動作ノ要領

運動間一地點ヨリ一地點ニ敏速ニ直進シ各種ノ障碍物ヲ輕快ニ通過シ或ハ僅ニ方向ヲ偏移シ又ハ身體ヲ屈シテ地形、地物ヲ巧ニ利用シ敵ニ近接スルコトニ熟スルヲ必要トス又各自ハ常ニ行進方向ヲ確實ニ保持スルニ留意スルヲ要ス

第八十四　射擊中ヨリ駈歩(早駈)前進

射擊中ノ者ヲ駈歩(早駈)ニテ前方(斜前方)ニ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

駈歩(早駈)
前へ〔斜ニ右(左)へ〕

「駈歩」〔「早駈」〕ノ號令ニテ銃ヲ安全裝置ニシ表尺ヲ倒シ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ迅速ニ前進準備ヲ整ヘ「前へ」〔「斜ニ右(左)へ」〕ノ號令ニテ直ニ駈歩(早駈)ニテ前進ス此際準備ノ爲著シク姿勢ヲ變化シ敵ノ注意ヲ喚起シ無益ノ損害ヲ受ケサルコト必要ナリ

駈歩若ハ早駈ヲ爲ス場合ニ於テハ劍鞘ヲ握ラサルモ妨ナシ

第八十五　射擊中ヨリ速歩前進

速歩ニテ前方(斜前方)ニ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前へ〔斜ニ右(左)へ〕

速ニ銃ヲ安全裝置ニシ表尺ヲ倒シ速歩ニテ前進ス

第八十六　射擊シアラサルトキノ發進

射擊シアラサルトキノ發進ハ前諸項ニ準シテ行フモノトス

第八十七　行進間ノ動作

行進間斜行進(斜行進間直行進)ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜ニ右(左)へ〔斜ニ左(右)へ〕

第八十八　射擊ノ爲停止

射擊ノ爲停止セシムルニハ「止レ」ノ號令ヲ下ス

各自ハ射擊ノ爲利用セントスル地形、地物ヲ瞬時ニ選擇シ之ニ適應スル射擊姿勢ヲ取リ速ニ射擊ノ準備ヲ完了ス此際地形、地物ノ選擇利用ノ爲躊躇スルコトアルヘカラス

第八十九　射擊ノ目的ヲ有セサル場合ノ停止

射擊目的ヲ有セスシテ停止セシムルニハ「伏セ」〔「折敷」〕ノ號令ヲ下ス

各自ハ敏活ニ地形、地物ヲ利用シテ伏臥

(折敷)ヲ爲シ敵ノ目視ヲ避クルヲ必要トス此際爾後ノ前進ニ方リ敵ノ意表ニ出テ或ハ更ニ有利ナル遮蔽ヲ求ムル爲要スレハ敵ノ目視ヲ避ケツヽ僅ニ位置ヲ移動スルヲ可トスル事アリ

伏臥ニ方リテハ照星及銃口ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

四 突擊

第九十 要旨

各種ノ狀況、地形特ニ突擊後敵陣內ニ於テ突擊及射擊ヲ反復互用スル動作ヲ演練シ烈猛ナル突擊ト沈着ナル射擊トノ轉換訓練ヲナスヲ主眼トス

第九十一 要領

敵ニ近接シテ突擊ノ顧慮アルニ至レハ各自自ラ著劍スルモノトス

突擊ノ爲ニハ第六十三ヲ準用ス但狀況ニ依リ適宜步度ヲ伸暢ス

五 戰鬪間一般ノ心得

第九十二 要旨

戰鬪ハ行軍及劇動ノ後開始スルヲ常トシ且數晝夜ニ亙ルコト多シ故ニ戰鬪員ハ勇猛沈著能ク自信ト耐忍トヲ以テ有ユル困苦缺乏ニ堪ヘ步兵戰鬪ノ慘烈ナル感情ニ克チ以テ戰鬪ノ要求ヲ充足シ得サルヘカラス

第九十三 紛戰時ノ心得

敵陣內ノ戰鬪ニ在リテハ常ニ紛戰ヲ惹起ス此時ニ方リテハ一人ト雖モ勇敢ニシテ機宜ニ適スル行動ヲ爲ストキハ能ク戰勝

ノ基ヲ開キ得ルモノナリ故ニ戰鬪員ハ指揮及ハサル場合ニ於テモ時々刻々變化スル戰況ニ應シ各〻所信ヲ決行シ特ニ己ヲ捨テテ捷ヲ得シムルノ覺悟アルヲ必要トス

第九十四 防禦時ノ心得

防禦ニ在リテハ專心其位置ヲ固守シ決シテ動搖スヘカラス敵愈〻近接スルニ從ヒ我カ火器ノ殺傷力益〻多キコトヲ確信シ泰然逆襲ノ時機ヲ待ツヘシ若彈藥ヲ射盡シ又ハ敵ノ重圍ニ陷リタルトキハ自己ノ銃劍ニ信賴シ最後ノ勝利ヲ求ムルコトニ勉ムヘシ

第九十五 部隊混淆セシ場合ノ心得

數箇ノ部隊相混淆シ新ニ區分セラレサルトキハ最寄分隊長ノ指揮ヲ受ケ奮鬪スルコト所屬分隊長ノ下ニ於ケルカ如クナルヘシ

第九十六 所屬部隊ヲ離ルヽ場合

戰鬪員ハ許可ナク其所屬部隊ヲ離ルルコトヲ得ス若任務ヲ帶ヒス或ハ任務ヲ受ケテ一時戰線ヲ離ルル場合ニ於テモ其任務終行後速ニ復歸セサルカ如キハ不可ナリ

所屬部隊ノ所在ヲ失ヒタルトキハ直ニ近傍ニ於テ戰鬪スル部隊ニ合シ其隊長ニ屆告シ其命ニ從フヘシ而シテ戰鬪終レハ直ニ其所屬部隊ニ復歸スルヲ要ス

第二編　部隊教練

第一章　密集

一　要旨

第九十七　密集教練ノ目的

衆心一致擧手恰モ一體ノ如ク行動スルコトニ慣熟セシメ以テ規律ヲ嚴守シ團結的精神ノ基調タル各責務ヲ重ンシ一意專心之カ遂行ニ努力スルノ精神ヲ涵養スルニ在リ

第九十八　號令、命令ノ使用

中(小)隊ヲ指揮スルニハ號令若ハ命令ヲ分隊ヲ指揮スルニハ通常號令ヲ用フ

第九十九　密集部隊ノ特性

密集隊形ハ團結力ヲ維持シ且指揮官ノ掌握ヲ容易ナラシムルモノニシテ敵火ノ效力甚シカラサル所ニ在リテハ成ルヘク此隊形ヲ以テ停止シ運動スヘキモノトス特ニ夜間ニ在リテハ此隊形ヲ以テ突擊ヲ實施スルコト多シ

第百　中隊教練ノ主眼

中隊密集教練ハ中隊長ノ號令ニ從ヒ一致ノ目的ノ下ニ等シク行動擧止スルコトニ依リ團結的精神ヲ涵養スルヲ主眼トス

第百一　小(分)隊教練ノ目的

中隊密集教練ヲ準備シ且分隊、小隊ノ團結力ヲ鞏固ナラシムル爲中隊密集教練ノ

規定ニ從ヒ分隊、小隊ヲ以テ教練ヲ行フ但號令中「中隊」ノ語ヲ「分隊」「小隊」ニ換フ

第百二　中隊密集教練ニ於ケル小隊長ノ動作

中隊密集教練ニ在リテハ小隊長ハ其小隊ノ爲スヘキ動作ヲ小聲ニテ豫告スルモ妨ナシ又整頓、隊形變換等ニ在リテハ小隊ノ動作ヲ監視スルモノトス

第百三　側面縱隊ニ關スル規定

側面縱隊ニ關スル事項ハ特ニ定ムルモノノ外併立縱隊ノ爲規定セル事項ヲ準用ス

二　編成及隊形

第百四　編成

小隊ハ列員ヲ概ネ身幹ノ順序ニ從ヒ前後二列ニ排列シ横隊ヲ作ル而シテ其前後ニ立チタル二人ヲ伍ト謂フ列員奇數ナルトキハ左翼ノ第二列ヲ缺ク之ヲ缺伍ト謂フ

後列員ハ前列員ノ背嚢(背嚢ヲ負ハサルトキハ背)ヨリ胸マテ八十五糎ノ距離ヲ取リ正シク前列員ニ重リ同方向ニ位置ス

列員ノ間隔ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張リタルトキ輕ク左隣ノ者ノ右臂ニ觸ルルヲ度トス

小隊ノ各伍ハ第一列ニ於テ右ヨリ左ニ番號ヲ附ス之ヲ小隊ノ正面トス

分隊ハ小隊内ニ於テ右翼ヨリ順序ニ番號ヲ附ス其列員ハ八乃至十二名トス小隊ノ兩翼ニ各、其翼ノ分隊長ヲ置ク其他ノ分

隊長ハ分隊ノ概ネ中央ノ奇數伍ニ重リ後列ヨリ二歩ノ所ニ位置ス之ヲ押伍ト謂フ

中隊ハ之ヲ三小隊ニ分チ第一乃至第三ノ番號ヲ附ス

編成ニ方リテハ小隊及分隊ノ能力ヲ考慮スルヲ要ス

第百五　中隊ノ密集隊形ノ種類及用途

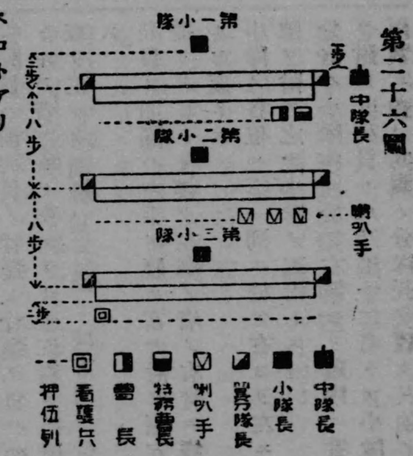
密集隊形ハ中隊縱隊、併立縱隊及側面縱隊トス

中隊縱隊ハ主トシテ集合及短距離ノ運動ニ、併立縱隊及側面縱隊ハ主トシテ運動ニ用フ

第百六　中隊縱隊（第二十六圖參照）

時宜ニヨリ八歩ノ距離ヲ伸縮シ又小隊ノ順序ニ拘ラス重疊シ或ハ小隊ヲ一列ト爲スコトアリ

第二十六圖



特務曹長、曹長ハ第一小隊喇叭手ハ第二小隊看護員ハ第三小隊ノ押伍列ニ在リテ奇數伍ニ重ル如ク位置シ其小隊ト共ニ行動ス時宜ニ依リ中隊長ハ此等ノ位置ヲ適

宜變更スルコトヲ得

第百七　併立縱隊、側面縱隊

併立縱隊ハ中隊縱隊ヲ側面ニ向ケタルモノ側面縱隊ハ側面ニ向キタル小隊ヲ重疊シタルモノニシテ通常四列トス又時宜ニ依リ此等ヲ三(二)(一)列ト爲スコトアリ

此場合ニ於ケル各員ノ距離ハ四列ノ場合ニ同シ併立縱隊ニ在リテハ押伍列ニ在ル者ハ各〻其伍ニ列ヒ小隊長ハ其先頭分隊長ノ外側ニ接シテ位置シ中隊長ハ左小隊長（左側面ニ向キタル場合ニ於テハ右小隊長）ノ外側二歩ノ所ニ位置ス

三　整頓

第百八　整頓ノ目的

外形上ニハ隊容ヲ整ヘ之ヲ莊嚴ナラシメ部隊教練ノ基礎ヲ作リ內容上ニ於テハ嚴肅緊張ノ裡ニ規律、秩序ノ觀念ヲ養成シ物事ヲ几帳面ニ整頓スルノ習性ヲ與ヘ協同、團結心、責任觀念、注意力、機敏性ヲ陶冶スルニ在リ

第百九　整頓ノ要領

整頓完全ナルトキ各列員ハ整頓線上ニ正シキ姿勢ヲ取リ頭ヲ右(左)ニ廻ハストキ右(左)ノ眼ヲ以テ其右(左)隣ノ者ヲ視、他ノ眼ヲ以テ全線ヲ視通スコトヲ得ルモノトス

列員整頓線ニ就クトキハ足ノ位置ヲ正シクシ頭、肩又ハ上體ヲ前後ニ出スコトナク正確ナル姿勢ヲ以テスルヲ必要トス特ニ足ノ位置正シカラサルトキハ之カ爲兩肩整頓線ニ在ラスシテ其害自己ニ止ラス

必ズ隣者ニ及フモノトス

第百十　中隊縱隊ノ整頓

中隊縱隊ニ在ル中隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

嚮導何歩前ヘ

先頭小隊ノ兩翼分隊長ハ銃ヲ擔フコトナク前進シ中隊長ハ其位置ヲ正シタル後左ノ號令ヲ下ス

右(左)ヘ　準ヘ(ナラヘ)

「準ヘ」ノ動令ニテ中隊ハ銃ヲ擔フコトナク前進シ最後ノ一歩ヲ縮メテ整頓線ノ少シク後方ニ止リ頭ヲ右(左)ニ廻ハシ小歩ニテ靜ニ整頓線ニ就キ銃ヲ下ロス但翼分隊長及前後列員ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張リ後列及押伍列ニ在ル者ハ先ツ正シク前方ノ者ニ重リテ距離ヲ取リ次ニ右(左)ノ方ニ整頓ス

整頓翼ノ分隊長ハ速ニ整頓ノ基礎ヲ定ムル爲反對翼ノ分隊長ヲ目標トシ先ツ己ニ近キ二、三ノ者ノ位置ヲ正シ要スレハ逐次ニ整頓ヲ正ス反對翼ノ分隊長ハ要スレハ己ニ近キ二、三ノ者ノ位置ヲ正シ以テ整頓ヲ補助ス

後方小隊ノ整頓翼ノ分隊長ハ正シク距離ヲ取リ前方小隊整頓翼ノ分隊長ニ重ルモノトス

「直レ」ノ號令ニテ中隊ハ頭ヲ正面ニ復シ翼分隊長及前後列員ハ左手ヲ下ロス

其位置ニ於テ整頓セシムルニハ單ニ「右(左)ヘ　準ヘ」「直レ」ノ號令ヲ下ス

第百十一　併立縱隊ノ整頓

併立縱隊ニ在ル中隊ヲ整頓セシムルニハ

通常基準小隊ヲ示シ「準ヘ」ノ號令ヲ下ス

此號令ニテ小隊ノ先頭分隊長ハ基準小隊ノ方ニ整頓シ各小隊舊正面ノ方ニ在ル者及後尾分隊長ハ正シク距離ヲ取リテ先頭分隊長ニ重リ其他ノ者及押伍列ニ在ル者ハ前方ノ者ニ重リ且小隊毎ニ舊正面ノ方ニ整頓ス

「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復ス

四　射擊及彈藥ノ裝塡、抽出

第百十二　要旨

中隊ノ射擊ハ小隊ヲ指定シテ行ハシメ要スレハ其位置ヲ示ス

小隊長ハ射擊指揮ヲ爲ス

第百十三　要領

射擊ヲ行フニハ方向、目標、姿勢並照尺要スレハ照準點ヲ令スルモノトス

射擊姿勢ハ要スレハ前列ノ者ニ低キ姿勢ヲ取ラシムルコトアリ

伏射ハ通常一列ニテ行フモノトス

射擊ヲ爲サシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

左前方一軒家ノ右ノ騎兵

立射(ヨシ)(徠射)(伏射(キウ))の構ヘ　銃

四百(七百)(九百)

擊テ

「立射(膝射)ノ構ヘ」ノ號令ニテ後列員ハ約一歩左前ニ距離ヲ閉チ「銃」ノ動令ニテ前後列員共ニ射擊姿勢ヲ取ル

「擊テ」ノ號令ニテ列員ハ射擊ヲ開始シ之ヲ連續ス

押伍列ニ在ル者ハ立射ニ在リテハ動作スルコトナク膝射(伏射、逆射)ニ在リテハ折敷(伏臥)ヲ爲ス押伍列若前方ニ在ルトキハ豫令ニテ後列ノ後方ニ移ル

小隊長及分隊長ハ所要ニ應シ適宜ノ位置ト姿勢トヲ選ヒ敵情並列員ノ動作ニ注意ス

射撃ヲ止メタルトキハ分隊長、押伍列ニ在ル者及後列員ハ定規ノ位置ニ就ク

飛行機ヲ射撃スルニハ立射、膝射ノ姿勢ヲ應用シ又ハ逆射ヲ用フルモノトス

第百十四　裝塡、抽出

第五十一、第五十三ニヨリ動作ス

五　右(左)向及後向

第百十五　中隊縱隊ノ右(左)向

中隊縱隊ニ在ル中隊右(左)向ヲ爲セハ偶數(奇數)ハ奇數(偶數)ノ右(左)ニ出テ伍ヲ組ミ四人相列ヒ小隊長、翼分隊長及押伍列ニ在ル者ハ各、其位置ニ在リテ右(左)向ヲ爲シ第百七ニ定メタル位置ニ就キ併立縱隊トナル

第百十六　併立縱隊ノ左(右)向

併立縱隊ニ在ル中隊左(右)向ヲ爲セハ伍ヲ解キ小隊長、翼分隊長及押伍列ニ在ル者ハ各、其位置ニ在リテ左(右)向ヲ爲シ第百六ニ定メタル位置ニ就キ中隊縱隊トナリ各自右(左)ノ方ニ整頓ス

第百十七　中隊縱隊ノ後向

中隊縱隊ニ在ル中隊後向ヲ爲セハ翼分隊長及缺伍ハ前列ニ就ク

六　行進

第百十八　中隊縱隊ノ行進

中隊縱隊ノ直行進ハ常ニ右方ニ嚮導ヲ取ル若左方ニ取ルトキハ特ニ之ヲ示スヘシ

中隊長ハ號令ヲ下スニ先チ通常嚮導ノ行進目標ヲ示スモノトス

中隊ハ一齊ニ行進ヲ起シ嚮導ニ準ヒテ行進ス嚮導ハ列員ニ關スルコトナク正規ノ歩長ト速度トヲ保チ示サレタル目標ニ向ヒ若ハ正面ト直角ニ行進ス後方小隊ノ嚮導ハ其前方小隊ノ嚮導ノ進ミタル線ヲ蹈ミ常ニ八歩ノ距離ヲ保ツヘシ行進中嚮導ヲ他翼ニ取ルヲ要スルトキハ「嚮導左(右)」ノ號令ヲ下ス

第百十九　併立縱隊ノ行進

併立縱隊ノ行進ニ在リテハ中隊長ハ通常基準小隊ヲ示シ且要スレハ其小隊ノ嚮導ノ行進目標ヲ示スモノトス

行進ニ方リテハ基準小隊ノ嚮導ハ列員ニ關スルコトナク正規ノ歩長ト速度トヲ保チ眞直若クハ示サレタル目標ニ向ヒ行進シ他小隊ノ嚮導ハ要スレハ頭ヲ左右ニ廻ハシ關係位置ヲ保チテ行進ス

各小隊舊正面ノ方ニ在ル列員及後尾分隊長ハ嚮導ノ進ミタル線ヲ蹈ミ其他ノ列員及押伍列ニ在ル者ハ舊正面ノ方ニ準ヒ前方ノ者ニ重リテ行進ス

第百二十　行進間ノ右(左)向及後向

行進間ノ右(左)向及後向ハ第百十五及第百十六ニ從フ併立縱隊ヨリ中隊縱隊ニ移

リ續キテ行進スルトキハ要スレハ嚮導ヲ示スモノトス

第百二十一　斜行進

斜行進ニ在リテハ各列員ノ位置正シキトキハ其肩互ニ平行シ右(左)斜行進ニ在リテハ各列員ノ右(左)肩ハ概ネ其右(左)隣ノ者ノ左(右)肩ノ後ロニ在ルモノトス

各列員ハ常ニ斜行スル方ニ整頓ス直行進ニ復シタルトキハ要スレハ嚮導ヲ示スモノトス

第百二十二　行進間列員ノ守ルヘキ要件

一、歩長及速度ノ齊一ト間隔及距離ノ保持ニ注意スルコト

二、列員ハ常ニ頭ヲ正シク保チ嚮導ノ方ニ整頓スル爲頭ヲ廻ハスコトナク整頓スヘキ方ニ在ル隣ノ者並前方ノ者ニ注意スルコト

三、整頓翼ヨリ押シ來ルトキハ之ニ從ヒ反對ノ方ヨリ押シ來ルトキハ之ヲ支フルコト

四、整頓線ヨリ進ミ或ハ後レ又間隔ヲ失ヒタルトキハ漸次ニ恢復スルコト

五、中隊縱隊ノ行進ニ在リテ障碍物等ニ遭遇シ行進シ能ハサルトキハ直ニ左右ニ之ヲ避クルコトナク足蹈ヲ爲シ隣ノ者等ニ妨ナキニ至リ速ニ舊位置ニ復歸スヘシ

六、若歩ノ違ヒタルトキハ蹈替ヲ爲シ速ニ整頓翼ノ方ナル隣者ノ歩ニ準フヘシ

第百二十三　停止

中隊ヲ停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

中隊止レ

中隊ハ停止シ中隊縱隊ニ在リテハ各自嚮導ノ方ニ整頓シ併立縱隊ニ在リテハ動クコトナシ

第百二十四　其他

併立縱隊ニ在リテ行進シアル中隊ヲ止メ直ニ側面ニ向ヒ中隊縱隊ヲ作ラシムルニハ「左(右)向け　止レ」ノ號令ヲ下ス中隊ハ停止シ第百十六ニ從ヒ中隊縱隊トナリ行進セシ方ニ整頓ス

擔銃、立銃、折敷及伏臥ハ中隊概ネ齊一ニ行ヒ得ルヲ以テ度トス

七　方向變換

第百二十五　要旨

方向ヲ換フルニハ停止間ニ在リテハ銃ヲ擔フコトナク行ヒ若駈歩ヲ以テ之ヲ行フヲ要スルトキハ豫令ノ次ニ「駈歩」ノ號令ヲ加ヘ行進間ニ在リテハ常ニ駈歩ヲ用フ

第百二十六　中隊縱隊ノ方向變換

中隊縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)に方向(ムキ)を換へ　進メ

停止間ニ在リテハ先頭小隊ノ軸翼ニ在ル分隊長ハ右(左)向ヲ爲シ其他ハ半右(左)向ヲ爲シ捷路(チカミチ)ヲ經テ逐次新線ニ到リ停止シ其右(左)隣ノ者ニ整頓ス後方小隊ハ各自己ノ占ムヘキ位置ニ到リ右(左)ノ方ニ整頓ス行進間ニ在リテハ先頭小隊ハ方向ヲ換ヘツツ新方向ニ行進シ後方小隊ハ先頭小隊ト同所ニ到リ號令ナクシテ方向ヲ換ヘツツ先頭小隊ニ續行ス中隊長ハ先頭小隊ノ方向ヲ換ヘ終ラントスルトキ要ス

レハ嚮導ヲ示ス

第百二十七　側面縱隊ノ方向變換

側面縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ「伍々左(右)ヘ　進メ」ノ號令ヲ下ス此號令ニテ先頭伍ハ小ナル環形ヲ歩ミ停止間ニ在リテハ前進ヲ起スト同時ニ以上ノ動作ヲ爲シ旋回軸ニ在ル者ハ最初ノ數歩ヲ縮メ外翼ニ在ル者ハ正規ノ歩長ヲ以テ行進シ常ニ旋回軸ノ方ニ整頓シツツ左(右)ニ方向ヲ換ヘ續キテ行進ス各伍ハ其前ノ伍ト同所ニ到リ同法ヲ以テ方向ヲ換フ

第百二十八　併立縱隊ノ方向變換

併立縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ「右(左)に方向を換へ　進メ」ノ號令ヲ下ス此號令ニテ停止間ニ在リテハ軸翼ニ在ル小隊ハ伍々右(左)ニ方向ヲ換ヘ小隊ノ深サタケ新方向ニ進ミテ停止シ他ノ小隊ハ逐次其齊頭面ニ到リテ停止ス行進間ニ在リテハ軸翼ニ在ル小隊ハ前ト同法ヲ以テ方向ヲ換ヘツツ行進シ其他ノ小隊ハ逐次其齊頭面ニ到リ續キテ行進ス

第百二十九　小角度ノ方向變換

少シク方向ヲ換ヘシムルニハ豫メ新目標(方向)ヲ示スヘシ

八　隊形變換

第百三十　要旨

隊形ヲ換フルニハ既ニ掲クル諸制式ニ從ヒ實施スルノ外左ノ要領ニ從フヘシ之カ爲第百二十五ヲ適用ス

第百三十一　側面縱隊ヨリ同方向ニ中隊縱隊

側面縱隊ヨリ同方向ニ中隊縱隊ヲ作ラシムルニハ「中隊縱隊作れ　進メ」ノ號令ヲ下ス小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭ニ在ル分隊長ハ動カサルカ或ハ續キテ行進シ先頭小隊ノ列員ハ伍ヲ解キ捷踏ヲ經テ横隊ヲ作リ後方小隊ハ先頭小隊ニ準シテ小隊毎ニ横隊ヲ作リ定規ノ距離ヲ取ル

小隊ノ側面縱隊ヨリ同方向ニ横隊ヲ作ラシムルニハ「右(左)へ並ひ　進メ」ノ號令ヲ下ス

第百三十二　側面縱隊ヨリ同方面ニ併立縱隊

側面縱隊ヨリ同方向ニ併立縱隊ヲ作ラシムルニハ「併立縱隊作れ　進メ」ノ號令ヲ下ス小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭小隊ハ動カサルカ或ハ續キテ行進シ中央(後尾)小隊ハ右(左)方ニ定規ノ間隔ヲ得ル如ク進出ス

一側ニ併立縱隊ヲ作ラシムルニハ「左(右)へ併立縱隊作れ　進メ」ノ號令ヲ下ス

九　突擊

第百三十三　突擊ノ目的精神及要領

中隊長ヲ核心トシ團結力ヲ最高度ニ發揮シ猛烈果敢ナルヲ要ス敵ヲ擊退スルヤ成ルヘク速ニ追擊射擊ヲ行フヘシ中隊長ハ突擊ニ方リ要スレハ突擊ノ譜ヲ連奏セシム

十　途歩

第百三十四　要領

行進間途歩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

途歩（ミチアシ）

各人ハ歩法ヲ守ルコトナク又歩ヲ調フルヲ要セス姿勢ヲ自由ニシ特別ノ場合ノ外ハ談話シ唱歌スルコトヲ得刀ハ鞘ニ納メ銃ハ指揮者ノ規定スル所ニ從ヒ擔フ分隊長缺伍ノ者等モ皆列中ニ入リ伍ヲ作ル

途歩行進間速歩（駈歩）ヲ爲サシムルニハ「速歩（駈歩）進メ」ノ號令ヲ下ス

十一　叉銃及解銃

第百三十五　要旨

部隊ヲ休憩セシムル際又ハ徒手ノ動作ヲナス爲ニ銃ヲ安全ナル狀態ニオク爲行フモノニシテ特ニ協同ノ精神ヲ養フヲ主眼トス叉銃及解銃ハ注目シテ之ヲ行フモノトス

第百三十六　叉銃ノ要領

中隊縱隊ニ在ル中隊ニ叉銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

叉メ銃（クワツメ）

奇數伍ノ前列員ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ銃身ヲ前ニシツツ床尾踵ヲ右足尖ヨリ床尾鈑ノ約三倍タケ前ニ出シ兩手ヲ以テ銃ヲ左ノ方ニ傾ク偶數伍ノ前列員ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ床尾踵ヲ左足尖ヨリ床尾鈑ノ約三倍タケ前ニ出シ銃身ヲ後ロニシ兩手ヲ以テ銃ヲ右ノ方ニ傾ケ右隣ノ者ト棚杖ヲ組ミ合ハス

奇數伍ノ後列員ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ兩手ヲ以テ銃ヲ上ケ右足ヲ蹈ミ出シ

既ニ組ミタル前列員ノ棚杖ニ組ミ合ハシ床尾踵ヲ左隣ノ者トノ間隔ノ中央前ニ置ク偶數伍ノ後列員ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ兩手ヲ以テ銃身ヲ前ニシテ左足ヲ蹈ミ出シ其照星ノ下ノ所ヲ既ニ組ミタル棚杖ニ寄セ掛ケ銃ハ奇數伍ノ後列員ノ銃ト平行ニス左翼伍奇數ナルトキハ適宜押伍列ニ在ル者ト共ニ叉銃ヲ爲ス著劍シタルトキ叉銃ヲ爲スニハ右ノ要領ニ準シ鍔（ツバ）ヲ以テ組ミ合スモノトス（第二十七圖參照）

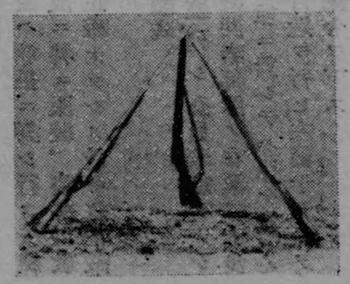
第百三十七　解銃

中隊縱隊ニ在ル中隊ノ叉銃ヲ解カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

解ケ銃（トツツ）

偶數伍ノ後列員ハ左足ヲ蹈ミ出シ兩手ヲ以テ其銃ヲ取リ其他ノ三名（奇數伍ノ後列員ハ右足ヲ蹈ミ出シ）ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ銃ヲ上ケ靜ニ交叉ヲ解キ不動ノ姿勢ヲ取ル

第二十七圖



十二　解散及集合

第百三十八　解散及集合ノ精神

部隊ノ解散及集合ハ機敏迅速而シテ靜肅

ニシテ死節時ヲ省キ團體行動ノ訓練ヲナシ機敏性及秩序觀念等ノ陶冶ヲナスニ在リ

第百三十九　解散

中隊ヲ解散(ワカ)セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

解レ

又銃シダルトキハ列員ハ之ニ觸ルルコトナク解散シ翼分隊長及押伍列ニ在ル者ノ銃ハ適宜列員ノ叉銃ニ寄セ掛クルモノトス但一叉銃ハ五挺ヲ越ユヘカラス

第百四十　集合

中隊ヲ集合(アツマ)セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

集レ

右翼分隊長ハ速ニ中隊長ノ前ニ來リ中隊縱隊ノ定位ニ就キ各列員ハ其左ノ方ニ番號ノ順序ニ從ヒ二列トナリ整頓ス

叉銃ヲ爲シ解散シアルトキハ各列員ハ直ニ叉銃ノ所ニ集リ靜ニ己ノ位置ニ就ク翼分隊長及押伍列ニ在ル者ハ其銃ヲ取ル

十三　敬禮及閲團分列

第百四十一　要旨

至尊ニ對シ奉リ或ハ尊長ニ對シ行フ教練精華ノ發揮ナリ故ニ特ニ服裝、姿勢、敬禮其他諸動作ヲ正確ナラシメ最モ整正嚴肅ニ行フヲ要ス

第百四十二　閲團式

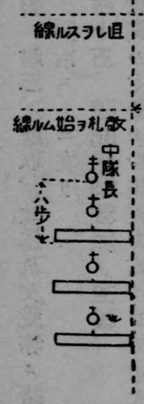
通常中隊縱隊ニ整列シ全員著劍ヲナシ(帶刀者ハ拔刀)觀閲者部隊ノ右翼二十歩ニ來ラハ頭右(至尊ニ對シテハ捧ケ銃)ノ敬禮ヲナシ目迎目送ヲ行ヒ左翼十五歩ヲ距リテ「直レ」ノ號令ヲ下ス

第百四十三　分列式

分列ノタメ行進ヲナサシムルニハ著劍ヲ令シタル後「分列に前へ　進メ」ノ號令ヲ下ス

帶刀者ハ「肩へ刀」ノ儘行進シ中隊長敬禮線ニ入ル際(近キ標員)頭右ノ號令ヲ下ス

第二十八圖



右翼分隊長ノ外全員頭右ヲナシ受禮者ニ注目ス部隊ノ後尾(遠キ標員)ノ線ヲ通過スルニ至ラハ「直レ」ノ號令ヲ下ス(第二十八圖參照)

帶刀者ハ至尊、軍旗ニ對シテハ刀ヲ以テ敬禮ヲ行フモ其他ハ肩刀ノ儘頭右ノ敬禮ヲ行フ但シ總指揮官ハ常ニ刀ノ敬禮ヲナス

第二章　疎開戰鬪教練

要旨

第百四十四　疎開教練ノ目的

現時戰鬪法ノ概念ヲ會得シ以テ自己ノ責務ニ對スル自覺ト自主自立ノ心神ヲ教養

シ沈勇、耐忍、進取、敢爲及友愛等ノ諸德性ヲ陶冶スルニ在リ

第百四十五　疎開戰鬪教練ノ主眼

疎開戰鬪ハ主要ナル戰鬪方式ニシテ敵火ノ效力ヲ減殺シ我カ火力及突擊力ヲ遺憾ナク發揚スルヲ本旨トス而シテ中隊長ノ的確ナル指揮掌握ト小隊長以下ノ適切ナル協同動作竝機宜ニ適スル獨斷專行トハ本戰鬪遂行上緊要ナル要求ニシテ之ヲ充足シ常ニ有利ニ戰鬪ヲ實行シ得ル如ク演練スルハ中隊疎開戰鬪教練ノ主眼ナリ

第百四十六　疎開ニ於ケル運動

戰況ニ基キ小隊(分隊)間ノ距離間隔ヲ開クニ至レハ(中隊)小隊ハ疎開ニ移リタルモノトス爾後小隊及分隊ハ密集セル隊形ニ在リテモ散開セル分隊運動ノ爲規定セル號令ヲ適用シ又ハ密集制式ニ準シ簡單ナル號令詞ヲ用ヒ一令ニテ之ニ關聯スル數動作ヲ併セ行フモノトス例ヘハ折敷ニ在ル際「前ヘ」「斜ニ右(左)ヘ」ノ一令ニテ行進(斜行進)ヲ起スカ如シ此際幹部及列員ハ正規ノ姿勢及步法ヲ嚴守スル事ナク敏活ニ行動スルヲ要ス

第百四十七　散開隊形

疎開戰鬪ニ在リテハ分隊ハ火戰ヲ行フ爲散開隊形ヲ用ヒ小銃分隊ハ多クノ場合突擊ニモ亦此隊形ヲ用フルモノトス

散開隊形ニ在ル者ヲ散兵ト稱ス

第百四十八　分隊散開教練ノ主眼

分隊散開教練ノ主眼トスルトコロハ分隊ヲシテ如何ナル場合ニ於テモ分隊長ノ指揮ニ從ヒ擧止恰モ一體ノ如ク戰鬪シ得シ

ムルニ在リ

第百四十九　散兵ノ心得

分隊散開教練ニ在リテハ散兵ヲシテ耳目ヲ活動シ絕エス敵及指揮者ニ注意シ隣者ヲ顧慮シ各個教練ニ於テ修得セル戰鬪動作ヲ確實ニ行ヒ益〻其能力ヲ向上スルヲ要ス

第百五十　散開教練實施上ノ注意

分隊散開教練ニ在リテハ最初ハ其人員ヲ寡クシ漸次ニ之ヲ增シ以テ綿密周到ニ教育ヲ實施スルコト緊要ナリ

第一節　分隊

一　分隊戰鬪ノ爲ノ前進

第百五十一　分隊ノ隊形

戰鬪ノ爲ノ前進間小隊疎開セハ各分隊ハ通常一列側面縱隊ヲ以テ行進シ分隊長ハ行進間敵火ノ狀態ニ依リ分隊ヲ散開セシメ或ハ一タヒ散開セル後ト雖モ狀況特ニ地形之ヲ許セハ再ヒ之ヲ集結シ又停止ニ方リテハ地形ニ適應セシムル爲適宜分隊ノ位置、隊形及姿勢ヲ選定スルモノトス

第百五十二　分隊ノ前進停止

分隊ノ前進停止ハ小隊長ノ命令ニヨリ分隊長ノ號令ヲ以テ行フ號令ハ第百四十六ニヨルモノトス

二　散開ノ方法

第百五十三　散開ノ要旨

散開ハ諸方向ニ對シ順序正シク靜肅且敏活ニ行ヒ得ルヲ必要トス

散開スルトキハ各散兵ノ間隔ハ狀況ニ依リ之ヲ定ムヘキモノトス而シテ別命ナケレハ約四歩トス

第百五十四　側面縱隊ノ散開

一列側面縱隊ニテ停止或ハ行進シアル分隊ヲ前方ニ散開セシムルニハ要スレハ散開ノ爲必要ナル指示ヲ與ヘタル後左ノ號令ヲ下ス

散レ

先頭ノ者ハ速歩ヲ以テ眞直ニ行進ヲ起スカ或ハ續キテ行進シ其他ノ者ハ前半部ハ左ヘ後半部ハ右ヘ駈歩ヲ以テ斜行シ先頭ニ近キ者ヨリ逐次間隔ヲ取リツツ新線ニ就キ續キテ行進ス

其位置ニ散開セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

其場ニ散レ

先頭ノ者ハ其場ニ位置ヲ占メ其他ノ者ハ第二項ニ從ヒ間隔ヲ取ル

一翼ニ散開セシムルニハ「左(右)ヘ散レ」「其場ニ左(右)ヘ散レ」ノ號令ヲ下ス

二列以上ノ側面縱隊ヨリ散開スルニハ一列側面縱隊ヨリ散開スル方法ヲ準用ス

第百五十五　横隊ノ散開

一列横隊ニテ停止或ハ行進シアル分隊ヲ前方(其場)ニ散開セシムルニハ基準ヲ示シタル後「散レ」(「其場ニ散レ」)ノ號令ヲ下ス

基準ノ者ハ速歩ヲ以テ眞直ニ行進ヲ起スカ或ハ續キテ行進シ(其場ニ於テ位置ヲ占メ)其他ノ者ハ駈歩ヲ以テ右若ハ左ニ斜行シ(右向若ハ左向ヲ爲シ駈歩ヲ以テ)

間隔ヲ取リツツ新線ニ就ク二列横隊ヨリ散開スルニハ一列横隊ヨリ散開スル方法ヲ準用ス

第百五十六　四歩以外ノ間隔及斜方向ノ散開

四歩以外ノ間隔ニ散開セシムルニハ「散レ」ノ號令ノ前ニ「何歩ニ」ヲ加フヘシ

斜方向ニ散開セシムルニハ號令ノ前ニ目標(方向)ヲ示スヘシ

第百五十七　退却ノ場合ノ散開

退却スル分隊ヲ散開セシムルニハ先ツ敵方ニ向ケ次ニ散開ノ號令ヲ下スモノトス

三　散兵線ノ運動

第百五十八　要旨

小銃分隊ハ輕機關銃分隊及他ノ小銃分隊ト密接ニ協同シ特ニ其運動ヲシテ各種火器就中輕機關銃ノ射擊ニ連繫セシムル如クスルヲ必要トス

第百五十九　運動ノ本旨

散開セル分隊ノ運動ハ成ルヘク速ニ敵ニ近接スルヲ主要トス之カ爲多クノ場合ニ於テ敵ニ向ヒ直進スルヲ有利トス是レ速ニ敵ニ近ツケハ火器ヲ有利ニ使用シ且敵火ニ暴露スル時間ヲ減少シ得ルモノナレハナリ然レトモ他部隊ノ射擊ヲ妨害セサル限リ地形ヲ利用シテ前進スルコトニ顧慮スルヲ要ス

第百六十　分隊運動ノ爲ノ隊勢

分隊長ハ運動ノ爲適宜散兵ノ間隔ヲ伸縮シ或ハ散兵ヲ縱方向ニ排列スル等所要ニ應シ其隊勢ヲシテ地形及敵火狀態ニ適應

セシムルコト必要ナリ散兵ハ整頓及間隔ヲ畫守スルコトナク地形、地物ヲ十分ニ利用セサルヘカラス然レトモ停止ニ方リ著シク前後ニ位置シ或ハ横方向ニ分散スルハ隣者若ハ後方部隊ノ射撃ヲ妨ケ又著明ナル地形、地物ニ蝟集スルハ徒ラニ夥多ノ損害ヲ招クモノナルコトニ特ニ留意セサルヘカラス

第百六十一　前進法

散開セル分隊ノ前進ハ通常分隊同時ニ行フモノトス然レトモ敵火ノ狀態之ヲ許ササル場合ニ於テハ分隊ヲ區分シ或ハ各個ニ前進セシムルヲ必要トス此間要スレハ匍匐シテ前進セシムル等各種ノ手段ヲ盡シテ損害ヲ避ケ一意前進ヲ繼續スヘシ然レトモ之カ爲前進ヲ遲緩シ或ハ他部ノ射撃ヲ妨ケ且指揮ノ統一ヲ困難ナラシムルコトアルニ顧慮スルヲ要ス

第百六十二　停止ニ關スル注意

敵ノ有效射撃下ニ在リテ一地ニ據レル散兵ハ動モスレハ其地ニ固著シ易ク更ニ之ヲ前進セシムルコトハ困難ニシテ敵ニ近接スルニ從ヒ益〻其度ヲ增スモノトス故ニ必要以外ニ永ク停止セシムル事ヲ避ケ間斷ナク勇進スルノ氣勢ヲ保持セシムヘシ能ク遮蔽セラレタル敵ノ射撃下ニ久シク停止スルハ徒ラニ夥多ノ損害ヲ招クコトニ特ニ留意セサルヘカラス

第百六十三　前進ニ關スル注意及前進時機

分隊長ハ常ニ好機ヲ看破シテ分隊ヲ前進セシムルヲ必要トス此際敵ノ不意ニ乘ス

ル如ク前進ヲ起シ或ハ敵ノ豫期セサル地點ニ進出シテ不意ニ射撃ヲ開始スル等常ニ敵ノ意表ニ出ツルコトニ勉ムヘシ然レトモ自ラ敵ヲ制壓シテ進路ヲ開キ又縱ヒ好機ヲ發見シ得サル場合ニ於テモ狀況ニ依リ斷乎トシテ前進シ全般ノ犧牲トナリ小隊ノ前進ヲ誘起スルヲ必要トスルコトアリ前進ノ時機ハ敵情、地形竝隣接分隊ノ狀況ニ依リ一樣ナラスト雖モ各種火器ヲ以テ敵ヲ制壓シタル瞬時或ハ敵ノ自動火器ヲ以テスル射撃ノ間斷等激烈ナル火戰間ニ在リテモ其機會少カラサルヲ以テ能ク此等機微ノ間ニ投スルコト必要ナリ

第百六十四　分隊長ノ誘導法

分隊長ハ散開セル分隊ヲ誘導スル爲中央ニ基準ヲ定ム

基準ハ分隊長ニ從ヒ或ハ示サレタル目標ニ向ヒ散兵ハ基準ヲ基準トシテ行進ス

分隊長ハ通常分隊ノ前方ニ在リテ其部下ヲ誘導スルモ所要ニ從ヒ敵情、地形ヲ搜索スル等ノ爲一時分隊ヨリ離ルル場合ニ於テハ基準ニ目標ヲ示シ分隊ヲ誘導スルモノトス

行進間步度ヲ變換セシムルニハ「早駈」、「速步」或ハ「駈步」ノ號令ヲ下ス

分隊長ハ絕エス分隊ノ行進方向ヲ維持シ特ニ戰鬪酣ナルニ方リテハ部下ノ誘導方向ヲ誤ラサルコトニ深ク注意スルコト肝要ナリ

第百六十五　退却及退却ヨリ停止

散開セル分隊ヲ退却セシムルニハ「後ヘ」ノ號令ヲ下ス此際散兵ハ速步ヲ用フルモ

ノトス

散開セル分隊ノ停止ニ方リテハ散兵ハ常ニ敵方ニ面シ分隊長ノ誘導ニ從フモノトス

第百六十六　區分前進及各個前進

散開セル分隊ヲ區分シテ前進セシムルニハ分隊長ハ通常前進ノ區分ヲ示シタル後其一部ヲ率キテ先行シ其他ノ者ハ示サレタル區分ニ從ヒ前進スルモノトス

分隊ヲ區分シテ前進セシムル場合ニ於テ分隊長先行セサルトキ又ハ各個ニ前進セシムルトキハ分隊長ハ豫メ停止スヘキ地點ヲ示シタル後前進セシムルヲ可トス此際一定ノ翼ヨリ前進セシムルコトナク不規ニ前進セシムルコトニ勉メ敵ヲシテ目標ヲ捉フルニ遑ナカラシムルヲ必要トス而シテ後方ニ在リテ射撃スル散兵ハ前進スル隣者ニ危害ヲ與ヘサル爲要スレハ直ニ銃ヲ他方面ニ指向スヘシ

第百六十七　散兵線ノ方向變換

停止或ハ行進間散開セル分隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ新目標(方向)ヲ示シ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ニ方向ヲ換ヘ

軸翼ニ在ル散兵ハ速ニ新方向ニ向キ停止シ其他ノ散兵ハ駈歩ヲ以テ新線ニ就ク

行進間小角度ノ方向變換ヲ爲シ續キテ行進セシムルニハ分隊長ノ誘導ニ依ルモノトス

四　散開セル分隊ノ射撃

第百六十八　要旨

散開セル分隊ノ射撃ハ分隊長ノ號令ニ依リ實施スルヲ本旨トス而シテ分隊ノ射撃開始地點及敵線ニ至ル距離ハ通常小隊長ヨリ指示セラルルモノトス

射撃號令ハ第百十三ニ準スルモ射撃委勢ヲ示スコトナシ

既ニ射撃ヲ開始シタル後前進等ノ爲射撃ヲ中止シ更ニ機ヲ失セス射撃セシムル爲ニハ目標、照尺等ヲ適宜省略シ必要ノ事項ノミヲ令スルコトヲ得「撃方待テ」又ハ「撃方止メ」ヲ令スルニ方リテハ要スレハ之ニ分隊號ヲ冠スルモノトス

第百六十九　各個射撃

分隊極メテ敵ニ近接シ戰鬪激烈トナリタル場合ニ於テ號令、記號ニ依リ適時適切ニ射撃指揮ヲ爲ス事至難トナリ且目標明瞭ニシテ既ニ示シアル目標ニ對シ散兵ヲシテ自ラ射撃セシムルヲ有利トスルトキハ分隊長ハ「各個射撃」ト令シ散兵各自ヲシテ射撃ヲ行ハシムルコトアリ此場合散兵ハ爾後ノ停止ニ方リ直ニ射撃ヲ行フモノトス

分隊長ハ各個射撃ヲ命シタル後ト雖モ爲シ得ル限リ目標、射距離等ニ關シ指示ヲ與ヘ又狀況之ヲ許スニ至レハ直ニ號令ヲ以テ指揮スルヲ必要トス

第百七十　射撃速度

射撃ノ速度ハ目標ノ景況、氣象ノ關係竝射手ノ精神狀態、體力及伎倆ニ依リ自ラ緩急ヲ生スルモノナルモ分隊長ハ目標ノ狀態、彈藥ノ現數等ヲ顧慮シ射撃速度ヲシテ能ク當時ノ狀況ニ適應セシムヘシ

射撃速度ヲ増減セシムルニハ「尚早ク」(モットヘヤ)、「尚遅ク」(モットオソ)ノ注意ヲ與フヘシ

第百七十一　射撃效力及射撃指揮

射撃ノ效力ハ射手ノ伎倆部隊ノ狀態、距離及發射彈數特ニ射撃指揮ノ適否ニ依リ變化ス其他目標所在ノ地形及距離同一ナルトキハ主トシテ目標ノ高サ、幅、縱長、疎密及明暗ニ關係シ天候、氣象モ亦影響ヲ及スコトアリ斜射及側射ハ距離及目標ノ如何ニ拘ラス正面射ニ比シ有效ナルモノトス

射撃ニ關スル制式及法則ヲ十分ニ會得シ且迅速正確ニ距離ヲ測定スルハ射撃指揮ヲ完全ナラシムル基礎タルモノトス

第百七十二　直接精密ニ照準シ能ハサル場合ノ射撃

爆煙中又ハ濃霧ノ際ノ如キ直接精密ニ照準シ能ハサルトキニ於ケル射撃ハ左ノ方法ニ從ヒ最近距離ノ目標ニ對シ效力ヲ收メ得ル如クス

一、銃ヲ地面ト平行ニシ据銃ヲ正確ナラシム

二、時間ノ餘裕ヲ得ハ各種ノ標定設備ヲ行フ

第百七十三　射撃ノ效果ヲ大ナラシムル法

一目標ニ對スル射撃ノ效力縱ヒ同一ナルトキニ在リテモ射撃時間愈〻短縮スルニ從ヒ益〻敵ヲ震駭セシムル事ヲ得ヘシ然レトモ此目的ヲ達スルモノハ良好ナル射撃指揮ト嚴肅ナル射撃軍紀トニシテ速度ヲ過度ニ要求スルカ如キハ彈藥ヲ浪費スルニ過キサルモノトス

第百七十四　分隊ノ射撃目標ノ選定及指示

射撃目標ハ我ニ最モ危害ヲ與フルモノ若ハ速ニ殲滅スルヲ要スルモノノ如キ戰術上ノ價値ニ從ヒテ選擇スヘキモノトス

小銃分隊ハ輕機關銃分隊ニ關係ナク一分隊ナルトキハ小隊ノ目標ノ全部ヲ、二分隊以上ナルトキハ小隊ノ目標中分隊ニ對向セル部分ヲ射撃スルヲ本則トス

射撃目標ヲ指示スルニハ分隊ノ射撃スヘキ區域ヲ以テスルヲ通常トス然レトモ特ニ射撃スヘキ部分若ハ現實ノ目標ヲ以テスルヲ有利トスルコトアリ而シテ散兵ハ其何レノ場合ニ於テモ己ニ對向セル部ニ於テ比較的明瞭ナルモノヲ射撃スルモノトス

我ト對向スル敵ノ後方ニ近ク現出スル部隊ニ對シテハ銃ヲ指向セサルヲ通常トスルモ機關銃、歩兵砲等ノ運動中或ハ陣地進入若ハ撤去等ヲ認ムル場合ハ散兵自ラ敏速ニ之ヲ射撃スルヲ可トス敵ノ觀測所將校等ヲ發見セルトキハ分隊ノ射撃區域外ト雖モ熟練ナル射手ヲ指名シテ之ヲ狙撃セシムルヲ可トス

第百七十五　射撃目標ニ關スル注意

目標ハ特ニ必要アル場合ニアラサレハ變換スヘカラス是屢〻目標ヲ換フルトキハ射撃ヲ錯亂スルヲ以テナリ

射撃目標ハ的確簡明ニ指示シ射手ヲシテ迅速ニ了解セシムルヲ緊要トス而シテ之カ指示困難ナルトキハ成ルヘク敵線ニ近

キ著明ナル地物ヲ示シテ其補助ト爲スヘシ又要スレハ之ヲ基準トシ指幅若ハ遊標ノ幅等ヲ以テ指示スルヲ可トスルコトアリ

射撃目標ハ爲シ得ル限リ未タ射撃ヲ始メサルニ先タチ豫メ之ヲ示シ射手ニ徹底セシムルコト緊要ナリ故ニ分隊長ハ小隊ノ目標ヲ示サレタルトキハ速ニ之ヲ一般ニ示シ分隊ノ射撃目標モ亦爲シ得ル限リ早ク之ヲ示シ各種ノ時機ヲ利用シテ了解セシムルコトニ勉メ以テ射撃位置ニ就キタル後迅速ニ射撃ヲ開始シ得ルコト必要ナリ

第百七十六　照尺、照準點

照尺ハ通常分隊長自ラ之ヲ決定ス

視ヱ難キ目標ヲ射撃スルニ方リ補助ノ照準點ヲ其目標ニ通スル照準線上ニ選フトキハ其照準點ノ遠近ニ關セス目標ニ至ル距離ニ應スル照尺度ヲ用フルモノトス補助ノ照準點ヲ目標ニ通スル線ノ上方若ハ下方ニ選フトキハ其採ルヘキ照尺ハ目標ト補助照準點トニ通スル二線ノ成ス角度ヲ目標距離ニ應スル照尺度ニ修正シタルモノナルヲ要ス

前進シ來ル騎兵ニ對スルトキハ七百米以内ノ距離ニ在リテハ照尺ヲ換フルヲ要セス冱寒酷暑ノ際ニ在リテハ照尺決定ノ爲氣象ニ關シ顧慮スルコト必要ナリ

第百七十七　射撃ノ修正

目標ニ對スル上下ノ修正ハ要スレハ照尺ノ變換ニ依リ行フヲ可トス

狹小面ノ目標ニ對シテハ左右ニ於ケル照

準ノ修正ヲ忽セニスヘカラス之カ爲射線ノ方向ニ對スル風向風速等ニ注意スルヲ必要トス

第百七十八　距離ノ測定

距離ノ測定ハ多クノ場合ニ於テ目測ヲ以テシ尙近傍ニ於テ射撃スル部隊ニ距離ヲ問ヒ以テ目測ノ補助ト爲スヲ可トス

既ニ射撃シアル部隊ノ分隊長ハ新ニ戰鬪ニ加ル分隊長ニ其距離ヲ告クルノ義務アリ然レトモ新ニ加ル部隊ノ分隊長モ亦成ルヘク之ニ就キ射距離ヲ豫知スルコトニ勉ムヘシ

第百七十九　彈藥ノ節用

彈藥ヲ適當ニ節用シ緊要ノ時ニ臨ミ效果ヲ收ムルニ必要ナル彈藥ニ不足ナカラシムルハ特ニ注意スヘキトコロナリ然レトモ射撃スルニ決セハ其目的ヲ達スルニ必要ナル彈藥ヲ用フヘシ分隊長ハ時々彈藥ノ現數ヲ小隊長ニ報告スヘシ

第百八十　射撃軍紀

射撃指揮ト相俟チテ射撃ノ效果ヲ偉大ナラシムル爲緊要ナルモノハ射撃軍紀ナリ

凡テ射撃軍紀正シク教育能ク至レル射手ハ敵火ノ下ニ在リテ其長ノ號令、命令ニ從ヒ或ハ自ラ射撃ヲ行フ場合ニ於テモ確實ニ射撃ノ諸法則ヲ實行シ地形、地物ノ利用及發射ノ時機ニ注意シ常ニ其指揮者及敵ニ留意シ射撃中止ノ號令アルカ或ハ目標消滅スルトキハ直ニ射撃ヲ中止シ又縱ヒ分隊長ノ指揮行ハレサル場合ニ於テモ各自ノ思慮ト判斷トニ基キ依然射撃ノ效果ヲ維持シ得ルモノナリ

第百八十一　分隊長ノ位置及部下ノ監視

戰鬪間分隊長ハ分隊ヲ指揮スルニ便ナル地ニ占位シ能ク射擊ノ諸法則ヲ守ルヤ（銃ノ指向、据銃、照準、擊發ノ動作可ナルヤ射擊速度適當ナルヤ等）能ク地形、地物ヲ利用スルヤ等ヲ監視スルコト緊要ナリ

第百八十二　戰鬪間分隊長ノ注意スヘキ事項

分隊長ハ絶エス小隊長トノ連絡ニ注意シ且要スレハ小隊長ノ命令又ハ號令ヲ比隣分隊ニ傳達スヘシ

分隊長ハ敵情、地形ヲ觀察シ彈著ヲ觀測シ又比隣分隊ノ狀況ニ注意シ以テ占有シ得ヘキ利益ヲ獲得スルコトニ勉ムルト共ニ比隣分隊トノ協同ヲ適切ニシ且敵情、地形ニ關シ所要ノ事項ヲ適時小隊長ニ報告スヘシ

五　突擊及敵陣內ノ攻擊

第百八十三　突擊準備

戰鬪進捗シ敵ニ近接スルニ從ヒ分隊長以下益〻沈著シテ其火力ヲ最高度ニ發揚シ適時銃劍ヲ著ケ必要ニ應シ手榴彈（テリウダン）ヲ整ヘ敵情ノ機微ヲ候ヒ敵陣地特ニ其障碍物及側防機能ノ狀態等ヲ確メ機ヲ失セス之ヲ小隊長ニ報告シ其部署ニ基キ突擊ヲ準備スヘシ

第百八十四　突擊ノ發起

分隊長ハ自ラ好機ヲ發見スルカ或ハ突擊ノ命令アルトキハ直ニ突擊ノ號令ヲ下シ率先先頭ニ立チ猛烈果敢ニ敵陣ニ突入ス

第百八十五　突入後ノ動作

敵陣ニ突入ニハ分隊ハ不屈不撓果敢ナル突擊ト猛烈ナル射擊トヲ反復互用シ以テ敵陣內ノ抵抗ヲ破碎シ深ク敵陣ニ侵入スルコトニ勉ムヘシ此間小隊長ノ命令ハ適時到達セサルコト多シ故ニ分隊長ハ豫メ受ケタル命令ニ從ヒ斷乎タル決心ヲ以テ勇敢ナル措置ヲ決行スヘシ之カ爲特ニ部下ノ掌握ヲ確實ニシ速ニ敵陣內部ノ狀態ヲ看破シテ其方向ヲ誤ラサルコトニ注意シ比隣部隊特ニ輕機關銃分隊ト密接ニ協同シ敵ヲ擊滅スルコトニ勉ムヘシ此時ニ於ケル分隊長以下ノ適切ナル獨斷ト勇敢ナル動作トハ既ニ戰勝ノ第一歩ヲ占ムルモノトス又突入後ノ戰鬪ニ在リテモ沈著シテ絶エス敵情ニ注意スレトキハ能ク敵ノ弱點ヲ看破シ之ニ乘シテ分隊ノ進路ヲ開キ得ルノミナラス自ラ任シテ比隣部隊ノ嚮導トナリ戰果ヲ擴張スルノ端緒ヲ成スニ至ルモノトス

敵陣地ニ突入後ハ多クノ場合ニ於テ壕外ヲ躍進スルヲ可トスルモ時トシテ塹壕內ヨリ突進スルヲ有利トスルコトアリ

第百八十六　手榴彈ノ使用

手榴彈ハ之ヲ最初ノ突擊ニ使用スルハ必スシモ有利ナラス寧ロ突入後ノ戰鬪ニ使用スルヲ有利トスルコト多シ而シテ何レノ場合ヲ問ハス手榴彈ヲ以テ戰鬪ヲ交ヘタル後突入セントスルカ如キハ概ネ失敗ニ終ルモノニシテ通常其爆烈ノ瞬時ヲ利用スルヲ可トス

第百八十七　敵ノ逆襲ニ對スル動作

敵ノ逆襲ニ對シテハ常ニ機先ヲ制シテ之ヲ擊滅スヘシ又諸種ノ手段ヲ盡シテ突擊ヲ敢行スルモ尙之ヲ阻止セラルルトキハ分隊長以下沈著シテ至近ノ所ニ蹈ミ止リ附近ノ塹壕、彈痕等ヲ利用シ氣勢ヲ恢復シ小隊爾後ノ突擊ヲ容易ナラシムヘシ

第百八十八　攻擊奏功後ノ處置

攻擊功ヲ奏セハ猛烈ナル射擊ト運動トニ依リ敗退スル敵ヲ急追スヘシ

追擊射擊ヲ行フニ方リ大ナル姿勢ヲ取ルトキハ不測ノ損害ヲ受クルコトアルニ注意スヘシ

六　防禦

第百八十九　要旨

防禦ニ在リテハ分隊長ハ狀況ノ許ス限リ綿密ニ地形ヲ偵察シ射擊區域內ノ地形及隣接部隊トノ關係ヲ顧慮シ最モ有效ニ火器ノ威力ヲ發揚シ得ル如ク散兵ノ配置ヲ決定ス又分隊ノ射擊區域外ニ於テモ小隊長ノ指定スル部分ニ對シ戰鬪ノ推移ニ應シ適時火力ヲ指向シ得ル如ク準備ヲ爲スコト必要ナリ

第百九十　防禦配備

散兵ノ配置ヲ決定スルニ方リテハ分隊ノ射擊區域ニ對シ射擊效力ヲ發揚シ得ルコトヲ主眼トシ爲シ得ル限リ敵火ノ損害ヲ減少シ得ル如ク能ク地形ニ適合セシムルヲ必要トス之カ爲屢〻數群又ハ梯次ニ配置スルコトアリ而シテ翼ヲ梯次ニ後退スル配置ハ斜方向ニ對シ射擊シ又ハ翼後ニ

在ル部隊ノ射界ヲ廣クスルヲ要スル場合ニ於テ利アリトス

第百九十一　防禦戰鬪ノ準備

分隊長ハ豫メ現地ニ就キ明確ニ分隊ノ射擊區域ヲ指示シテ各散兵ヲシテ誤解ナカラシメ置クコト極メテ緊要ナリ又狀況ノ許ス限リ工事ヲ實施シ且散兵ニ對シ關係アル友軍ノ狀況及前地ノ地形ヲ解說シ要スレハ主要ナル地點ニ至ル距離ヲ測定シテ現地ニ之ヲ標示シ前方ノ要點ニ簡單ナル名稱ヲ附シテ目標ノ指示及理解ヲ迅速且容易ナラシムル等散兵ノ射擊ヲ適切ニシ且分隊ノ射擊指揮ヲ容易ナラシムル爲有ユル手段ヲ講スルコト必要ナリ

分隊未タ射擊開始ヲ要セサル間ハ分隊長ハ爲シ得ル限リ各散兵ヲ掩蔽セシムルヲ要ス然レトモ敵ノ近接スルニ伴ヒ機ヲ失セス射擊位置ニ就キ得ルノ狀態ニ在ラシムルコト必要ナリ

分隊長ハ自ラ敵情ヲ監視シ要スレハ所要ノ人員ヲ指定シテ敵情ノ監視ニ任セシムヘシ

第百九十二　防禦戰鬪

分隊長ハ射擊開始ノ命アルヤ其任務ニ從ヒ機ヲ失セス射擊ヲ開始スヘシ而シテ防禦ニ在リテハ多クハ瞬時現出スル目標ヲ捉ヘ巧ニ射擊スルヲ要スルヲ以テ散兵ハ特ニ敏活ナル動作ヲ必要トス

分隊長ハ分隊ノ射擊指揮ヲ適切ニシテ常ニ射擊ノ實施ヲ戰況ニ適應セシメ以テ敵ニ最大ノ打擊ヲ與フルコト緊要ナリ而シテ前地ノ地形ヲ觀察シテ敵ノ行動ヲ判斷

スルトキハ豫メ準備ヲ整ヘ好機ヲ捉ヘ有效ナル射撃ヲ爲シ得ルコト屢〻ナリ

敵愈〻近接セハ益〻沈著シテ射撃ヲ行ヒ其熾烈ナル火力ヲ以テ敵ニ打撃ヲ與ヘ要スレハ手榴彈ヲ投擲シテ敵ヲ擾亂スル等極力奮鬪シテ之ヲ陣地前ニ撃滅スヘシ

敵遂ニ陣地ニ突入シ來ラハ分隊長以下敢然白兵ヲ揮ツテ之ヲ撃滅スヘシ縱ヒ敵我カ陣地ニ侵入スルニ至ルモ最後ノ一人ニ至ルマテ奮鬪シ又比隣部隊ノ戰況不利ナルモ飽クマテ其地ヲ固守スヘシ

七 集合及併合

第百九十三 要旨

散開セル分隊ヲ集結スルニハ集合又ハ併合ヲ用フ

第百九十四 要領

集合ニハ第百四十ヲ準用ス散兵ハ横隊ニ集合ス

併合セシムルニハ隊形ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス

併セ

散兵ハ各自ノ定位ニ復スルコトヲ求メス駈歩ニテ分隊長ノ許ニ集リ示サレタル隊形ヲ取ル

第二節 小隊

一 戰鬪ノ爲ノ前進

第百九十五 要旨

戰鬪ノ爲ノ前進間地形其他ノ利用スヘキモノナク敵砲兵ノ有效射撃ヲ被ラルトス

ル顧慮アルニ至レハ多クハ小隊ヲ疎開シテ前進スルニ至ルモノトス

中隊展開前ニ在リテハ最初ノ疎開ハ通常中隊長ノ命令ニ依ルモノトス

小隊長ハ適時所要ノ傳令ヲ準備シ中隊長トノ間ニ連絡ノ處置ヲ講シ要スレハ分隊長トノ間ニ簡單ナル記號ヲ定ム

第百九十六 疎開ノ隊形

小隊ヲ疎開スルニハ分隊ヲ一線或ハ二線ニ配置スルヲ通常トス而シテ分隊ハ通常一列側面縱隊ヲ用ヒ別命ナケレハ各分隊ノ間隔ハ約三十米二線ニ配置セルトキハ其距離ハ約百米トス然レトモ各分隊ノ距離、間隔ハ地形ノ利用ヲ適切ナラシムル爲分隊長ニ於テ適宜伸縮スルコトヲ得

輕機關銃分隊ノ位置ヲ定ムルニハ成ルヘク爾後ニ於ケル火線ノ構成ニ便ナルコトニ留意スルコト必要ナリ

第百九十七 疎開ノ要領

停止或ハ行進シアル小隊ヲ一線或ハ二線ニ前方ニ疎開スルニハ小隊長ハ各分隊ノ關係位置、基準分隊及要スレハ其行進目標(方向)ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス

開ケ

基準分隊ノ長ハ其先頭ニ立チ眞直ニ又ハ示サレタル目標(方向)ニ向ヒ前進シ列員ハ逐次一列側面縱隊ヲ作リ之ニ續行ス其他ノ分隊ハ分隊長ノ誘導ニ從ヒ一列側面縱隊ヲ作リツツ駈歩ヲ以テ斜行シ間隔ヲ取リ續キテ行進ス

第二線トナルヘキ分隊ハ第一線ノ分隊ニ準シ疎開シ示サレタル關係位置ヲ保チテ

前進ス

小隊長ハ前進間要スレハ基準分隊ヲ變更シ又目標ヲ示スモノトス

第百九十八　前進ノ步度、隊形ノ選擇

小隊長ハ地形及敵火ノ狀態ヲ判斷シ特ニ步度ノ選擇ニ注意シ或ハ敵火ノ間斷ヲ利用シテ一地區ヨリ一地區ニ小隊一齊ニ或ハ分隊每ニ躍進セシムル等勉メテ敵ヲシテ目標ヲ捉フルニ遑ナカラシムル如ク敏活不規ニ其行動ヲ律スルコト緊要ナリ

小隊長ハ小隊既ニ疎開セル場合ニ於テモ狀況之ヲ許スニ至レハ直ニ集結シテ前進シ爾後必要ニ應シ再ヒ疎開スル等適宜隊形ヲ選擇シ以テ小隊ノ隊形ヲシテ敵火ノ狀態及地形ニ適應セシムルヲ必要トス

第百九十九　小隊長ノ位置

戰鬪ノ爲ノ前進間小隊長ハ前方ノ敵情及地形ヲ速ニ觀察シ且適時小隊ヲ部署スル爲小隊ノ前方ニ位置スヘシ而シテ小隊ヲ疎開セハ爲シ得レハ基準分隊ノ前方ニ在リテ該分隊ノ行動ヲシテ能ク自己ノ意圖ニ合セシメ以テ小隊全般ノ運動ヲ適切ナラシムルヲ可トス

二　火線ノ構成

第二百　要旨

火線トハ射擊スル散兵線ヲイフ

第一線ノ小隊ハ射擊開始ニ先タチ火線ヲ構成ス之カ爲小隊ハ通常火線ト援隊トニ區分ス

第二百一　火線ニ用フル兵力ノ決定

火線ニ用フル兵力ハ狀況ニ依リ決定スヘ

キモノナルモ當初ハ成ルヘク之ヲ節約スルヲ可トス若最初ヨリ小隊ノ大部ヲ火線ニ配置セハ火線ハ著シク濃密トナリ無益ノ損害ヲ受クルノミナラス爾後其火力ヲ維持增大スルコト困難ナレハナリ

輕機關銃分隊ハ專ラ火戰ニ任シ小銃分隊ハ火戰ト白兵戰トヲ擔任スルモノトス從ヒテ輕機關銃分隊ハ當初ヨリ火線ニ出シ之ニ若干ノ小銃分隊ヲ併用スルヲ通常トス

第二百二　火線構成ノ方法

火線ヲ構成スルニハ小隊長ハ各分隊長ニ小隊ノ射擊スヘキ目標、火線ニ出スヘキ分隊、基準分隊及其關係位置ヲ示シ又援隊ニ行動ノ準據ヲ與ヘ且要スレハ援隊ノ長ヲ命ス

三　火線ノ運動及射擊

第二百三　要旨

火線ノ運動及射擊ハ小隊長之ヲ統轄シ各分隊ノ前進、停止及射擊ハ分隊長ヲシテ直接指揮セシムルモノトス

第二百四　小隊長ノ動作

小隊長ハ火線ノ運動及射擊ヲ統轄スル爲火線構成ト同時ニ或ハ其後ニ於テ通常敵線ニ至ル距離、射擊開始ノ地點等所要ノ事項ヲ示シテ射擊開始ヲ命シ爾後要スレハ分隊ノ射擊目標及分隊ノ前進、停止ヲ命スル等各分隊ノ運動及射擊ヲシテ狀況ニ適合セシメ爲シ得ル限リ火線ヲ掌握ス

時トシテ小隊長ハ若干分隊ヲ其先任分隊

長ニ指揮セシメ某戰鬪目的ノ爲ニ使用スルコトアリ

小隊長ハ戰鬪間狀況特ニ地形之ヲ許セハ勉メテ包圍ヲ行フヘシ縱ヒ包圍ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テモ斜射、側射ヲ有效ニ利用シ得ル機會ヲ捉ヘ射擊ニ依ル包圍的效果ヲ獲得スルコトニ勉ムルヲ必要トス

第二百五　小隊ノ射擊目標

小隊ハ通常中隊ノ攻擊スヘキ目標中己ニ對向セル部分ヲ射擊スルモノトス然レトモ狀況之ヲ要スレハ一部ヲ以テ他部隊ニ對向セル部分ヲ射擊スルコトアリ

目標ヲ指示スルニハ第百七十四第二項ヲ準用ス

目標ヲ示スニハ隣接部隊ノ目標トノ間ニ空隙ヲ生セサルコトニ注意スヘシ是敵ノ一部ト雖モ我カ射擊ノ制壓ヲ免レシメサルコト緊要ナレハナリ

第二百六　射擊開始ノ時機

射擊ハ近距離ニ於テ敵ヲ確認シ必ス十分ナル效果ヲ豫期シ得ルニ至リ開始スルヲ本則トス

第二百七　射擊ノタメ各分隊ノ關係位置

射擊ニ方リ各分隊ハ相互ノ射擊ヲ妨害セサル限リ勉メテ同一線上ニ位置スルコトナク地形ヲ利用シ敵ノ自動火器ノ射擊ヲ困難ナラシメ且敵砲火ノ損害ヲ減少スルコトニ勉ムヘシ

第二百八　射擊ト運動トノ協調

小隊長ハ各分隊ヲシテ射擊ト運動トノ協調ヲ適切ニシ絶エス前進シ絶エス有效ニ

射擊シ得シムルコトニ留意シ以テ成ルヘク速ニ敵ニ近接スルコトニ勉メサルヘカラス之カ爲多クノ場合ニ於テ敵火ノ狀態、地形及我カ砲兵、機關銃並步兵砲ノ射擊ノ效果ニ依リ前進容易ナル分隊ヲシテ機ヲ失セス前方ニ進出セシムルヲ必要トス又一部隊ト雖モ前方ニ進出スルヲ得ハ爾餘ノ部隊ノ前進ヲ容易ナラシメ得ルモノナレハナリ

第二百九　援隊ノ使用

小隊長ハ所要ニ從ヒ援隊ヲ火線ニ增加シ適當ニ我カ火力ノ維持增大ヲ圖ラサルヘカラス然レトモ如何ナル場合ニ於テモ必要以外ニ火線ヲ濃密ナラシメサルコト及敵火ノ爲多大ノ損害ヲ被リタル部分ニ直ニ補塡スヘキヤ或ハ却テ之ヲ他ノ部分ニ使用シテ狀況ヲ發展セシムヘキヤ等ヲ考慮スルコト必要ナリ

第二百十　小隊長ノ位置及動作

戰鬪間小隊長ハ小隊ヲ指揮スルニ便ナル地ニ占位シ各分隊適當ニ其位置ヲ占ムルヤ、分隊長ノ射擊指揮能ク行ハルルヤヲ監視シ又常ニ敵情ニ注意シ彈著ヲ觀測シ戰況及地形ヲ顧慮シテ小隊ノ運動及射擊ノ應用ヲ適切ナラシメ且中隊長トノ連絡ニ注意スヘシ

小隊長ハ能ク地形、敵情ニ應シ占有シ得ヘキ利益ヲ看破シ得ルコト多シ故ニ小隊長ハ命セラレタル任務ヲ實行シ又ハ隣接セル小隊ト協同スルト共ニ戰況ニ應シ獨斷專行ヲ處スルニ躊躇スヘカラス

四 援隊

第二百十一 援隊ノ用途

援隊ノ用途ハ主トシテ火線ヲ增加シ又ハ突擊ニ際シ新鋭ノ威力ヲ加フルニ在リ

第二百十二 援隊ノ行動

援隊ト火線トノ距離ハ戰況ト地形トニ依リ定ムヘキモノニシテ其主トスル所ハ機ヲ失セス小隊長ノ使用ニ應シ得ルニ在リ之カ爲ニハ距離ヲ短縮スルヲ必要トス然レトモ敵火ノ損害ヲ少クスルコトモ亦顧慮セサルヘカラス

援隊ハ地形ノ利用、隊形ノ選擇、機敏ナル行動等ニ依リ爲シ得ル限リ損害ヲ避ケ以テ火線ノ運動ニ從フヲ要ス

隊形ヲ選擇スルニ方リ常ニ指揮掌握ニ便ナルコトヲ顧慮スルヲ必要トス

第二百十三 援隊長(援隊タル分隊長)ノ動作

援隊タル分隊ノ長ハ命令ニ應シテ直ニ火線ヲ增加シ突擊ヲ援助シ得ンカ爲敵情ノ變化、小隊ノ射擊目標、火線ニ在ル各分隊ノ狀況及敵トノ距離等ヲ熟知シ以テ敵情及火線ノ狀況ニ適應スル如ク援隊ヲ誘導シ成ルヘク小隊長ヨリ通視セラルル所ニ位置スヘシ要スレハ中間ニ傳令ヲ配置スルコトアリ

第二百十四 援隊ノ增加法

援隊ヲ火線ニ增加スルニハ成ルヘク分隊ト分隊トノ間隔ニ挿入シ若ハ翼側ニ延伸ス然レトモ已ムヲ得サルトキハ伍間ニ增加ス

伍間ニ增加シタル場合ニ於テハ分隊長ハ成ルヘク速ニ新ニ其部下ヲ區分スヘシ

五 突擊及敵陣內ノ攻擊

第二百十五 突擊準備

戰鬪漸次進捗シテ敵ニ近接スルニ從ヒ小隊長ハ逐次突擊準備ヲ整フヘシ卽チ機ヲ失セス敵陣ノ狀況ヲ詳ニ搜索シ特ニ我カ突擊ヲ最モ妨害スヘキ敵ノ位置及狀態、障碍物ノ程度竝敵陣ノ弱點ヲ確メ要スレハ之カ制壓、破壞竝利用ニ關スル意見ヲ附シ之ヲ中隊長ニ報告シ所要ニ應シ部下分隊ノ配置ヲ定メ突入後ノ前進方向竝小銃分隊ニ奪取スヘキ目標ヲ、輕機關銃分隊ニ其協力スヘキ小銃分隊ヲ示シ又擲彈筒ヲ部署スル等突擊準備ノ爲狀況ニ適スル如ク諸種ノ手段ヲ講スヘシ

小隊ハ屢〻自ラ障碍物ヲ破壞シテ突擊ヲ實施セサルヘカラス此際突擊路ノ開設ハ能ク突擊部署ニ應セシムルコト緊要ナリ

小隊若突擊路ヲ配當セラレタルトキハ其數ニ應シ突擊部署ヲ定ムヘシ

第二百十六 突擊發起

小隊愈〻敵ニ近迫セハ小隊長ハ好機ニ乘シ自ラ突擊ヲ決行スヘシ

中隊長ヨリ突擊發起ニ關シ指示セラレタル場合ニ於テハ小隊長ハ速ニ突擊準備ヲ完了シ之ヲ中隊長ニ報告シ突擊ノ命アルヤ直ニ突擊ヲ實施スヘシ

突擊發起ハ狀況特ニ地形ニ依リ差異アリト雖モ射擊ノ效果ヲ直ニ利用スルヲ得且

敵陣ニ突入後尚搭闘ノ餘力アル如ク爲シ得ル限リ敵ニ接近シ行フヲ有利トス

第二百十七　突擊實行

突擊實行ニ方リテハ小隊長ハ率先先頭ニ立チ猛烈果敢ニ敵陣ニ突入スヘシ此際輕機關銃分隊及擲彈筒ヲシテ小銃分隊ノ突擊ニ最モ有效ニ協力セシムルコト必要ナリ

突入ニ引續キ通常敵ノ縱深アル配備ヲ突破スルヲ要スルニ至ルヲ以テ小隊ハ敵ヲシテ抵抗ノ遑ナカラシムル如ク一意命セラレタル方向ニ前進シテ敵陣深ク侵入シ隣接部隊縱ヒ敵ノ爲阻止セラレタル場合ニ於テモ極力前進ヲ繼續スヘシ此間小隊長ハ戰闘ノ推移ニ應シ逐次ニ小隊ノ奪取スヘキ目標ヲ示シ且適時兩種分隊ノ協同並擲彈筒ノ射擊ニ關シ指示ヲ與ヘ要スレハ一部隊ヲ以テ尙抵抗ヲ持續スル敵ノ翼側ニ迫ラシムル等勉メテ部下分隊ノ掌握ヲ確實ニシ且方向ノ維持ニ勉メ主力ヲ以テ一意突進ニ努力スヘシ

第二百十八　突入後ノ動作

攻擊功ヲ奏セハ敗退スル敵ニ向ヒ直ニ追擊射擊ヲ行フヘシ然レトモ射擊ヲ以テ敵ニ至大ノ損害ヲ與ヘ得サルニ至ラントスルヤ小隊長ハ直ニ小隊ヲ提ケ前進スヘシ狀況ニ依リ小隊長ハ追擊射擊ヲ行フコトナク直ニ敵ヲ急追スルヲ必要トスルコトアリ

六　防禦

第二百十九　要旨

防禦ニ在リテハ小隊ハ通常地形ニ應シ其全部若ハ大部ヲ以テ中隊防禦ノ一支點ヲ成形ス卽チ小隊ハ中隊火網ノ一部ヲ擔任シ當面ノ敵ヲ陣地前ニ擊滅スルコトニ勉メ又敵兵縱ヒ中隊陣地ノ一部ニ侵入スルコトアルモ飽クマテ其陣地ヲ保持シテ戰鬪ヲ持續シ逆襲ノ支撐トナリテ中隊全般ノ陣地ノ確保ヲ期スヘキモノトス

第二百二十　防禦ニ於テ小隊長ノ決定スヘキ事項

小隊長ハ狀況ノ許ス限リ綿密ニ地形ヲ偵察シテ火網ヲ定メ火線ニ出スヘキ分隊及其占領スヘキ位置竝射擊區域、援隊ノ配置、戰況ノ推移ニ應シテ取ルヘキ處置、工事ニ關スル事項等ヲ決定ス

第二百二十一　小隊ノ防禦配備

小隊ノ配備ヲ決定スルニ方リテハ主トシテ小隊ノ火網ヲ顧慮シ尙其守備區域ノ地形ニ應シ一支點ヲ成形スルニ適スル如ク分隊ノ關係位置ヲ適切ナラシムルコト必要ナリ此際適宜縱深橫廣ニ疎開シテ敵火ノ損害ヲ減少スルコトヲ顧慮スヘキモ過度ニ疎開シテ分隊相互ノ連繫及小隊長ノ指揮掌握ヲ害スルコトアルヘカラス

小銃分隊ノ占領スヘキ位置ヲ決定スルニハ通常散兵ヲ配置スヘキ線及其正面幅ヲ定ムルヲ要ス而シテ正面幅ハ敵火ノ損害ヲ避クル爲分隊長ヲシテ部下ヲ掌握スルニ妨ナキ限リ勉メテ散兵ヲ疎開シテ配置シ得シムルト共ニ分隊相互ニ射擊ヲ妨害セサル如ク顧慮スルコト必要ナリ

輕機關銃ノ爲ニハ射擊區域內ニ十分ナル

火力ヲ發揚シ又敵ノ集中火ヲ避ケンカ爲數箇ノ射擊位置ヲ設ケ適宜位置ヲ移動シテ所望ノ射擊ヲ實施セシムル如クスルヲ可トス然レトモ重要ナル時機ニ射擊ヲ中絶セシメサルノ顧慮ヲ必要トス

第二百二十二　援隊

援隊ハ主トシテ火線ノ補塡ニ用ヒ又逆襲ニ使用スルモノトス狀況ニ依リ隣接部隊ノ戰況不利ナルトキ之ニ應スル爲使用スルコトアリ故ニ其用途ニ適スル如ク地形ヲ利用シテ配置シ且之カ爲必要ナル設備ヲ爲サシムルモノトス

援隊タル分隊ノ長ハ其用途ニ應スル如ク分隊内ノ配置ヲ決定シ且其位置ニ於ケル掩護、戰況ノ變化ニ應シ占ムヘキ陣地竝之ニ到ル進路等所要ノ設備ヲ爲スヲ必要トス而シテ戰鬪ノ進捗ニ伴ヒ分隊ノ使用セラルル場合ヲ顧慮シ火線ノ增援若ハ逆襲ノ爲ノ進出路及行動ヲ考定シ豫定ノ陣地及其射擊區域等ヲ一般ニ敎示シ且之ニ就クヘキ場合ノ動作ヲ考究スル等周到ナル準備ヲ整フルコト必要ナリ

第二百二十三　工事及距離測定

小隊長ハ通常中隊長ノ工事ニ關スル命令ニ基キ小隊ノ工事ヲ實施ス之カ爲支點ノ成形ニ適スル如ク經始ヲ定メ作業方法ヲ示シ工事ノ實施ヲ指導スヘキモノトス此際適切ナル經始及僞裝ノ利用等ニ依リ敵ヲシテ支點タルコトヲ察知シ難カラシムルノ注意ヲ必要トス

小隊長ハ主要ナル地點ニ至ル距離ヲ測定シテ之ヲ標示シ前方ノ要點ニ簡單ナル名

稱ヲ附スル等所要ノ射擊準備ヲ行ヒ各分隊ノ射擊ヲ容易ナラシムルコト必要ナリ

第二百二十四　小隊長ノ處置

小隊長ハ小隊ノ部署ヲ決定セハ分隊ノ占ムヘキ位置ニ於テ分隊長ニ其占領スヘキ位置及射擊區域等ヲ明確ニ示シ爾後逐次所要ノ指示ヲ與ヘテ細部ノ配備及準備ヲ整ヘシムルヲ可トス

小隊長ハ各分隊ニ對シ自己ノ企圖、友軍ノ關係、前方ノ地形其他所要ノ事項ヲ解說シテ其任務ノ履行ヲ容易ナラシメ戰鬪ノ準備ニ關シ遺憾ナカラシムルコト必要ナリ

射擊區域ヲ指示スルニハ獨リ方向上ノミナラス要スレハ射程上ニ於テモ其範圍ヲ明瞭ナラシムヘシ此際小銃分隊ニ在リテハ射擊ノ實施ニ方リ隣接スル射擊區域トノ間ニ空隙ヲ生セサル如クスル爲過度ニ交叉シテ之ヲ示シ分隊ノ正面ニ對スル火力ヲ分散スルコトナキニ注意セサルヘカラス

分隊ニ對シ射擊區域ヲ指示スルト同時ニ要スレハ其區域内ニ於テ火力ノ指向上特ニ要求スヘキ事項ヲ示シ分隊長ニ對シ射擊指揮上ノ憑據ヲ與フルヲ可トス

敵未タ我カ火網ニ近接セサル間ハ守者ヲ掩護下ニ入ラシメ以テ配備ヲ祕匿シ且敵火ノ損害ヲ避クルニ勉ムルヲ要ス然レトモ之カ爲敵情ノ監視ヲ中絶スルコトアルヘカラス此間若敵ノ機關銃、步兵砲ノ如キ特ニ有利ナル目標ヲ發見スルカ或ハ戰況之ヲ必要ト認メタルトキハ小隊長ハ分

隊ヲ指定シテ一時射撃ヲ行ハシメ又ハ狙撃セシムルヲ可トス

第二百二十五　防禦戰鬪

敵我カ火網内ニ侵入スルヤ小隊長ハ適時小隊ノ射撃開始ヲ命シ各分隊ヲシテ各〻其任務ニ基キ射撃ヲ實施セシメ敵接近スルニ從ヒ益〻射撃威力ヲ熾烈ナラシメ敵ヲ我カ陣地前ニ撃滅スヘシ此間小隊長ハ絶エス敵情ト我カ火力ノ狀態トニ注意シテ各分隊ノ射撃ヲ適切ナラシメ以テ敵ノ一部ト雖モ我カ射撃ヲ免レテ近接スルヲ得サラシムルヲ要ス

戰鬪ノ推移ニ伴ヒ適宜援隊ヨリ所要ノ兵力ヲ補塡シ又戰況ノ變化ニ際シテハ要スレハ一部分隊ノ配置及其射撃區域ヲ變更シテ之ニ應スル等絶エス火網ニ缺陷ヲ生セサラシムルノ處置ヲ講スルコト必要ナリ又障碍物破壞セラレタルトキハ速ニ之ヲ補修スルコトニ勉メサルヘカラス

輕擧ニ陣地ヲ棄テテ出撃スルハ之ヲ戒メサルヘカラス然レトモ陣地前至近ノ距離ニ於テ我カ火力ノ爲萎靡混亂セル敵ヲ驅逐スルヲ有利トスル場合ニ於テハ小隊長ハ決意逆襲ヲ敢行スヘシ

隣接部隊ノ戰況不利ナル場合ニ於テハ小隊長ハ當面ノ戰況之ヲ許ス限リ之ニ協力シテ戰勢ノ挽回ニ勉ムルヲ要ス之カ爲火線ノ一部ニ命シ又ハ援隊ヲ豫メ準備セル陣地ニ就カシメ以テ隣接部隊正面ノ敵ヲ射撃セシメ敵縱ヒ隣接地區ニ侵入スルニ至ルモ尙其陣地ヲ保持シテ中隊逆襲ノ支撐トナリ戰機ノ發展ヲ圖ルヲ要ス

敵若小隊陣地ノ一部ニ侵入セハ小隊長ハ機ヲ失セス敵ノ混亂ニ乘シ果敢ナル逆襲ヲ決行シ陣地ヲ奪回スヘシ

逆襲ノ爲ニハ通常援隊ヲ用フルモノトス此際火線ニ在ル分隊ハ依然當面ノ敵ヲ猛射シ爲シ得レハ侵入セル敵ニ對シ射撃ヲ指向シ逆襲ヲ成功セシムルコトニ勉ムヘシ狀況ニ依リ援隊ハ獨斷逆襲ヲ實施シ機ヲ逸セサルコト肝要ナリ

敵若煙幕ヲ利用シ攻撃シ來ルトキハ隣接部隊ト連絡ヲ確實ニシ最近距離ニ於テ熾盛ナル火力ヲ發揚シ敵ヲ撃滅スヘシ

七　集合及併合

第二百二十六　要領

戰鬪中ノ集合及併合ハ第百九十四ニ準ス

各分隊ハ駈歩ニテ小隊長ノ許ニ到リ横隊ニ集合シ若ハ示サレタル隊形ニ併合ス

第三編　夜間教練

一　要旨

第二百二十七　夜間教練ノ必要

航空機及火器等科學兵器ノ盛ニ使用セラルル今日ニ於テハ我カ行動ヲ敵ニ祕匿シ且損害ヲ少クシテ敵ヲ攻擊スルタメ夜間ヲ利用スルコト多キニ至リ夜間ノ動作ニ馴ルハ將來ニ非常ニ必要ナルニ至レリ

二　各個教練

第二百二十八　目的

夜暗ニ慣レ特ニ耳目ヲ活動シテ大膽且沈靜ニ動作シ夜暗ニ於ケル各個ノ動作就中不齊地ニ於ケル行進及突擊ニ熟セシムルヲ目的トス

第二百二十九　夜間動作ノ教育法

夜間ノ動作ハ最初ハ熟地ニテ晝間、薄暮又ハ月明ノ夜等ニ於テ教育シ逐次暗夜生地ニ及ホスヲ可トス而シテ各種ノ地形ヲ選定スルノミナラス築城ヲ施シアル地域ニ於テモ亦之カ教育ヲ行フヲ必要トス

第二百三十　行進方向ノ維持

夜間ハ確實ニ行進方向ヲ維持シ豫期ノ地點ニ確實ニ到著スルヲ必要トス之カ爲著明ナル目標或ハ晝間記憶セル地形、地物等ニ依リ行進方向ヲ維持スル事ニ慣レシメサルヘカラス又夜間ニ於ケル簡單ナル方位判定ノ能力ヲ附與スルコト必要ナリ

第二百三十一　靜肅行進

夜間敵ノ認識ヲ避ケ企圖ヲ祕匿スル爲ニハ敵ニ察知セラレサル如ク靜肅ニ行進スル方法、著裝及兵器ノ取扱ニ於テ音響發生ヲ防止スル處置、記號ニ應スル行動竝照明ヲ受ケタル場合ノ動作等ニ習熟セシメ又妄ニ音聲ヲ發セサル習慣ヲ養成スルコト必要ナリ

靜肅ニ行進スル方法ハ地形特ニ地表面ノ狀態ニ依リ異ナルヲ以テ之カ教育ニ方リテハ各種ノ地形ニ就キ反復練習セサルヘカラス

第二百三十二　夜間ノ突擊

夜間ノ突擊ハ各種ノ地形特ニ障碍多キ土地ニ於テ之ヲ訓練シ地形ニ制セラルルコトナク果敢ナル突擊ヲ實施シ得ルニ至ラシムルヲ必要トス

夜間ノ突擊ニ在リテハ喊聲ヲ發セサルモノトス

第二百三十三　夜間射擊

第百七十二ニ準ス

三　夜間戰鬪

第二百三十四　夜間敵ニ對スル近接法

諸種ノ手段ヲ盡シテ連繫ヲ確實ニ保チ靜肅ニ且迅速確實ニ豫定ノ地點ニ到達スルヲ要ス

第二百三十五　夜間行動ノ要領

夜間ノ攻擊實行ハ特ニ周到ナル準備ヲ整ヘ我カ企圖ヲ祕匿センカ爲特ニ武裝ヲ堅確ニシ音響ヲ發セサル處置ヲ施シ成ルヘク記號ニ依リ運動ヲ行ヒ突入ノ外號令ヲ用ヒサルヲ可トス又燈火其他一切ノ火光

ヲ敵ノ視察ニ對シ隱匿スヘシ而シテ連繫ヲ確實ナラシメ且要スレハ彼我ノ識別ヲ容易ナラシムル爲標識ヲ爲シ合言葉ヲ定ムヘシ

第二百三十六　運動間ノ注意

夜間ノ運動ニ在リテハ他方面ノ銃聲又ハ喊聲ニ牽カレテ其行進方向ヲ換フルコトナキヲ要ス又前方ニ在ル者ハ特ニ其步度ト連絡トニ注意シ要スレハ時々停止シテ連絡及秩序ヲ恢復スヘシ

行進中敵ノ有效射擊ヲ受ケ又ハ照明セラレタルトキハ其效力ヲ減殺スル爲一時停止シ若ハ其蔭影ヲ利用スルヲ可トスルコトアリ

第二百三十七　中隊ノ攻擊隊形

夜間ニ於ケル中隊ノ攻擊隊形選定ノ要ハ指揮掌握確實ニシテ正面ニ對シ多クノ銃劍ヲ使用シ得且成ルヘク運動容易ニシテ要スレハ敵火ノ損害ヲ減少シ得ル爲中隊縱隊、併立縱隊、分隊ノ側面縱隊ヲ併列セル小隊ヲ併列若ハ重疊シタル隊形、狀況特ニ敵陣地ノ狀態、地形、明暗ノ度等ニ應シ適宜之ヲ選擇スヘシ

輕機關銃分隊ハ主トシテ奪取セル陣地ノ確保ニ用フヘキモノナルモ時トシテ戰鬪中側方ヨリスル敵ノ逆襲部隊ニ對シ機ニ應シ射擊セシムルヲ可トス

第二百三十八　攻擊實施

夜間ノ攻擊ニ在リテハ中隊長ハ中隊ノ先頭ニ位置シ記號ニ依リ中隊ヲ指揮誘導シ通常火戰ヲ交フルコトナク敵前至近ノ距離ニ近接シ不意ニ敵陣地ニ突入スルヲ可

トス之カ爲要スレハ豫メ裝塡ヲ禁止スヘシ

攻擊前進中敵ノ斥候又ハ監視者等ニ遭遇セハ警戒ノ爲配置セラレアル我カ斥候ハ之ヲ急襲シ又中隊長ハ若干ノ斥候群ヲ豫メ手裡ニ存シ所要ニ應シ之ヲ使用スル等適宜ノ處置ヲ爲シ中隊ハ特ニ團結ト靜肅トヲ保持シ之ニ關與スルコトナク極力企圖ノ祕匿ニ勉メ若突入前敵ニ發覺セラルルニ至レハ遲疑スルコトナク突擊ヲ斷行スヘシ

突擊ハ喇叭ヲ吹奏スルコトナク之ヲ行フモノトス但時トシテ喊聲ヲ發セシムルコトアリ

第二百三十九　夜間防禦ノ要領

一、必要ニ應シ最初ヨリ第一線ノ兵力ヲ增加シ各支點每ニ各當面ノ敵ヲ防禦セシム

二、火網ハ至近ノ距離ニ於テ熾盛ナル火力ヲ發揚スル如ク定ム

三、支點ハ射擊威力ヲ發揚スルニ妨ケナキ限リ勉メテ兵力ヲ集結シ指揮掌握ヲ確實ニシ白兵戰ヲ有效ニ實施ス

四、豫備隊ハ逆襲ニ使用スコレカ爲集結シテ第一線ノ後方近クニ位置セシム

五、不意ニ突擊ヲ受ケサル如ク搜索警戒ヲ嚴ニシ隣接部隊ト密接ニ連絡シ又陣地前ノ照明ノ手段ヲ講ス

六、障碍物ヲ設備ス

七、敵我カ陣地ニ近接シテ工事ヲナスカ或ハ障碍物ヲ破壞スルヲ偵知セハ一部ヲ以テ出擊スルカ或ハ射擊ヲ以テ之ヲ

妨害シ障碍物ノ破壞セラレタル部分ハ機ヲ失セス之ヲ補修スルコトニ勉ム

八、敵至近ノ距離ニ達セハ支點ヲ守備スル者ハ沈著シテ之ニ猛烈ナル射擊ヲ加ヘ或ハ手榴彈ヲ投シ之ヲ擊退シ敵愈〻咫尺ノ地ニ來ルヤ銃劍ヲ揮ヒ奮鬪之ヲ擊滅ス

九、敵若シ我カ陣地ニ突入セハ各部隊ハ極力其陣地ヲ固守シ援隊豫備隊ヲ以テ逆襲シ之ヲ擊滅ス

第二百四十　夜間ノ追擊ノ要領

夜間ノ追擊ニ在リテハ中隊長ハ特ニ部下ノ掌握ヲ確實ニシ前方及側方ヲ警戒シ常ニ接戰ヲ準備シ斷乎トシテ前進スヘシ

第二百四十一　夜間退却ノ要領

敵ニ近接シタルトキ夜間退却ヲ爲スニハ特ニ細心ノ注意ヲ以テ我カ企圖ヲ察知セラレサルコト緊要ナリ之カ爲敵ノ搜索ヲ妨害スルノミナラス日沒前ニ於ケル部隊ノ移動ヲ避ケサルヘカラス

退却ヲ實施スルニ方リテハ第一線ニ一部ヲ殘置シ以テ我カ退却ヲ祕匿スルヲ可トス最前戰ニ殘留スル部隊ハ警戒ヲ嚴ニシテ敵ノ斥候ノ搜索潛入ヲ妨ケ且諸種ノ手段ヲ盡シテ敵ヲ欺騙シ又ハ逆襲ヲ行フ等我カ企圖ヲ秘匿スルト共ニ飽クマテ其位置ヲ保持シテ主力ノ退却ヲ容易ナラシメサルヘカラス

第四編　射擊及距離測量

要則

第二百四十二　目的

射擊練習ノ目的ハソノ技倆ヲ練磨スルト共ニ本教育ニヨリ透徹清明ナル心神ヲ以テ嚴正確實ニ事ヲ處スルノ良習ヲ馴致スルニ在リ故ニ實施ニ於テ之カ目的ノ達成ニ細心意ヲ用フルヲ要ス

距離測量ハ推理判斷力ヲ養ヒ視力ノ練習ヲナシ興味ト實益トヲ併セ收ムルモノナルヲ以テ機會ヲ求メテ實施スルヲ可トス

第二百四十三　兵器ノ尊重

射擊教育ト共ニ學生生徒ニ兵器ヲ尊重愛護スルノ精神ヲ注入シソノ手入、保存、取扱ニ細心注意ヲ拂ヒ常ニ其機能ヲ完全ナラシムルヲ要スコレ命中ヲ良好ナラシメ射擊教育上必要ナルノミナラス武士的精神ヲ養成スル上ニ於テモ極メテ肝要ナリ

第一章　射擊ニ關スル定說

一　彈道及照準具

第二百四十四　彈丸ノ發射

引鐵ヲ壓スルヤ撃茎前進シテ雷管ヲ衝キ裝藥ニ點火ス此際發セル火藥瓦斯ノ壓力ハ彈丸ヲ銃腔中ニ壓進シ某速度ヲ以テ銃腔外ニ射出ス其銃口ニ於ケル彈丸ノ速度ヲ初速（ショソク）ト謂フ

第二百四十五　彈道

發射セラレタル彈丸重心ノ過クル線ヲ彈道ト謂ヒ其形狀ハ重力、空氣抗力、彈丸ノ速度及旋動竝銃ノ傾度等ニ關係ス

重力ハ飛行スル彈丸ヲ落下セシムルモノニシテ其落下尺度ハ經過時間ト共ニ增加ス空氣抗力ハ絶エス彈丸ノ飛行速度ヲ減シ同距離ヲ經過スルニ漸次長時間ヲ費スニ至ラシム之カ爲彈道ハ曲線狀ヲ成シ其彎曲ノ度ハ銃口ヲ遠サカルニ從ヒ益〻甚シク其最高點ハ銃口ヨリ概ネ射距離ノ五分ノ三ノ所ニ在リ而シテ彈道ノ某點ニ於ケル彈丸ノ速度ヲ其點ノ存速ト謂フ

銃口ニ通スル水平面ノ某點ヨリ彈道ニ至ル高サヲ其距離ニ於ケル彈道高ト謂ヒ其最高點ノ高サヲ最高度ト謂フ銃口ヨリ最高點ニ至ル彈道ノ部分ヲ昇弧ト謂ヒ最高點ヨリ落點ニ至ル部分ヲ降弧ト謂フ（第二十九圖參照）

第二百四十六　銃身ニ腔綫ヲ施ス理由及定偏

彈丸ヲシテ絶エス其尖頭ヲ前方ニ維持セシメ終始規正ノ彈道ヲ畫カシメンカ爲銃身ニ腔綫ヲ施シ以テ飛行間其長軸ノ周圍ニ旋動ヲ爲サシム彈丸ノ旋動ハ彈丸ヲシテ其腔綫旋回ノ方側ニ偏移セシムルモノニシテ其射面（銃身軸ヲ含ム垂直面）ヨリ離隔スル量ヲ定偏ト謂ヒ射距離ノ增加ス

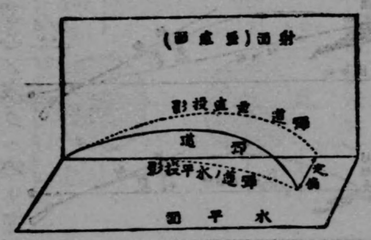
第二十九圖

ルニ從ヒ其量大トナルモノナリ小銃ノ定偏ハ右方ニ生スルモ照準具ハ所要ノ修正ヲ施シアルヲ以テ近距離ノ目標ヲ射撃スル場合ニ於テ之ヲ顧慮スルヲ要セサルモノトス（第三十圖參照）

第二百四十七　照準具

彈丸ヲ目標ニ命中セシムルニハ射線（銃身軸ノ延線）ヲ目標ノ上方ニ向ハシメサルヘカラス其高上ノ度ハ彈丸ノ目標ニ達スル時間ニ落下スル長サニ等シ（第三十一圖參照）

第二十九圖



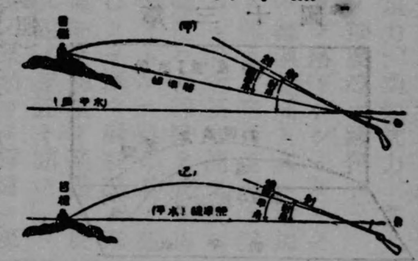
各射距離ニ應スル傾度ヲ銃身ニ附與シ且照準ヲ行フ爲銃身上ニ照準具ヲ備フ照準具ハ照星及照尺ヨリ成リ照尺ニハ照門ヲ備フ

照門上緣ノ中央ヨリ照星頂ヲ通視スル直線ヲ照準線、一點ニ照準線ヲ向クルヲ照準、照準線ヲ向クル點ヲ照準點、射線

第三十一圖

ト照準線トノ成ス角ヲ照準角、射線ト水平面トノ成ス角ヲ照準角ト謂フ照準線水平ナルトキハ照準角ハ射角ト等シキモノナリ（第三十二圖參照）

第三十二圖



二　射擊上天候氣象ノ感及

第二百四十八　空氣ノ濃淡ノ感及

空氣ノ濃淡即チ氣壓及氣溫ノ高低等ハ彈丸ニ對スル空氣抗力ニ差異ヲ生シ射距離ヲ增減ス而シテ照尺度ハ氣壓七百六十粍氣溫攝氏十五度天候靜穩ナルトキヲ基準トシテ決定シタルモノナリ

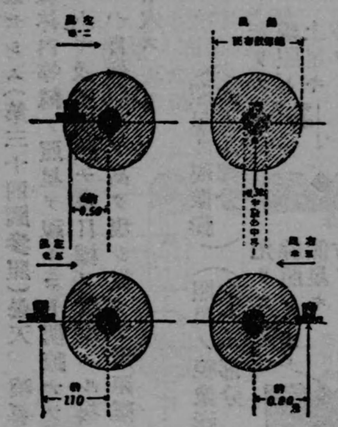
空氣ハ土地ノ高サヲ增シ氣溫ノ上昇スルニ伴ヒ稀薄トナルモノニシテ標高三百米ノ高地ハ氣壓三十粍ノ減少ヲ來シ射距離ニ及ス影響ハ氣溫約十度ノ上昇ニ等シ而シテ基準氣溫ニ比シ十度ノ差ハ射距離五百米ニ於テ其彈著點上下ニ約十糎、遠近ニ約十五米ヲ轉移スルニ過キス故ニ近距離ニ於テハ通常照尺ヲ修正スルヲ要セサルモノトス

第二百四十九　風ノ感及

後方或ハ前方ヨリ來ル風（縱風）ハ射距離ヲ增減シ側方ヨリ吹ク風（橫風）ハ彈丸ヲ側方ニ偏セシム其量ハ射距離及風速ノ增加スルニ從ヒ益〻大ナリ每秒五米ノ速度ヲ有スル縱風ハ射距離五百米ニ於テ約一米、射距離千米ニ於テ約七米ノ增減ヲ生ス而シテ風速十米ナルモ增減量ハ其二倍トナルニ過キサルヲ以テ通常修正ヲ要セス然レトモ橫風ノ彈丸ニ及ス影響ハ比較的大ニシテ修正ヲ要スルモノトス（第三十三圖參照）

第三十三圖

射距離五百米ニ於ケル橫風ノ影響（三八式步兵銃ニ就キ例示ス）

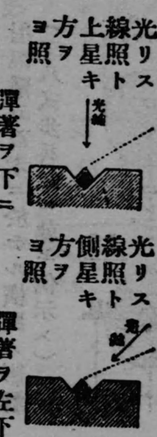


第二百五十　光線ノ感及

光線上方ヨリ照星ヲ照ストキハ射手ノ眼ニ映スル視像大トナルヲ以テ自然照星ヲ低ク照門內ニ現レ射距離ヲ減ス若側方ヨリ之ヲ照ストキハ照星ノ輝ク方ノ視像他ノ方ヨリ膨大スルカ故ニ其膨大セル部ヲ以テ照準シ自ラ眞ノ照星頂ヲ一側ニ偏シテ照門內ニ現シ彈丸ヲシテ暗黑ナル方ニ

偏セシム(第三十四圖參照)曇天、曉暮、森林内等總テ照星ヲ視ルコト明瞭ナラサルトキ及不明瞭ナル目標ヲ射擊スル場合ニハ自然照星ヲ高ク現シ從ツテ射距離ヲ增大ス

第三十四圖



三 射彈ノ散布

第二百五十一 集束彈道

彈丸ハ諸種ノ原因ニ因リ縱ヒ同一ノ銃ヲ用ヒ銃身ノ位置方向ヲ同一ニシテ射擊ヲ行フモ每發其彈道ヲ同シクセス某範圍内ニ散布スヘシ而シテ多數ノ彈丸ヲ發射スルトキハ其彈道ハ恰モ束藁ノ如ク曲圓錐形ヲ成スモノニシテ射彈ハ中央ニ近ツクニ從ヒ益〻稠密トナルモノトス之ヲ集束彈道ト謂フ

第二百五十二 射彈散布ノ原因

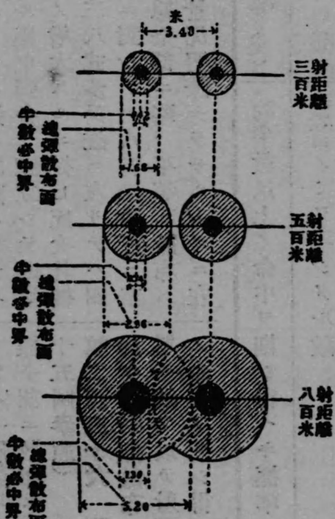
射彈散布ノ原因ハ銃器及彈藥構造上ノ差異、天候、氣象ノ影響、目標ノ明暗竝射手ノ照準、擊發時ニ犯ス過誤ニ依ルモノニシテ又射擊位置、姿勢、體力、精神狀態、射擊速度ニモ關係ス就中操作ノ不良ニ起因スルモノハ其影響甚モ甚シキモノトス

第二百五十三 間隙射擊

小銃、輕機關銃ヲ以テ友軍ノ間隙ヲ通シテ射擊スルニハ射彈ノ散布ニ鑑ミ友軍ニ危害ヲ及ササル爲照準線ヲ其翼ヨリ左ノ如ク離隔セシムルヲ要ス

第三十五圖

散兵目標ニ對スル射彈散布ノ景況
(三八式歩兵銃ニ就キ例示ス)



射擊位置ト友軍トノ距離		
同	五十米以内	三米
同	百米以内	四米
同	百五十米以内	五米

第二百五十四 超過射擊

小銃、輕機關銃ヲ以テスル超過射擊ハ射擊位置ト友軍トノ距離通常百五十米以内ニ在リテ照準線友軍ノ頭上三米以上ニ通スル場合ニ於テ實施スルコトヲ得

第二百五十五 散兵目標ニ對スル射彈ノ散布狀態

間隙大ナル散兵目標ニ

對シテ射擊スルトキハ近キ距離ニ於テハ各目標ニ對スル集束彈各〻獨立シテ凝集スルモ射距離ノ增大スルニ從ヒ逐次其被彈面ヲ擴大シ三八式歩兵銃ニ在リテハ四歩間隔ノ散兵ニ對シテハ八百米附近ニ至リ射彈ハ目標線全部ニ略〻平等ニ散布ス而シテ目標ノ景況明瞭ナラサルトキニ在リテハ一層近キ距離ニ於テモ射彈ハ目標線全部ニ散布スルニ至ルモノトス（第三十五圖參照）

第二百五十六　單一銃ヲ以テスル射擊ニ於ケル射彈散布

單一銃ヲ以テ射擊シ發射彈ノ約半數以上ノ命中ヲ期シ得ヘキ標準左表ノ如シ

距離（米）	約半數以上ノ命中ヲ期シ得ヘキ標準	摘要
二〇〇	頭首ノミヲ現シタル敵	
三〇〇	伏姿敵	
四〇〇	膝姿敵	
五〇〇	立姿敵或ハ密集セル二人膝姿敵	騎銃ニハ適用セス
六〇〇	密集セル二人立姿敵或ハ乘馬敵	同右
備考	本表ハ中等射手ヲシテ平靜ナル狀態ニテ射擊セシメタル結果トス	

第二百五十七　危險界

彈道ノ目標高ヲ超過セサル地界ノ長サヲ危險界ト謂ヒ其長短ハ射距離、目標高及地形殊ニ目標所在地ノ傾斜、射擊位置ト目標位置トノ比高等ニ依リ變化スルモノナリ（第三十六圖參照）被彈地ノ縱長ニ最下彈道ノ危險界ヲ合シタル地域ヲ掃射地帶ト謂フ

第二百五十八　遮蔽界、安全界

掩護物ノ基脚ヨリ其頂點ヲ通過スル彈道ノ彈著點ニ至ル距離ヲ遮蔽界、遮蔽界中目標ノ全部危險ヲ免ルルヲ得ヘキ地界ヲ其目標ノ安全界ト謂フ

安全界ノ長サハ掩護物ノ高サ落角ノ大小及目標ノ高サニ應シテ變化スルモノニシテ彈道ノ低伸スルニ從ヒ同一掩護物ニ對シテモ其安全界ヲ增スモノナリ故ニ近キ距離ニ於テハ小ナル地物ト雖モ之ヲ利用セハ大ナル價値アルモノトス

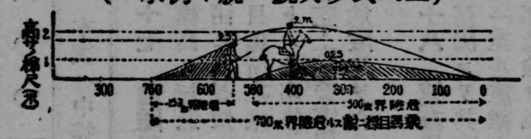
第二章　射擊豫行演習

一　要旨

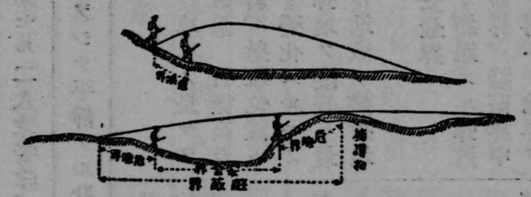
第二百五十九　目的

第三十六圖

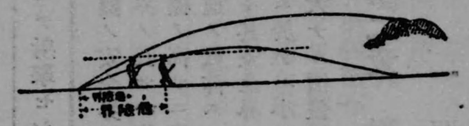
(甲)射距離及目標高ニ關スル危險界
(三八式歩兵銃ニ就キ例示ス)



(乙)地形ト危險界ト關係



(丙)射撃位置ト危險界ト關係



射撃豫行演習ノ目的ハ射手ヲシテ据銃(銃ヲ肩ニ著クルコト)照準及撃發(引鐵ヲ壓スルコト)ノ要領ヲ修得セシメ以テ射撃術ノ基礎ヲ作リ且諸種ノ目標ニ對シ各種ノ狀態ニ於ケル射撃ヲ練習セシメ益〻其技倆ヲ進歩上達セシムルニ在リ

第二百六十　實施ノ順序方法

射撃豫行演習ハ立射、膝射、伏臥ヲ以テ基礎ノ教育ヲ行ヒ以テ胸墻

及各種ノ地形、地物ヲ利用スル射撃動作ヲ教育シ射手ノ習熟スルニ從ヒ漸次距離ヲ大ニシ終ニハ實距離ニ設置セル目標ニ對シ各種ノ姿勢ヲ以テ之ヲ行フヲ要ス

二　照準

第二百六十一　照尺ノ用法

照尺ヲ裝スルニハ右手ノ拇指ト食指トヲ以テ遊標ノ兩端ヲ撮ミ食指ヲ以テ遊標駐鉤ヲ壓シ遊標ノ上緣ヲ正確ニ表尺板上所望ノ分畫ニ裝置シ表尺板ヲ起スモノトス

照尺ヲ復スルニハ概ネ裝スルトキト反對ノ方法ニ依ル

照尺ハ遊標ヲ最下位ニシ表尺板ヲ倒シタル時三百米、其儘垂直ニ起シタル時五百米、遊標ヲ最上位ニセシ時四百米其他ハ遊標ノ上緣ヲ表尺板ノ刻線ニ一致セシメ所望ノ距離ニ裝スルモノトス

第二百六十二　照準ノ要領

照準ハ如何ナル場合ニ於テモ正確ナラサルヘカラス照準ヲ行フニハ距離ニ適應スル照尺ヲ採リ銃ヲ左右ニ傾クルコトナク照準線ヲ正シク照準點ニ向クルモノトス

照門ヨリ照星ヲ現スノ度ハ常ニ一定ナルヲ要ス卽チ照星頂ヲ照門ノ中央ニシテ其兩緣ト水平ナラシムルモノトス(第三十七圖參照)

第三十七圖

●ハ表尺脚直下ノ銃身軸
○ハ照星頂直下ノ銃身軸

第二百六十三　照準練習法

照準ノ要領ヲ會得セシムルニハ銃ヲ適當ノ臺上ニ置キ約十米ノ距離ニ在ル中徑二糎ノ黑點ノ下際ニ正シク照準シタル景況ヲ知得セシムる之カ爲要スレハ適宜身體ヲ支持セシメ以テ銃ニ觸ルルコトナク左眼ヲ閉チ右眼ヲ以テ床尾踵ノ後方ヨリ先ツ照門ノ兩緣水平ナリヤ否ヤヲ檢シ然ル後中央ヨリ照準頂ヲ通視セシム照準ハ左眼ヲ閉チ右眼ノミニテ行フモノトス然レトモ兩眼ヲ開クニアラサレハ照準シ得サル者ハ之ヲ禁スルヲ要セス

第三十八圖

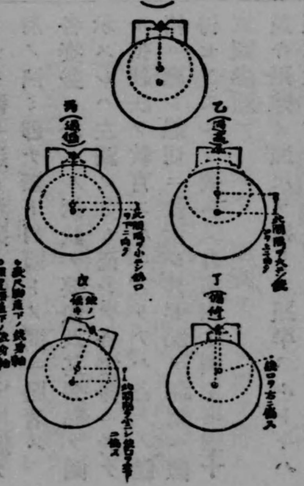
正シキ照準ノ景況ヲ知得セハ各自ニ臺上ニ在ル銃ニ就キ照準ノ練習ヲ爲サシム（第三十八圖參照）

第二百六十四　照準鑑査法

照準ノ正否ヲ檢スルニハ照準鑑査法ヲ行フ其方法ハ銃ヲ臺上ニ置キ白紙ヲ貼リタル標的ヲ約十米ノ距離ニ設置シ之ニ對シ射手ヲシテ先ツ照準線ヲ指向セシメ次ニ助手ノ現ス鑑査的（中心ニ細孔ヲ穿チタル中徑二糎ノ黑圓板ニ細竿ヲ附シタルモノ）ノ下際ヲ照準線ノ達スル點ニ導カシム之ヲ終レハ助手ハ鉛筆ヲ以テ鑑査的ノ中心ヲ記シ然ル後少シク之ヲ移動ス射手ハ銃ニ觸ルルコトナク以前ノ照準線ヲ取リ助手ヲシテ鑑査的ヲ動カサシメ前項ト同法ニ依リ再ヒ其中心ヲ記サシム斯ノ如クセハ多少隔リタル二點ヲ得ヘシ其

距離ノ大小ハ照準常ニ一樣ナリヤ否ヤヲ判明シ得ルモノニシテ此二點ノ中央ニ鑑査的ノ中心ヲ一致セシメ射手ノ照準シタル銃ヲ動カスコトナク其照準線ハ正シク鑑査的ノ下際ニ導カレアリヤ否ヤヲ點檢シ之ニ依リ照準ノ正否ヲ檢スルモノトス而シテ其離隔ノ最六粍以上ナルトキハ尙一回行ハシメ三點ヲ以テ點檢スルヲ可トス

第三十九圖



第二百六十五　照準誤差ト其結果

照準ノ際生シ易キ諸種ノ照準誤差ハ左ノ如キ結果ヲ來ス

照星ノ現出過高ナルトキハ彈著ヲ高カラシメ之ニ反シ過低ナルトキハ彈著ヲ低カラシム照星ノ現出照門ノ一側ニ偏倚スルトキハ其偏倚シタル方ニ彈著ヲ偏セシム銃ヲ右或ハ左ニ傾ケテ照準スルトキハ銃ノ傾キタル方ニ彈著ヲ偏シ且低カラシム（第三十九圖參照）

第二百六十六　照準ニ關スル注意

照準時間ノ永キコト及不正ノ照準ハ固辭

トナリ易キヲ以テ當初ヨリ特ニ嚴密ニ矯正スルコト緊要ナリ

三　射擊ノ方法

第二百六十七　射擊姿勢ヲトル時ノ注意

射擊ノ姿勢ハ身體ヲ凝ルコトナク堅確ニ保チ自然ノ狀態ニ在ルヲ要ス否ラサレハ銃ノ安靜ヲ得サルノミナラス照準頗ル困難ナリ而シテ被服及裝具ノ身體ニ適合セサルコトモ亦射手ノ動作ヲ妨害スルモノトス

第二百六十八　射擊教育上ノ注意

最初ニ射擊術ノ要領ヲ教フルニハ依托セル立射ノ姿勢ヲ用フルヲ便トス

第二百六十九　据銃ノ方法

据銃ノ要ハ照準、擊發間銃ヲ動揺セシメサル如ク之ヲ臂上ニ安定セシムルニ在リ据銃スルニハ兩手ヲ以テ銃口ヲ上クルコトナク體ニ近ク迅速ニ銃ヲ上ケ床尾鈑ヲ肩ノ凹ミ卽チ襟ト肩頭トノ間ニ壓著ス

各姿勢ニ於ケル据銃ノ要領及其要點ヲ圖示スレハ左圖ノ如シ而シテ各姿勢ニ於ケル据銃法ヲ教育スルニ方リテハ各人ノ體格ニ應シ懇切ニ教示シ其要點ヲ深刻ニ體得セシムルヲ要ス（自第四十圖至第四十五圖參照）

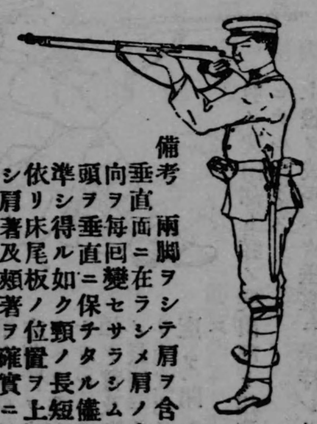
遠キ距離ノ照尺ヲ採リテ照準スルトキハ照尺度ノ增加ニ從ヒ漸次床尾鈑ノ位置ヲ下方ニシ右手ヲ以テ銃把ヲ漸次下方ヨリ一層確實ニ握リ左手ヲ用心鐵ニ近ツクルヲ要ス此場合射手ノ體格ニ依リ左掌ヲ內方ニ向クルモ妨ケナシ然レトモ何レノ場

合ニ於テモ頭ハ殆ト自然ノ位置ニ在ルヲ要ス

第四十圖
立射ニ於ケル据銃　其一　正面

備考　据銃シタルトキ銃ハ概ネ目標ニ指向セラレアルヲ要ス（膝射、伏射ニ在リテモ亦同シ）
右肘ハ概ネ肩ノ高サ
左肘ハ成ルヘク垂直ナラシムルヲ可トスルモ體格ニ依リ過度ニ之ヲ垂直ナラシムレハ半右向ノ角度大トナリ肩著ヲ困難ナラシム

第四十一圖
立射ニ於ケル据銃　其二　左側面



備考　兩脚ヲシテ肩ヲ含ム垂直面ニ在ラシメ肩ノ方向ヲ每回變セサラシム
頭ヲ垂直ニ保チタル儘照準シ得ル如ク頸ノ長短ニ依リ床尾板ノ位置ヲ上下シ肩著及頰著ヲ確實ニス
此際過度ニ肩ヲ壓シ又ハ故ラニ肩ヲ上ケ或ハ前ニ出シ身體ヲ凝固ナラシムヘカラス据銃シタル後右手ヲ緩メ又ハ床尾鈑ノ位置ヲ動カスヘカラス（膝射、伏射ニ在リテモ亦同シ）

第二百七十一　引鐵ノ引キ方

射手ニ擊發ノ方法ヲ敎フルニハ最初据銃スルコトナク引鐵ヲ引ク要領ヲ會得セシムルヲ可トス

第四十二圖
膝射ニ於ケル据銃　其一　正面

備考
左脚ハ成ルヘク垂直ニ近カラシムルヲ要スルモ過度ニ之ヲ要求スル左肘トトキハ肩著ヲ不可能ナラシム

右肘ハ概ネ肩ノ高サ

右股ヲ射面ニ對シ略ゝ直角ナラシメ肩ノ方向ヲ毎回變セサラシム

第四十三圖
膝射ニ於ケル据銃　其二　左側面

備考
上體ヲ垂直ニシ且左前臂ヲ成ルヘク垂直ニシナルヘク前臂ニ從ヒ左前臂ハ垂直ニ近接スルモ過度ニ之ヲ要スル

肘ノ突出部ト膝ノ突出部ト相接セサル如クス

上體ヲ成ルヘク垂直ニ保持シタル儘照準ヲ爲シ得ル如ク臂ノ長短ニ依リ左手ノ位置ヲ前後ス

第四十四圖　伏射ニ於ケル据銃
其一　正面

(イ)ノ位置ハ右肩、右眼及兩手ヲ含ムル垂直面ニ近接スル前臂ハ垂直ニ從ヒ左前臂ハ垂直ニ保ツキ銃ノ保持ノ利アルモ甚シク不便ナラシムルモノナリ即チ(イ)ハ伏射ノ姿勢ニ於ケル重要ナル位置ナルヲ以テ體格ニ應シ其位置ヲ慎重ニ決定スルヲ要ス

(イ)(ロ)ノ間隔廣キニ過クルトキハ上體ヲ起セス狹キニ過クルトキハ肩ノ位置ヲ高クナリテ据銃困難ナル故ニ中等ノ體格ニ於テハ(イ)(ロ)(ハ)(ニ)ノ四點ハ通常平行四邊形トナルヲ可トス

第四十五圖
伏射ニ於ケル据銃　其二
左側面

(ホ)ノ角度大ナルニ從ヒ左前臂ニ出テ銃ノ保持ヲ安定ナラシムルモ左前臂甚シク前ハ上體ヲ地面ニ接近シ据銃ヲ困難ナラシム

(ヘ)ノ角度ハ銃ノ保持ヲ安定ナラシムル爲四十五度以上ナルヲ要ス

引鐵ヲ引クニハ食指ノ運動ヲ臂ニ波及セシメサル爲右手ヲ以テ銃把ヲ確實ニ握リ食指ノ第二節或ハ第一節根ヲ引鐵ニ掛ケ

其第一段ヲ壓シ次ニ食指ノ前部二節ヲ曲ケテ第二段ヲ壓シ極メテ微弱ナル力ニテ終ニ擊發シ得ルニ至ラシム射手ハ引鐵ヲ壓スル爲力ヲ加フル要領ヲ熟知スルコト緊要ナリ若此要領ヲ十分理解セサル者アルトキハ幹部ハ射手ノ食指上ニ自己ノ食指ヲ添ヘテ引鐵ヲ壓シ其要領ヲ知得セシメ或ハ射手ヲシテ自己ノ食指ヲ以テ幹部ノ食指ヲ壓セシメ其要領ヲ理解シタリヤ否ヤヲ檢知スヘシ又引鐵ノ引方ノ適否ヲ容易ニ檢知スルニハ食指ノ前部二節ノ運動ニ能ク注意スルヲ可トス之カ爲幹部ハ通常射手ノ左側前ニ位置スルヲ適當トス

第二百七十一　据銃、照準、擊發ノ連繫

照準スルニハ据銃スルト共ニ右眼ヲ閉チ直ニ銃ヲ照準セントスル點ニ向ケ精密ニ照準ス擊發ノ要領ハ据銃ト同時ニ引鐵ノ第一段ヲ壓シテ呼吸ヲ止メ照準ヲ始ムルト共ニ躊躇スルコトナク第二段ヲ壓シ正シク照準シ得タルトキ擊發シ得ル如ク漸次ニ力ヲ加フルモノトス此要領殊ニ擊發瞬時ニ於ケル機微ナル動作ノ敎育ハ最モ綿密愼重ニ行ヒ之カ演練ノ完璧ヲ期セサル可カラス而シテ此敎育法ヲ誤ルトキハ眼心指ノ一致ヲ害シ或ハ徒ラニ擊發ノ好機ヲ求メントスル結果急激ニ引鐵ヲ壓シ又ハ照準時間ヲ延長シ却テ命中ヲ不良ナラシムルニ至ルコトアリ此種過失ヲ豫防シ且射擊時間ヲ短縮セシムル爲縱ヒ照準線正シク照準點ニ指向スルニ至ラサルモ依然引鐵ノ第二段ヲ壓シ照準線所望ノ照準點ニ近キ範圍ニ指向セラレアル間ニ於

テ隨時擊發スルニ至ラシムル方法ニ依リ敎育スルヲ有利トスルコトアリ

第二百七十二　豫言

擊發ノ直前ニ於テ照準線ノ達シタル方向ヲ確認シテ報告セシムルハ極メテ必要ナリ此報告ヲ豫言ト謂フ而シテ若之ヲ確認シ得サルトキハ其不明ナルコトヲ報告セシムヘシ此敎育法ハ射手ノ伎倆ヲ進歩セシムルニ頗ル有益ナルヲ以テ常ニ之ヲ勵行スルヲ要ス

敎育ノ初期ニ在リテハ擊發ノ後ト雖モ尙瞬時擊發ノ姿勢ヲ保チ射手ノ精神ノ沈著ヲ得シムルヲ可トス

第三章　狹窄射擊

第二百七十三　要旨

狹窄射擊ハ命中彈ニ依リ直ニ動作ノ可否ヲ證明シ射擊ノ動作殊ニ照準、擊發ノ要領ヲ演練スルニ有利ナルモノトス然レトモ過度ニ命中ノ良好ナランコトヲ求メ往々法則ト異リタル擊發法ヲ爲スノ惡習ヲ生スルコトアルヲ以テ指導上注意スルヲ要ス

本射擊ハ又射擊ノ嗜好心ヲ喚起セシムル爲ニ效果アルモノトス故ニ射擊敎育ノ進歩ニ伴ヒ隱顯シ移動シ射倒スル標的ヲ用ヒ或ハ競點射擊ヲ行ハシムル等種々ノ方法ヲ以テ之ヲ實施スルヲ可トス

狹窄射擊ハ第四章ニ述フル實彈射擊ニ準シ之ヲ行フモノトス

第二百七十四　射場位置害蟲防

狹窄射擊ハ狹窄射擊場ニ於テ通常射距離

十五米ニテ實施ス狹窄射撃場ノ危害豫防ニ關シテハ實彈射撃ノ危害豫防ニ準スモノトス野外等ニ於テ特種ノ目的ヲ以テ狹窄射撃ヲ行フトキハ射線ノ方向ニ六百米、横方向ニ三百米ノ危險區域ヲ設ケ此範圍ヲ警戒シ危害ノ豫防ヲ爲スヲ要ス

狹窄彈ノ最大射距離ハ約五百米ニシテ銃口前十五米ニ於ケル侵徹量ハ木材約六糎、砂約二十糎、尋常土約四十糎ナリ又高角度射撃ニ於テ落下シ來ル彈丸ノ活力ハ依然人體ニ危害ヲ及ホス虞アルモノトス

狹窄射撃(距離十五米)ニ於ケル照準點(米)

照尺	三八式歩兵銃		四四式騎銃		三八式騎銃	
三〇〇		〇・〇〇	上方	〇・〇六	下方	〇・〇五
四〇〇	下方	〇・〇二	上方	〇・〇四	下方	〇・〇七
五〇〇	下方	〇・〇四	上方	〇・〇一	下方	〇・一〇
六〇〇	下方	〇・〇七	下方	〇・〇二	下方	〇・一三
七〇〇	下方	〇・一〇	下方	〇・〇五	下方	〇・一六
八〇〇	下方	〇・一三	下方	〇・〇八		
九〇〇	下方	〇・一七	下方	〇・一四		

第二百七十五　照尺及照準點

狹窄射撃(距離十五米)ニ於ケル主要ナル照尺ニ應スル照準點ハ左表ノ如シ

一、〇〇〇	下方	〇・二一	下方 〇・一七
一、五〇〇	下方	〇・五〇	下方 〇・五五

備考　本表中ノ尺度ハ命中セシメントスル點ヨリ照準點ニ至ル間トス

第二百七十六　射撃前後ノ銃ノ手入

命中ヲ確實ナラシムル爲射撃前必ス銃腔ニ塗油スヘシ若同一銃ヲ以テ連續スル場合ニハ約五發毎ニ塗油スルヲ要ス又十五發發射後ハ腔内蠟劑蓄積スル爲命中著シク不良トナルヲ以テ十分ナル手入ヲ爲スニアラサレハ射撃セシメサルモノトス射撃ノ際彈丸腔銃ニ止ムルコトアラハ之ヲ除キタル後更ニ腔内ニ塗油スヘシ

第四章　實包射撃

一　要旨

第二百七十七　實包射撃ノ目的

實包射撃ニ在リテハ射手ヲシテ特ニ實彈射撃ノ眞味ヲ理解セシメ射撃術ノ進歩向上ヲ圖リ周密細心ノ著意ヲ敎養ス

第二百七十八　實施上ノ注意

射手ヲシテ射撃ニ對スル自信ヲ得シムル爲ニハ先ツ命中ノ良好ヲ期セサルヘカラス之カ爲命中不良ノ者アルトキハ克ク其原因ヲ探究シ之カ矯正法ヲ慎重ニ研究スルヲ要ス

第二百七十九　射撃場ノ取締、整理

射撃場ニ在ル演習團體ノ高級先任ノ將校ハ射撃場一般ノ取締ニ任スルモノトス各團體毎ニ設備掛ヲ設ケ射撃場ノ設備ニ任ス即チ標的其他所要材料ヲ準備シ必要ナル書類ヲ射撃場ニ携行シ諸勤務員ノ分擔ヲ定メ彈藥及藥莢ノ出納（彈藥掛トシテ二名位取リ專任セシムルヲ可トス）ヲ掌リ且射撃終レハ射撃場ヲ整理スルモノトス

二　射場ノ勤務及射手ノ動作

第二百八十　監視者

監視者トシテ發射地點毎ニ一名射手ノ傍ニ在リテ之カ教育ニ任シ且特ニ彈藥ノ裝塡、抽出及銃ノ安全裝置等ニ注意シ又射場ノ記號ニ對スル監的手ノ應答不確實ナルトキ之ヲ糺スヘシ

射撃演習演習ニ熟セル射手ト雖モ爆音反撞ニ慣レサルト過度ニ命中ニ焦慮シ撃發ノ好機ヲ失センコトヲ顧慮スル結果撃發直前ニ於テ右眼ヲ閉チ頭ヲ動カシ或ハ肩ヲ進メ又ハ手ヲ握リ締ムル等過失ヲ犯スコトアリ此動作ヲ矯正スルニハ射手ニ覺知セラレサル如ク不發彈ヲ裝塡シ或ハ全ク裝塡セサル銃ヲ與ヘテ射撃セシメ以テ自ラ其過失ヲ悟ラシムルヲ可トス此際向上法（照準線ヲ照準點ニ對シ下方ヨリ導キツツ絶エス引鐵ヲ壓シ縱ヒ照準線未タ照準點ニ到達セサルモ或ハ照準點ヲ通過スルモ之ニ介意スルコトナク照準線ノ移

動中ニ撃發ス）ヲ以テ撃發セシムルトキハ此過失ヲ矯正シ得ルコトアリ

補射若ハ試射ニ使用スル彈藥ハ直接彈藥掛ヨリ受領シ其出納ヲ確實ナラシムヘシ

發射ノ際異狀ノ音響ヲ發シ被甲破裂等ノ疑アリタルトキハ直ニ射撃ヲ中止セシメ銃腔ヲ檢査シ異狀ナキヲ確メタル後ニアラサレハ射撃セシメサルモノトス此際成ルヘク銃腔ノ手入ヲ爲サシムヘシ射撃終レハ命中成績等ノ記入ヲ點檢スヘシ

第二百八十一　監視者助手

監視者ニハ助手トシテ通常二名ヲ附ス其一名ハ射手ノ傍ニ位置シ監的手ノ記號ヲ視テ第二百八十二ノ規定ニ從ヒ命中成績ヲ記帳シ若シ射手ノ報告監的手ノ記號ト相違スル時ハ直ニ射手ニ注意シ又銃及彈藥ニ故障アリタル時、試射ヲ行ヒ誤ルトキ等ハ其ノ旨ヲ記入ス他ノ一名ハ監視者ノ命ニ依リ電話或ハ記號板（第四十六圖參照）ノ操作ニヨリ射場ト監的壕トノ連絡ニ任スルモノトス

第二百八十二　命中成績ノ登記法

一、命中成績ハ毎發ノ彈著、命中點數、發射彈總點、合否等ヲ記入ス數字ハ亞剌比亞數字ヲ用フ

二、命中セサル射彈及跳彈ノ命中セシモノハ〇ヲ以テ示シ合格ハ十不合格ハ一ヲ以テ示ス

第二百八十三　交代掛

交代掛トシテ若干名ヲ置ク交代掛ハ射手ヲ若干群ニ分チ各群ヲ各標的ニ配當シ銃ノ檢査ヲ行ヒ特ニ銃腔ニ異物附著シアラ

サルヤ否ヤヲ檢査シタル後各群ヲ各發射地點ノ後方約十歩ノ所ニ誘導シ彈藥掛ヨリ彈藥ヲ受領シテ之ヲ各射手ニ分配スルモノトス

各群ノ射撃進捗ニ伴ヒ交代ノ爲時間ヲ徒費セサル如ク新ニ射撃スヘキ射手ヲ前項ニ從ヒ準備シ又各群毎ニ射撃ヲ終リタルトキハ射手ヨリ藥莢ヲ受領シ之ヲ彈藥掛ニ返付シ銃及彈藥盒ヲ檢査シタル後各群ヲ舊位置ニ誘導スルモノトス

第二百八十四　射手ノ動作

一、射撃前ニ銃腔、遊底等ニ塗油シ異物ノ附著シアラサルヤヲ點檢ス

二、交代係ヨリ銃ノ檢査ヲ受ケタル後交代掛引率ノ下ニ發射位置ノ後方約十歩ノ所ニ一列横隊ニ整列シ彈藥ヲ受領ス

三、射撃ハ各群ヨリ一名ツヽ行フ發射位置ニ至ラハ記點手ニ自己ノ姓名ヲ告ク發射スレハ豫言ヲ爲シ銃ヲ構ヘ遊底ヲ開キテ藥莢ヲ出シタル後之ヲ閉チ命中點數及彈著ヲ報告ス射撃全ク終リタルトキハ銃ヲ安全裝置ニシ藥莢ヲ拾ヒ發射地點ノ後方十五歩ノ所ニ後退ス

四、裝塡、抽出及銃ノ安全裝置ハ總テ發射地點ニ於テ標的ニ對シテ行フモノトス

五、發火セサル彈藥アルトキハ徐ロニ遊底ヲ開キ彈藥ヲ廻ハシテ新位置ヲ取ラシメ再ヒ射撃スヘシ此ノ如クスルモ發火セサルトキハ監視者ハ雷管及撃鐸尖端ヲ檢シ要スレハ其彈藥ヲ他ノ射手ニ交付シテ射撃セシメ尚發火セサルトキ

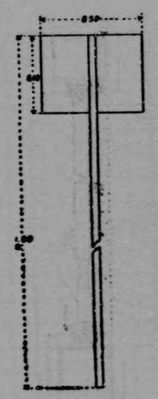
一ハ不發彈ト認定スヘシ

第二百八十五　監的動務

監的長トシテ取締者一名監的手トシテ各標的ニ二(三)名ヲ出シ適時交代セシムルモノトス

監的長ハ射撃中監的手ノ動作ヲ監視シ諸規定ヲ嚴正ニ履行シ且命中成績ノ報告ヲ正確ナラシメ又射場ノ記號ニ注意スヘシ

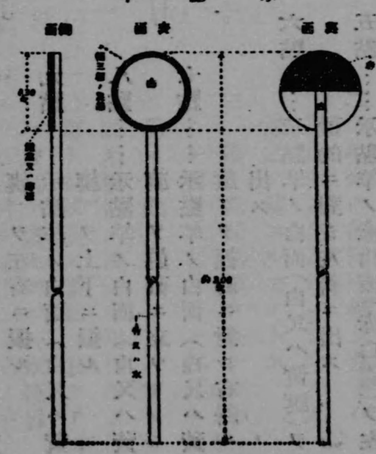
第四十六圖　記號板



備考　表面ハ白色ニ塗リ標的ニ應スル番號ヲ黑書シ裏面ハ赤色ニ塗リ記號ヲ記載ス

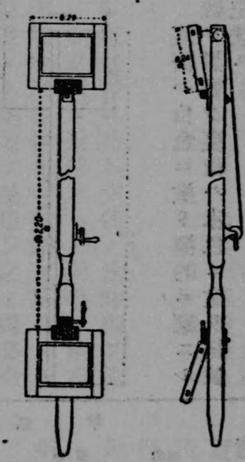
監的手ノ一名ハ示點竿手ニシテ通常示點竿(第四十七圖參照)ヲ以テ命中點數及彈著ヲ標示シ他ノ一名ハ治痕手ニシテ彈痕

第四十七圖　示點竿



備考　竿ノ長サハ壕ノ深サニ應シ定ム

第四十八圖



備考　桿ノ上方及下方ニ螺絲ヲ以テ任意ニ俯仰シ得ル如ク鏡ヲ附著シタルモノ

ヲ修理シ兼ネテ標的ノ操作ニ任ス（隱顯的各標的毎ニ操作スル場合ニ於テハ他ノ一名ノ監的手ハ隱顯ノ時機ヲ指示ス）

第二百八十六　命中點數及彈著ノ標示法

一、點數ノ示シ方

十點……示點竿ノ白面（白又ハ黃旗）ヲ左右ニ振ル

九點……示點竿ノ白面（白又ハ黃旗）ヲ上下ニ振ル

八點……示點竿ノ白面（白又ハ黃旗）ヲ眞直ニ立ツ

七點……示點竿ノ白面（白又ハ黃旗）ヲ標的ニ對シ右斜ニ出ス

六點……示點竿ノ白面（白又ハ黃旗）ヲ標的ニ對シ左斜ニ出ス

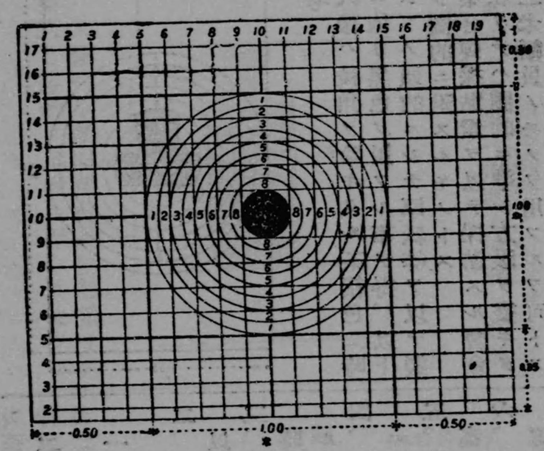
五點……示點竿ノ赤白面（赤白旗）ヲ左右ニ振ル

四點……示點竿ノ赤白面（赤白旗）ヲ上下ニ振ル

三點……示點竿ノ赤白面（赤白旗）ヲ眞

第四十九圖

的圈



備考

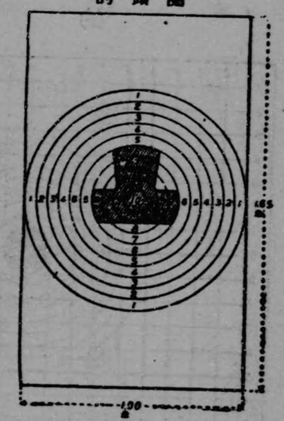
一、各圈線ノ間隔ハ總テ五糎トス

二、中央ノ黑點圈線及數字ハ黑色トス9及10ノ文字ハ通常之ヲ略スルモノトス

三、集合彈採點鏡ヲ以テ採點スル習會ニ在リテハ本圖ニ示スカ如ク方眼ヲ畫キタル二米幅員ノモノヲ用フルヲ可トシ其他ノ習會ニ在リテハ方眼ヲ畫カサル一米幅員ノモノヲ用フ

第五十圖

圖彈的



備考

一、人像ハ稜角ヲ除キタル茶褐色（時宜ニ依リ黑色ヲ用フル事ヲ得、以下同シ）ノ頭的ニシテ厚紙等ヲ以テ製作シ圖的ニ附スルモノトス

二、集合彈採點鐵ヲ以テ採點スル習會ニ在リテハ圖的ニ準シ方眼ヲ畫キタル二米幅員ノモノヲ用フルヲ可トス

直ニ立ツ

二點……示點竿ノ赤白面（赤白旗）ヲ標的ニ對シ右斜ニ出ス

一點……示點竿ノ赤白面（赤白旗）ヲ標的ニ對シ左斜ニ出ス

二、人像的ハ命中彈一發ヲ五點ノ記號ヲ以テ示ス

三、圖的及圖頭的ニ於テ圖外ニ彈著セシ時ハ示點竿ヲ圓形ニ振ツテ零ヲ示シタル後彈著ヲ示ス

四、標的外ニ射擊彈道逸シタルトキハ單ニ示點竿ヲ圓形ニ振リテ零ヲ標示ス

五、點數ノ限界線ニ命中シタル彈著ハ其高キ點ノ記號ヲ爲ス

六、跳彈ノ命中ハ圖的及圖頭的ノ圈外ニ彈著シタルトキト同一ノ記號ヲ爲ス

第五十一圖

膝蓋的

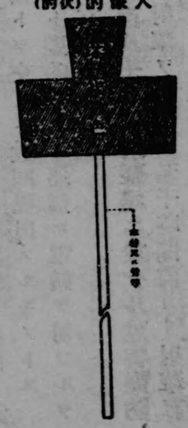
（跳彈ノ彈痕ハ通常圓形ヲ爲ササルモノナルヲ以テ精密ニ彈痕ノ形狀ニ注意スルヲ要ス）

備考

人像ハ小銃射擊教範附圖第十六正面的ノ膝的ノ尺度ニ準スルモノトス

第五十二圖

人像的（伏的）



備考

一、人像ハ小銃射擊教範附圖第十六正面的ノ尺度ニ依ルモノトス

二、柄ノ長サハ壕ノ深サニ應シ定ム

三　射擊場ニ於ケル通信及危害豫防

第二百八十七　射場監的壕間ノ通信連絡射擊ノ終始、中止並標的廻轉及命中點數、彈著ノ再示ノ要求等ヲ射場ヨリ監的壕ニ